

平成16年
福島県感染症発生動向調査事業報告書
(平成16年1月～12月)

平成17年2月

福島県感染症情報センター
(福島県衛生研究所)
福島県感染症情報解析委員会

はじめに

感染症発生動向調査は、平成11年4月の「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」の施行に基づき、各都道府県の「感染症発生動向調査事業実施要綱」によって実施されております。福島県におきましても「福島県結核・感染症発生動向調査事業実施要綱」により、平成13年7月から地方感染症情報センターを福島県衛生研究所内に設置して、県内の患者情報及び病原体情報を一元的に収集し、その解析と提供を行ってまいりました。

福島県における本事業の特徴は、各種定点となっていたいている協力医療機関の御理解と御援助によって、迅速かつ高感度な感染症発生動向調査になっていることであります。また、インフルエンザ迅速診断キットの結果も報告いただき、一元的に解析しております。この取り組みは定点医療機関及び医師会の御協力により可能となっています。

こうして、情報センターが収集・解析した情報は、週報・月報として定点医療機関や医師会等の関係機関に還元し、さらに、衛生研究所のホームページへ掲載することで、広く県民の皆様にも還元しております。

このたび、平成16年の事業報告書を発行いたしますが、定点医療機関をはじめ関係機関の御協力に深く感謝申し上げますとともに、本報告書を広く御活用いただき、県民の感染症予防に役立ただければ幸いです。今後とも、皆様方の一層の御指導、御協力をお願い申し上げます。

平成17年2月

福島県衛生研究所長 西田茂樹

平成16年福島県感染症発生動向調査事業報告書目次

福島県感染症発生動向調査事業実施概要

(1) 福島県感染症発生動向調査事業実施概要	1
(2) 福島県感染症情報センターの概念図	2

福島県感染症発生動向調査事業一～五類感染症全数把握及び五類感染症定点把握対象報告

(1) 一～五類感染症【全数把握】対象結果報告	3
(2) 一～五類感染症全数把握報告調査結果(福島県・全国)	8
(3) 五類感染症【定点把握】対象結果報告	9

検査情報

(1) 平成16年感染症発生動向調査事業報告(ウイルス)	38
(2) 平成16年感染症発生動向調査事業報告(細菌)	46
(3) 03/04シーズンの県内におけるインフルエンザの流行状況	52

資料

(1) 福島県結核・感染症発生動向調査事業実施要綱	59
別表1 全数把握の対象	64
別表2 定点把握の対象	65
別表3 全数把握五類感染症病原体検査の対象	65
別表4 定点把握五類感染症患者定点の種類及び対象	66
別表5 定点把握五類感染症病原体定点の対象	67

【別記様式一覧】

別記様式1	一類感染症、二類感染症及び三類感染症発生届出票	68
別記様式2	一類感染症、二類感染症、三類感染症、 四類感染症及び五類感染症検査票(病原体)	69
別記様式3	四類感染症発生届出	70
別記様式4	一類感染症、二類感染症、三類感染症及び 四類感染症保健所報告項目(患者)	71
別記様式5-1	五類感染症発生届出(クロイツフェルト・ヤコブ病、 後天性免疫不全症候群、先天性風疹症候群を除く)	72
別記様式5-2	クロイツフェルト・ヤコブ病発生届	73
別記様式5-3	後天性免疫不全症候群発生届(HIV感染症を含む)	74
別記様式5-4	先天性風しん症候群発生届	75
別記様式6	五類感染症(全数把握対象)保健所報告項目(患者)	76
別記様式7	感染症発生動向調査(小児科定点)	77

別記様式 8 - 1	感染症発生動向調査（インフルエンザ定点）	78
別記様式 8 - 2	発生動向調査（インフルエンザ迅速診断キット 測定状況報告）	79
別記様式 9	感染症発生動向調査（眼科定点）	80
別記様式 10	感染症発生動向調査（STD定点）	81
別記様式 11	感染症発生動向調査（基幹定点）	82
【福島県感染症発生動向調査指定届出医療機関一覧（患者定点）】		 83
(2) 福島県病原体検査実施要領		 87
(3) 福島県感染症発生動向調査企画委員会設置要領		 90
(4) 福島県感染症発生動向調査情報解析委員会設置要領		 92

福島県感染症発生動向調査事業実施概要

福島県感染症発生動向調査事業実施概要

1 実施体制

(1) 福島県結核・感染症発生動向調査事業実施要綱等

本事業の実施に関わる要綱等は、本誌 資料に掲げるとおりである。

(2) 指定届出医療機関（定点選定）

福島県結核・感染症発生動向調査事業実施要綱に基づき、指定届出医療機関【患者定点；小児科：48 定点〔対象感染症のうち、福島県結核・感染症発生動向調査事業実施要綱別表 1 (59) から (71) までに掲げるものについては、小児科を標榜する医療機関を小児科定点として指定する。〕、インフルエンザ：80 定点〔対象感染症のうち、福島県結核・感染症発生動向調査事業実施要綱別表 1 (72) については、前記で選定した小児科定点に加え、内科を標榜する医療機関を内科定点として指定し、両者を合わせてインフルエンザ定点とする。〕、眼科：12 定点〔対象感染症のうち、福島県結核・感染症発生動向調査事業実施要綱別表 1 (73) 及び (74) については、眼科を標榜する医療機関を眼科定点とする。〕、STD：16 定点〔対象感染症のうち、福島県結核・感染症発生動向調査事業実施要綱別表 1 (75) から (78) については、産婦人科又は産科若しくは婦人科、性病科又は泌尿器科を標榜する医療機関を性感染症定点とする。〕、基幹：7 定点〔対象感染症のうち、福島県結核・感染症発生動向調査事業実施要綱別表 1 (79) から (86) については、患者を 300 人以上収容する病院（小児科医療と内科医療を提供しているもの）を各 2 次医療圏域毎に一カ所以上、基幹定点とする。〕、及び病原体定点：21 医療機関〔各選定された患者定点の概ね 10% を病原体定点とする。〕を選定する。

(3) 福島県感染症発生動向調査企画委員会

本事業の実施の推進を図るため、福島県感染症発生動向調査企画委員会を、福島県結核・感染症発生動向調査事業実施要綱により設置する。

(4) 福島県感染症情報解析委員会

収集した患者情報及び病原体情報を、より専門的な観点から解析、提供を行うため、福島県感染症発生動向調査企画委員会のもとに福島県感染症情報解析委員会を設置する。

2 実施状況

(1) 情報収集

ア 福島県結核・感染症発生動向調査事業実施要綱により、患者定点として選定された医療機関は、調査単位が週（月曜日から日曜日まで）の場合は調査対象週の翌週の月曜日までに、月単位の場合は調査対象月の初日までに、FAX 等で保健所に送信する。

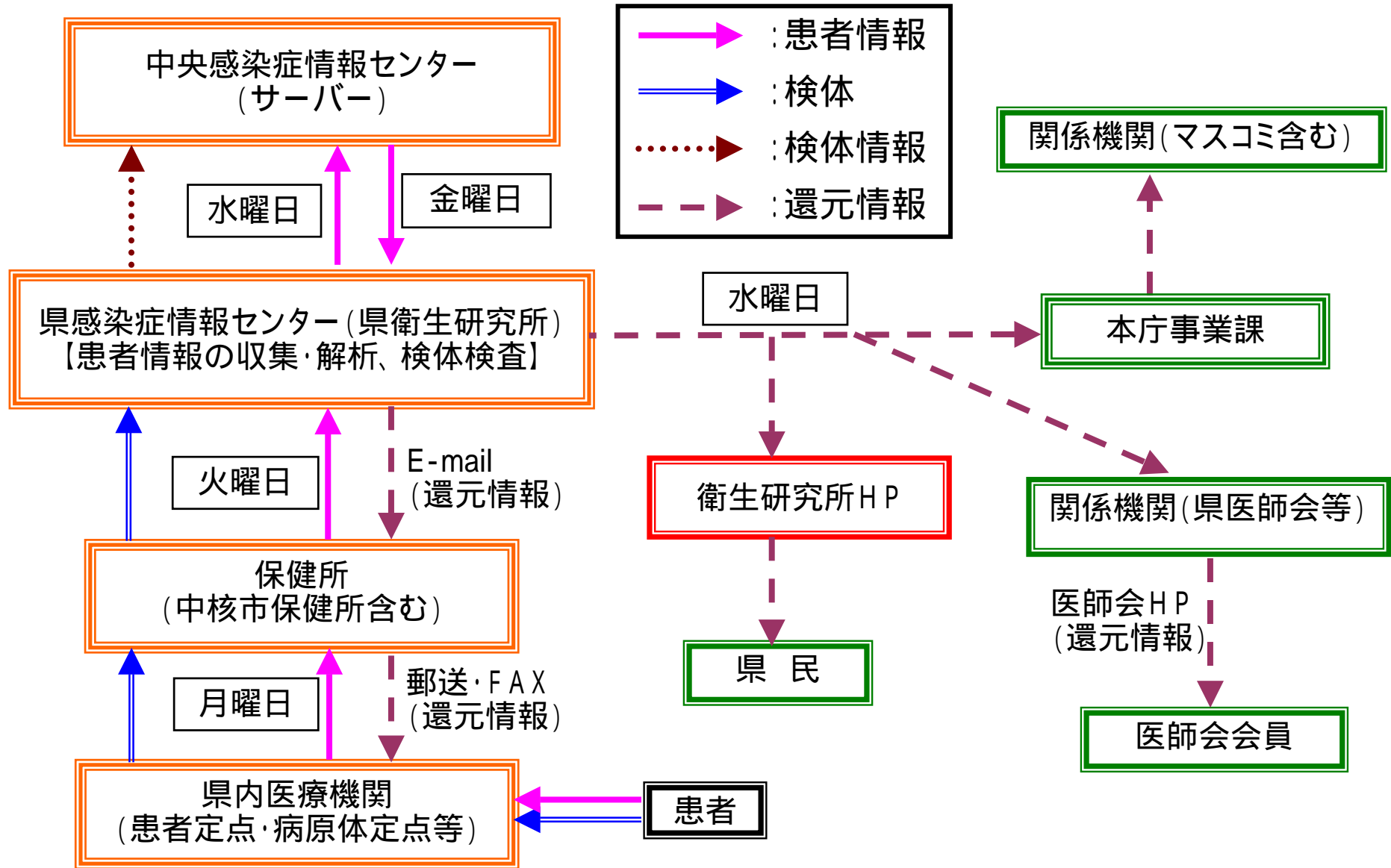
保健所は、患者定点から得られた患者情報を、調査単位が週の場合は調査対象週の翌週の火曜日までに、調査対象が月の場合は調査対象月の翌月の 3 日までに、福島県感染症情報センターへコンピュータ・オンラインシステムにより伝送する。

イ 福島県病原体検査実施要領により、各病原体定点から採取された検体は、福島県衛生研究所で検査を行い、その結果を保健所を経由して診断した医師に通知するとともに、検査情報として福島県感染症情報センター及び医療看護グループに報告する。

(2) 情報還元

福島県感染症情報センターは、患者情報及び病原体情報を週単位および月単位で収集、解析するとともに、その結果を全国情報と併せて、週報及び月報等として保健所に提供するとともに福島県医師会、福島県教育委員会、その他関係機関等に提供・公開する。

感染症情報センターの概念図



**感染症発生動向調査事業一～五類感染症
全数把握及び五類感染症定点把握対象報告**

(1) 平成16年、一～五類感染症全数把握対象結果報告

一類感染症〔全数把握〕

(1) エボラ出血熱、(2) クリミア・コンゴ出血熱、(3) 重症急性呼吸器症候群(病原体がSARSコロナウイルスであるものに限る。)(4) 痘そう、(5) ペスト、(6) マールブルグ病、(7) ラッサ熱の一類感染症は、ともに報告はなかった。

二類感染症〔全数把握〕

(10) 細菌性赤痢の報告は3例あり、11週に県北(*Shigella flexneri* , 50歳代:感染経路不明)、14週に相双(20歳代:インドへの渡航歴有り)、41週にいわき(*Shigella flexneri* , 20歳代:感染経路不明)から報告があった。

・細菌性赤痢年別等報告状況

	報告例	推定される感染原因・経路
16年	3例	いずれも感染経路不明
15年	5例	不明〔4例(<i>Shigella sonnei</i>)〕、経口感染〔1例(<i>Shigella flexneri</i>)〕:インドネシアへの渡航歴有り、飲食物(不明)
14年	10例	<i>Shigella sonnei</i> が5例〔経口感染(1例:肉)、不明4例(内2例は渡航歴有り)〕、 <i>Shigella flexneri</i> が5例〔経口感染(3例、ともにインド、エジプト 2名 への渡航歴有り)、不明(2例)〕
13年	6例	<i>Shigella sonnei</i> が5例〔看護中の感染(1例)、不明(4例)〕、 <i>Shigella flexneri</i> が1例〔経口感染(生水)、ネパールへの渡航歴有り〕

また、(8) 急性灰白髄炎、(9) コレラ、(11) ジフテリア、(12) 腸チフス、(13) パラチフスは、ともに報告はなかった。

三類感染症〔全数把握〕

(14) 腸管出血性大腸菌感染症の報告は84例あった。保育園や幼稚園等での集団発生や家族内発生が多く、平成11年4月の法律施行以降、最も多い届出数となった。

・腸管出血性大腸菌感染症報告状況

〔保健所別届出数〕

	県北	郡山市	県中	県南	会津	南会津	相双	いわき	計
16年	9	54	14		2		3	2	84
15年	1	5	1		3		1	8	19
14年	4	7	1	1	2			4	19

〔型別報告数〕

型別	16年	15年	14年
〇26	28	6	3
〇111	31	0	2
〇157	24	10	12
他	1	3	2
計	84	19	19

四類感染症〔全数把握〕

(15) E型肝炎、(16) ウエストナイル熱〔ウエストナイル脳炎を含む〕の報告は、ともになかった。

(17) A型肝炎の報告は7例あり、30週、36週、37週に県北〔6例：内1例はフィリピンへの渡航歴有り、4例は経口感染、2例は感染経路不明〕から、41週にいわき〔1例：経口感染（赤貝の喫食）〕から報告があった。

・A型肝炎、年別及び保健所別報告状況

	県北	郡山市	県中	県南	会津	南会津	相双	いわき	計
16年	6例							1例	7例
15年		1例		1例			1例	3例	6例
14年	3例			3例				1例	7例

(18) エキノコックス症、(19) 黄熱、(20) オウム病、(21) 回帰熱、(22) Q熱、(23) 狂犬病、(24) 高病原性鳥インフルエンザ、(25) コクシジオイデス、(26) サル痘、(27) 腎症候性出血熱、(28) 炭疽の報告は、ともになかった。

(29) つつが虫病の報告は27例あり、前期（1～6月）に8例〔県北（3例）郡山（3例）県南（2例）〕、後期（7～12月）に19例〔県北（1例）郡山（2例）県中（8例）県南（8例）〕報告があった。

・つつが虫病年・月別報告状況

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
16年(27)	0	0	1	3	2	2	0	0	0	5	11	3	27
15年(30)	0	0	1	4	6	8	0	0	0	3	6	2	30
14年(45)	1	0	3	5	5	1	0	0	0	9	16	5	45
13年(40)	1	0	0	2	7	5	2	0	0	5	13	5	40

(30) デング熱、(31) ニパウイルス感染症、(32) 日本紅斑熱、(33) 日本脳炎、(34) ハンタウイルス肺症候群、(35) Bウイルス病、(36) プルセラ症、(37) 発疹チフス、(38) ボツリヌス症、(39) マラリア、(40) 野兔病の報告は、ともになかった。

(41) ライム病は、16週に県南(幼児)から報告があった。

(42) リッサウイルス感染症、(44) レプトスピラ症の報告は、ともになかった。

(43) レジオネラ症は、郡山から4例〔20週(60歳代)、28週(50歳代)、31週(40歳代)、42週(50歳代)〕、県北から1例〔45週(60歳代)〕、いわきから1例〔51週(70歳代)〕の報告があった。

・レジオネラ症年別報告状況

	報告例	推定される感染原因・経路
16年	6例	不明〔6例：40歳代(1例)、50歳代(2例)、60歳代(2例)、70歳代(1例)〕
15年	1例	不明(1例：40歳代)
14年	5例	不明〔5例：～1歳(4例)、50歳代(1例)〕

五類感染症〔全数把握〕

(45) アメーバ赤痢の報告は5例あり、13週に県北〔1例；感染経路不明〕から、40週、44週、49週、51週にいわき〔4例；内3例の推定感染経路は経口感染、1例はヨルダンへの渡航歴有り、1例は感染経路不明〕から報告があった。

・アメーバ赤痢年別等報告状況

	報告数	推定される感染原因・経路
16年	5例	経口感染(3例：内1例はヨルダンへの渡航歴有り)、不明2例
15年	5例	性行為感染(3例：内1例は中国への渡航歴有り)、不明(2例)
14年	4例	経口感染(2例：内1例はインドへの渡航歴有り)、性行為感染(1例)、不明(1例)

(46) ウイルス性肝炎〔A・E型を除く〕の報告はなかった。

(47) 急性脳炎(ウエストナイル脳炎・日本脳炎を除く)は、会津から44週に2例(70歳代、50歳代)、48週に1例(70歳代)の報告があった。

(48) クリプトスポリジウム症の報告はなかった。

(49) クロイツフェルト・ヤコブ病は、40週に県南(70歳代)、51週に相双(70歳代)から報告があった。ともに感染経路は不明。

(50) 劇症型溶血性レンサ球菌感染症の報告は4例あり、23週に会津(60歳代)、33週にいわき(80歳代)、35週に郡山(70歳代)、47週にいわき(50歳代)から報告があった。

・劇症型溶血性レンサ球菌感染症年別報告状況

	報告数	推定される感染原因・経路	全国報告例
16年	4例	不明	53例
15年	2例	不明	52例
14年	2例	不明	90例

(51) 後天性免疫不全症候群の報告は4例あった。24週(30歳代、男性：AIDS、推定感染経路は異性間・同性間性的接触)、27週(20歳代、男性：AIDS、推定感染経路は同性間性的接触)、31週(20歳代、男性：無症候性キャリア、推定感染経路は異性間性的接触)、40週(50歳代、男性：AIDS、推定感染経路は同性間性的接触)に報告があり、いずれも郡山からの報告だった。

・後天性免疫不全症候群年別報告状況

	報告数	推定される感染原因・経路	全国報告例
16年	4例	性的接触〔異性間性的接触1例、同性間性的接触2例、異性間・同性間性的接触1例(タイ国籍)〕	1119例
15年	3例	性的接触(3例：内1例はマレーシアへの渡航歴有り)	949例
14年	3例	性的接触(2例)、不明(1例)	888例

(52) ジアルジア症は、32週に郡山(30歳代、推定感染経路：経口感染)から報告があった。

・ジアルジア症年別報告状況

	報告数	推定される感染原因・経路	全国報告例
16年	1例	経口感染(原因飲食物は不明)	85例
15年	2例	ともに不明(内1例はバングラデシュへの渡航歴有り)	99例
14年	2例	水による感染、東南アジアへの渡航歴有り(1名)、不明(1名)	115例

(53) 髄膜炎菌性髄膜炎、(54) 先天性風疹症候群の報告は、ともになかった。

(55) 梅毒の報告は5例あり、4週に県中(80歳代、無症候性梅毒、感染経路不明)、7週に県南(40歳代、晩期顕性梅毒、推定感染経路は異性間性的接触)、10週に県北(20歳代、無症候性梅毒、推定感染経路は異性間性的接触)、28週に相双(40歳代、早期顕性梅毒、推定感染経路は異性間性的接触)、43週に県南(80歳代、無症候性梅毒、推定感染経路は異性間性的接触)から報告があった。

・梅毒年別報告状況

	報告数	推定される感染原因・経路
16年	5例	異性間性的接触4例、不明1例
15年	14例	異性間性的接触6例、母子感染1例、不明7例
14年	8例	異性間性的接触2例、同性間性的接触1例、母子感染2例、不明3例

(56) 破傷風の報告は3例あり、7週、25週に郡山(70歳代：推定感染経路は足趾壊死部より侵入、50歳代：推定感染地域はウクライナ)、51週に相双(60歳代：感染経路不明)から報告があった。

・破傷風症年別報告状況

	報告数	推定される感染原因・経路	全国報告例
16年	3例	足趾壊死部より侵入1例、海外での感染1例、不明1例	100例
15年	1例	農作業中1例	69例
14年	8例	農作業中4例、伐採・庭作業中3例、不明1例	105例

(57) バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症、(58) バンコマイシン耐性腸球菌感染症の報告は、ともになかった。

(2)平成16年全数把握報告調査結果

対象疾患		全 国			福 島 県		
		平成16年	平成15年	平成14年	平成16年	平成15年	平成14年
一類	エボラ出血熱						
	クリミア・コンゴ出血熱						
	重症急性呼吸器症候群()						
	痘そう()						
	ペスト						
	マールブルグ病						
	ラッサ熱						
二類	コレラ	82	24	51			
	細菌性赤痢	576	459	693	3	5	10
	腸チフス	66	60	62			
	パラチフス	86	38	33			
	急性灰白髄炎						
	ジフテリア						
三類	腸管出血性大腸菌感染症	3,640	2,635	3,132	84	19	19
四類	E型肝炎(注)	35	2				
	ウエストナイル熱(ウエストナイル脳炎含む)						
	A型肝炎(注)	136	12		7	6	7
	エキノコックス症	25	17	9			
	黄 熱						
	オウム病	39	44	55			
	回帰熱						
	Q 熱	7	9	46		1	
	狂犬病						
	高病原性鳥インフルエンザ()						
	コクシジオイデス症	6	1	3			
	サル痘()						
	腎症候性出血熱						
	炭 疽						
	ツツガムシ病	296	380	329	27	30	45
	デング熱	45	31	50			
	ニパウイルス感染症()						
	日本紅斑熱	67	51	36			
	日本脳炎	5	1	8			
	ハンタウイルス肺症候群						
	Bウイルス病						
ブルセラ症			1				
発疹チフス							
ポツリヌス症()							
マラリア	73	77	78				
野兔病()							
ライム病	4	5	15	1		1	
リッサウイルス感染症()							
レジオネラ症	162	143	166	6	1	5	
レプトスピラ症()	18	1					
五類	アメーバ赤痢	580	504	453	5	5	4
	ウイルス性肝炎(A型及びE型を除く)(注)	299	634			3	4
	急性脳炎(ウエストナイル脳炎・日本脳炎を除く)()	157	12		3		
	クリプトスポリジウム症	91	8	108			
	クロイツフェルト・ヤコブ病	167	115	168	2		6
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	53	52	90	4	2	2
	後天性免疫不全症候群	1,119	949	888	4	3	3
	ジアルジア症	85	99	115	1	2	2
	髄膜炎菌性髄膜炎	22	17	8			
	先天性風疹症候群	10	1	1			
	梅毒	516	493	561	5	14	8
	破傷風	100	69	105	3	1	8
	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症()						
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	49	55	43			

()平成15年第45週から追加・変更調査開始。

(3) 平成16年五類感染症定点把握対象結果報告

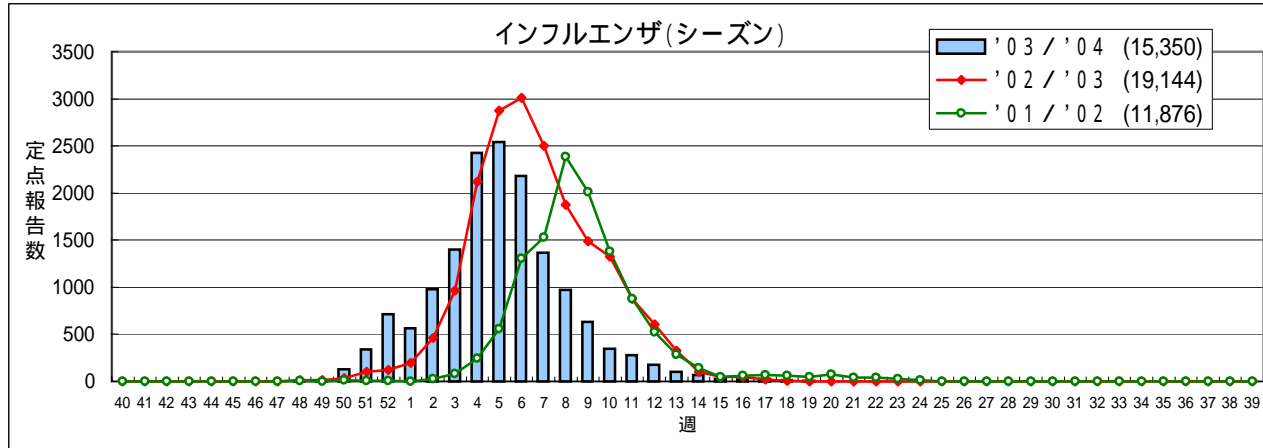
五類感染症対象疾患（定点把握）

(72)	インフルエンザ〔高病原性鳥インフルエンザを除く〕 (80インフルエンザ定点：32内科定点、48小児科定点)	}	週報対象疾患		
(59)	RSウイルス感染症 (48小児科定点)				
(60)	咽頭結膜熱 (48小児科定点)				
(61)	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 (48小児科定点)				
(62)	感染性胃腸炎 (48小児科定点)				
(63)	水痘 (48小児科定点)				
(64)	手足口病 (48小児科定点)				
(65)	伝染性紅斑 (48小児科定点)				
(66)	突発性発しん (48小児科定点)				
(67)	百日咳 (48小児科定点)				
(68)	風しん (48小児科定点)				
(69)	ヘルパンギーナ (48小児科定点)				
(70)	麻しん (48小児科定点)				
(71)	流行性耳下腺炎 (48小児科定点)				
(73)	急性出血性結膜炎 (12眼科定点)				
(74)	流行性角結膜炎 (12眼科定点)				
(79)	クラミジア肺炎〔オウム病を除く〕 (7定点基幹)				
(80)	細菌性髄膜炎 (7定点基幹)				
(82)	マイコプラズマ肺炎 (7定点基幹)				
(83)	成人麻しん (7定点基幹)				
(84)	無菌性髄膜炎 (7定点基幹)				
(75)	性器クラミジア感染症 (16STD定点)			}	月報対象疾患
(76)	性器ヘルペスウイルス感染症 (16STD定点)				
(77)	尖圭コンジローマ (16STD定点)				
(78)	淋菌感染症 (16STD定点)				
(81)	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症 (7定点基幹)				
(85)	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症 (7定点基幹)				
(86)	薬剤耐性緑膿菌感染症 (7定点基幹)				

五類感染症（定点把握）患者地域別定点機関数

	小児科定点	内科定点	眼科定点	基幹定点	STD定点
県北	10	7	3	1	4
郡山市	7	5	2	1	2
県中	6	4	1	0	2
県南	4	3	1	1	1
会津	6	4	2	1	2
南会津	2	1	0	1	0
相双	5	3	1	1	2
いわき	8	5	2	1	3
計	48	32	12	7	16

(72)インフルエンザ(高病原性鳥インフルエンザを除く)



インフルエンザ (80インフルエンザ定点)

03/04シーズンの定点報告数は、15,350例あり、'03年12月上旬から県北・会津・南会津を中心に流行が始まり、第50週に流行開始宣言をした。その後、会津地方から中通り・浜通りに流行が拡大し、第5週にピークを迎え、その後は急速に減少し、第14週に終息となった。

年齢構成では、10歳未満が約半数(49.4%)を占めた。

少ない 多い

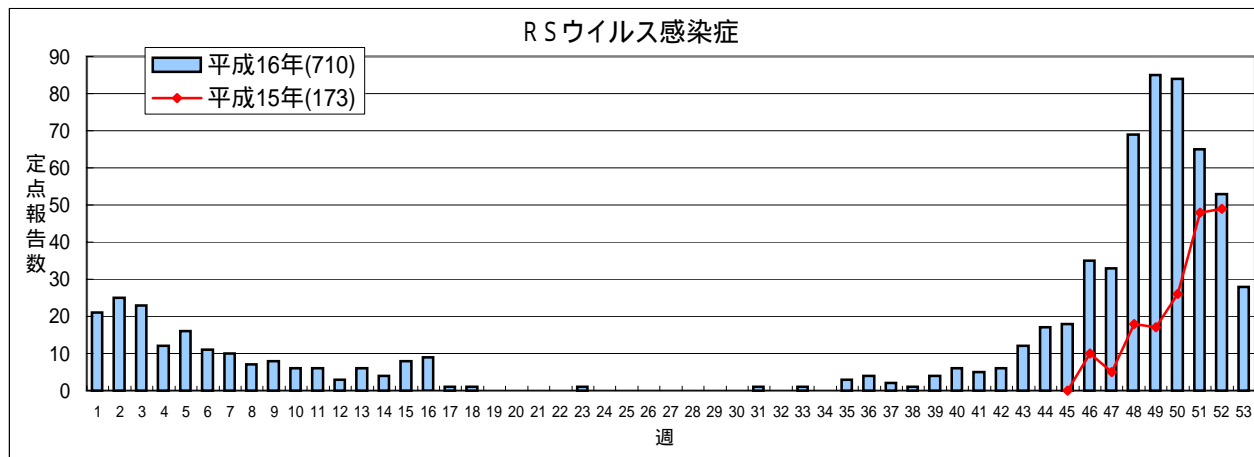
03/04シーズン 報告数

週	40w	41w	42w	43w	44w	45w	46w	47w	48w	49w	50w	51w	52w	1w	2w	3w	4w	5w	6w	7w	8w	9w	10w	11w	12w	13w	14w
県北	0	0	0	0	0	0	0	0	2	12	75	171	220	185	273	196	268	313	318	227	153	103	71	67	46	23	17
郡山市	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	1	15	41	40	178	375	555	445	441	238	228	130	53	35	25	10	5
県中	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5	26	18	65	117	235	221	131	117	57	31	10	4	2	2	0
県南	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	12	90	108	143	248	383	348	248	158	77	42	28	23	12	3	8
会津	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	43	110	272	147	121	131	275	227	232	135	134	105	78	98	62	40	20
南会津	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5	21	48	26	31	21	42	37	22	40	22	26	23	15	14	9	13
相双	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	0	2	14	23	66	155	297	317	234	137	72	57	33	19	5	7	2
いわき市	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	6	5	15	102	159	369	636	554	317	228	140	52	21	10	11	3
03/04	0	0	0	0	0	0	1	1	4	16	126	342	716	562	979	1402	2424	2544	2180	1369	971	634	348	282	176	105	68
02/03	0	0	0	0	0	0	1	1	12	11	35	103	124	194	462	963	2122	2876	3009	2502	1878	1487	1325	878	605	325	103
01/02	0	0	0	1	1	0	1	0	5	0	12	10	6	1	28	84	246	556	1307	1530	2383	2012	1380	879	524	286	144
週	15w	16w	17w	18w	19w	20w	21w	22w	23w	24w	25w	26w	27w	28w	29w	30w	31w	32w	33w	34w	35w	36w	37w	38w	39w	合計	
県北	4	7	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	2,754	
郡山市	2	1	6	2	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2,829	
県中	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1,041	
県南	2	3	10	0	1	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1,949	
会津	14	8	13	8	4	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2,281	
南会津	2	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	419	
相双	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1,443	
いわき市	3	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2,634	
03/04	27	21	30	11	6	3	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	15,350	
02/03	46	47	20	10	0	2	1	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	19,144	
01/02	46	62	67	59	45	76	40	44	26	11	3	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	11,876	

年齢構成

	~6ヶ月	~12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	~14歳	~19歳	~29歳	~39歳	~49歳	~59歳	~69歳	~79歳	80歳~	合計
03/04	152	302	973	921	970	1032	927	621	504	575	601	3247	1228	959	877	564	291	264	210	132	15,350
02/03	129	336	1215	1261	1243	1458	1391	1298	1188	1199	1046	3574	959	845	813	446	289	187	166	101	19,144

(59)RSウイルス感染症



RSウイルス感染症 (48小児科定点)

定点からの年間報告数は710例あり、1月には県南・相双を中心に流行が見られ、その後、散発事例のみの報告であったが、10月頃から再び相双を中心に増加が認められ、県南・県北等でも流行が見られた。

年齢構成では、1歳までの報告が約8割(79.0%)を占めた。

平成15年第45週より調査開始。

少ない 多い

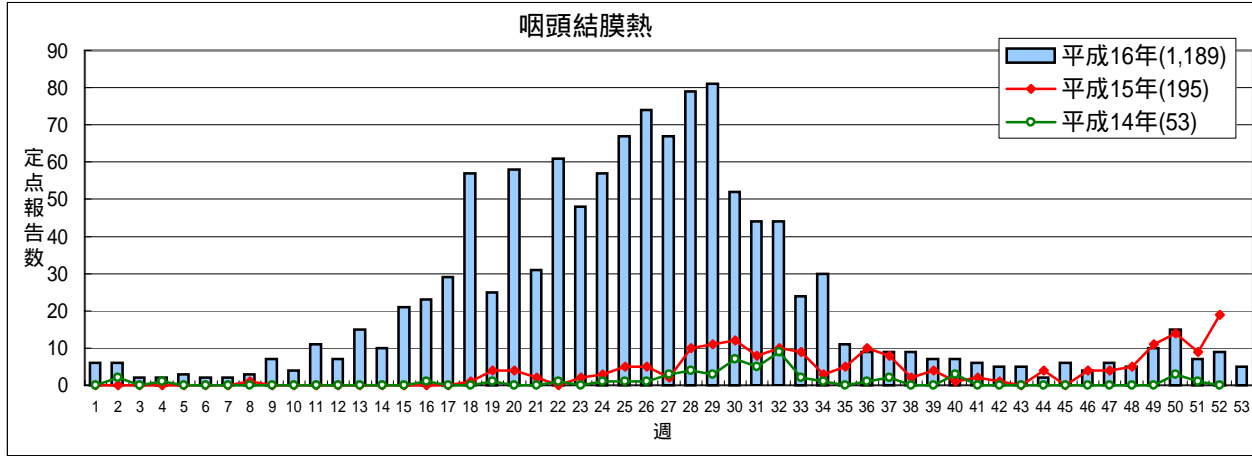
平成16年 報告数

週	1w	2w	3w	4w	5w	6w	7w	8w	9w	10w	11w	12w	13w	14w	15w	16w	17w	18w	19w	20w	21w	22w	23w	24w	25w	26w	27w
県北	2	3	4	2	4	3	2	0	2	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0
郡山市	1	4	7	3	1	1	0	1	0	0	2	0	2	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
県中	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
県南	12	6	5	0	3	3	1	2	2	2	1	0	0	2	5	8	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
会津	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
南会津	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
相双	6	10	7	6	7	3	6	4	4	3	3	3	3	0	2	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
いわき市	0	2	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
H16	21	25	23	12	16	11	10	7	8	6	6	3	6	4	8	9	1	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0
H15	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
H14	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
週	28w	29w	30w	31w	32w	33w	34w	35w	36w	37w	38w	39w	40w	41w	42w	43w	44w	45w	46w	47w	48w	49w	50w	51w	52w	53w	合計
県北	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	4	6	4	7	10	30	15	17	17	11	1	149
郡山市	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	2	4	9	8	5	6	10	10	8	5	92
県中	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
県南	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	1	0	2	12	23	22	14	16	8	152
会津	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
南会津	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2	1	2	1	0	11
相双	0	0	0	0	0	0	0	3	2	1	1	3	6	4	5	8	8	8	18	12	20	37	29	20	16	7	277
いわき市	0	0	0	0	0	0	0	0	2	1	0	0	0	0	0	0	1	1	1	1	0	2	5	2	1	7	27
H16	0	0	0	1	0	1	0	3	4	2	1	4	6	5	6	12	17	18	35	33	69	85	84	65	53	28	710
H15	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0	10	5	18	17	26	48	49	-	173
H14	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

年齢構成

	~6ヶ月	~12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	~14歳	~19歳	20歳~	合計
H16	182	178	201	88	32	20	4	0	2	1	0	1	0	1	710
H15	41	40	49	25	12	4	1	1	0	0	0	0	0	0	173

(60) 咽頭結膜熱



咽頭結膜熱 (48小児科定点)

定点からの年間報告数は1,189例あり、昨年の6倍以上の報告数であった。3月頃から浜通りを中心に流行が始まり、6月頃からは県北・郡山・県南にも流行が拡大し、夏過ぎまで続いた。

年齢構成では、1～5歳の報告が約7割(69.0%)を占めた。

少ない 多い

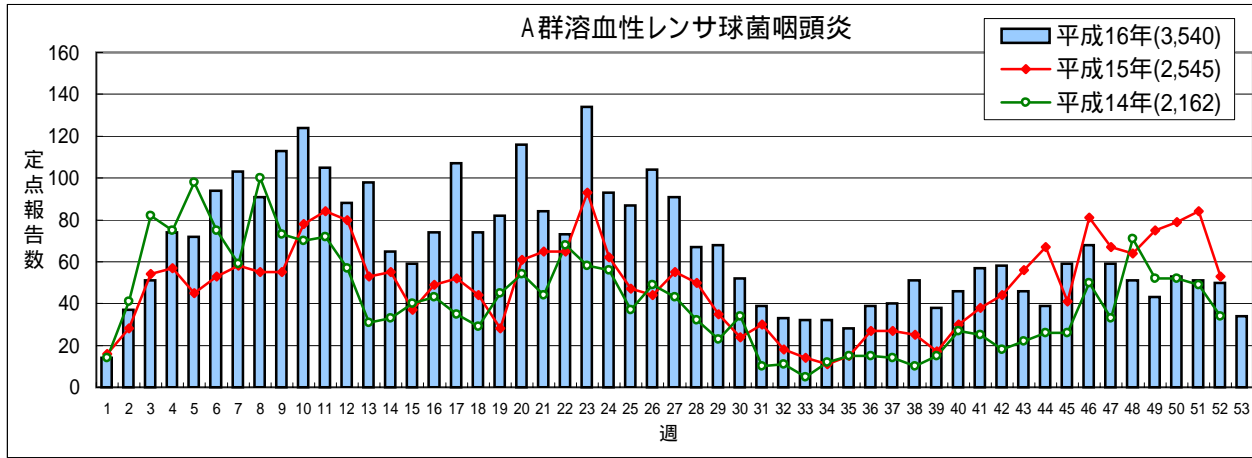
平成16年 報告数

週	1w	2w	3w	4w	5w	6w	7w	8w	9w	10w	11w	12w	13w	14w	15w	16w	17w	18w	19w	20w	21w	22w	23w	24w	25w	26w	27w
県北	1	4	2	0	0	1	0	1	3	2	3	2	3	1	4	0	6	5	3	11	4	7	2	0	13	10	8
郡山市	0	0	0	0	0	0	1	0	2	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	1	3	1	6	9	8	12	
県中	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
県南	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	2	0	0	0	0	0	0	3	3	2
会津	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0
南会津	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
相双	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	3	3	7	8	5	24	13	29	16	35	32	29	20	18	24
いわき市	5	2	0	1	2	1	1	2	2	1	7	5	7	6	10	14	17	25	9	18	9	16	13	22	21	34	20
H16	6	6	2	2	3	2	2	3	7	4	11	7	15	10	21	23	29	57	25	58	31	61	48	57	67	74	67
H15	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	4	4	2	0	2	3	5	5	2
H14	0	2	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	1	0	1	1	1	3
週	28w	29w	30w	31w	32w	33w	34w	35w	36w	37w	38w	39w	40w	41w	42w	43w	44w	45w	46w	47w	48w	49w	50w	51w	52w	53w	合計
県北	10	14	10	6	5	4	4	0	0	0	0	2	2	0	0	0	0	0	0	1	0	2	0	0	0	0	156
郡山市	20	12	10	9	10	5	1	2	0	1	4	5	3	3	2	2	2	3	2	5	1	2	5	3	4	4	165
県中	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	3	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	12
県南	3	3	12	5	6	3	3	0	0	2	0	0	0	0	0	0	2	0	1	0	0	1	0	0	0	0	53
会津	1	5	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	9
南会津	0	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5
相双	19	25	6	10	16	6	1	3	4	1	1	0	2	0	1	0	0	0	1	0	0	7	0	0	0	0	371
いわき市	25	21	13	13	7	5	21	6	5	4	4	0	0	0	0	2	0	1	1	0	3	1	7	4	4	1	418
H16	79	81	52	44	44	24	30	11	9	9	9	7	7	6	5	5	2	6	4	6	5	10	15	7	9	5	1,189
H15	10	11	12	8	10	9	3	5	10	8	2	4	1	2	1	0	4	0	4	4	5	11	14	9	19	-	195
H14	4	3	7	5	9	2	1	0	1	2	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	3	1	0	-	-	53

年齢構成

	～6ヶ月	～12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	～14歳	～19歳	20歳～	合計
H16	7	28	176	162	191	145	146	106	59	46	32	56	4	31	1,189
H15	3	0	21	30	27	26	27	21	11	14	3	5	0	7	195

(61) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎



A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 (48小児科定点)

定点からの年間報告数は3,540例あり、過去2年間より多く、特に、県北・郡山・相双・いわきで報告が多かった。流行の季節推移は例年どおりの形をとった。年齢構成では、3~7歳の報告が多かった。

少ない 多い

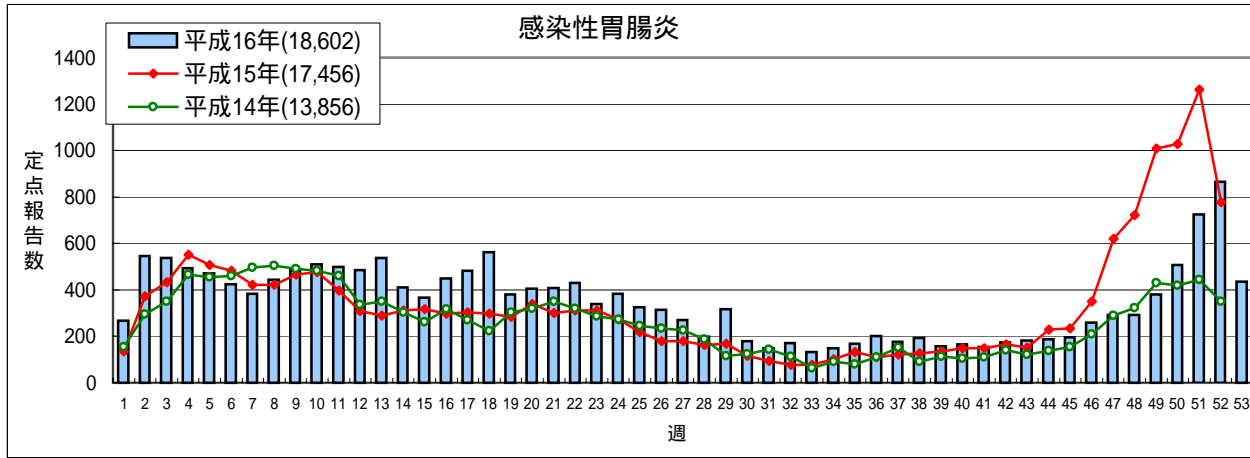
平成16年 報告数

週	1w	2w	3w	4w	5w	6w	7w	8w	9w	10w	11w	12w	13w	14w	15w	16w	17w	18w	19w	20w	21w	22w	23w	24w	25w	26w	27w
県北	1	4	5	15	9	13	23	11	25	29	15	20	23	17	11	23	19	20	20	29	26	17	21	23	18	54	47
郡山市	4	8	8	7	10	8	13	10	22	22	32	21	29	5	12	11	25	13	22	30	14	10	53	26	24	15	10
県中	0	1	4	5	4	8	7	3	5	3	4	0	2	3	4	3	6	8	2	1	4	2	3	1	2	1	0
県南	0	1	1	2	0	2	2	1	2	1	1	0	1	0	0	0	2	1	0	1	3	5	6	3	0	1	1
会津	1	0	0	0	4	0	6	5	4	4	1	3	3	2	1	2	4	1	0	4	7	0	2	3	1	3	1
南会津	0	0	1	2	8	6	1	4	2	1	6	0	0	0	1	0	2	2	0	0	1	0	0	0	0	0	0
相双	3	17	14	11	18	21	24	22	26	31	23	13	14	23	20	25	30	14	24	24	18	21	32	20	22	19	20
いわき市	5	6	18	32	19	36	27	35	27	33	23	31	26	15	10	10	19	15	14	27	11	18	17	17	20	11	12
H16	14	37	51	74	72	94	103	91	113	124	105	88	98	65	59	74	107	74	82	116	84	73	134	93	87	104	91
H15	16	28	54	57	45	53	58	55	55	78	84	80	53	55	37	49	52	44	28	61	65	65	93	62	47	44	55
H14	14	41	82	75	98	75	59	100	73	70	72	57	31	33	40	43	35	29	45	54	44	68	58	56	37	49	43
週	28w	29w	30w	31w	32w	33w	34w	35w	36w	37w	38w	39w	40w	41w	42w	43w	44w	45w	46w	47w	48w	49w	50w	51w	52w	53w	合計
県北	32	21	20	16	11	20	22	15	18	22	32	16	23	25	28	18	11	13	16	7	11	5	16	19	18	15	1,008
郡山市	13	13	8	3	3	1	1	3	4	1	5	6	0	6	9	5	4	9	7	15	11	6	7	1	6	3	614
県中	1	0	1	0	0	0	0	1	1	1	1	1	1	3	3	2	2	2	5	4	4	7	3	3	0	0	132
県南	0	1	3	2	0	0	3	1	0	2	1	2	2	1	2	1	2	1	1	4	4	1	5	7	5	3	91
会津	0	2	3	2	1	1	2	1	1	2	1	0	2	1	1	2	1	0	0	1	1	1	0	0	0	3	91
南会津	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	1	0	2	0	5	5	4	0	0	1	2	0	0	59
相双	12	19	7	10	11	5	0	3	12	10	5	11	13	14	10	6	12	16	21	18	17	13	9	6	10	6	825
いわき市	9	12	10	6	7	3	4	4	3	2	6	2	5	6	5	10	7	13	13	6	3	10	12	13	11	4	720
H16	67	68	52	39	33	32	32	28	39	40	51	38	46	57	58	46	39	59	68	59	51	43	53	51	50	34	3,540
H15	50	35	24	30	18	14	11	15	27	27	25	17	30	38	44	56	67	41	81	67	64	75	79	84	53	-	2,545
H14	32	23	34	10	11	5	12	15	15	14	10	15	27	25	18	22	26	26	50	33	71	52	52	49	34	-	2,162

年齢構成

	~6ヶ月	~12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	~14歳	~19歳	20歳~	合計
H16	6	36	194	259	397	551	576	478	348	207	156	269	16	47	3,540
H15	2	12	90	140	283	432	490	393	227	168	103	172	9	24	2,545

(62) 感染性胃腸炎



感染性胃腸炎（48小児科定点）

定点からの年間報告数は18,602例あり、例年どおりの流行となったが、3月末から7月にかけてと12月に多かった。年間を通して、相双からの報告が多かった。

年齢構成では、1歳の報告が最も多く、次いで、2歳、3歳、4歳、5歳の報告が多かった。

少ない 多い

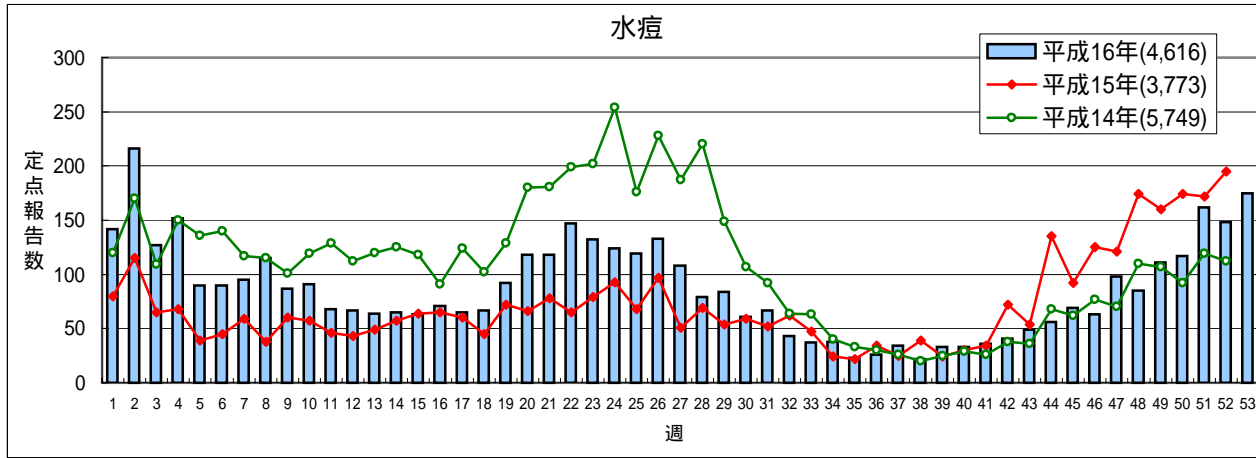
平成16年 報告数

週	1w	2w	3w	4w	5w	6w	7w	8w	9w	10w	11w	12w	13w	14w	15w	16w	17w	18w	19w	20w	21w	22w	23w	24w	25w	26w	27w
県北	40	46	33	52	45	47	33	25	36	55	46	51	41	23	33	41	38	45	72	61	57	28	35	28	13	19	14
郡山市	31	124	69	59	60	56	52	42	59	72	68	62	59	69	55	66	67	77	43	47	41	46	33	36	32	31	28
県中	28	38	58	46	36	53	36	48	44	54	43	44	48	48	36	41	55	63	29	37	60	56	33	29	31	25	21
県南	36	46	43	41	52	25	36	26	44	42	43	49	73	38	24	28	38	43	21	35	25	23	31	52	30	30	21
会津	17	54	59	52	39	47	45	95	64	59	54	58	64	37	39	44	41	72	70	51	67	74	39	50	38	44	16
南会津	1	3	8	4	8	15	6	6	6	6	7	6	10	3	3	6	6	9	0	4	7	21	6	3	4	0	0
相双	69	144	133	116	108	115	97	105	110	107	111	101	114	74	91	105	88	106	84	92	60	97	80	72	84	77	71
いわき市	44	91	135	122	124	67	77	96	121	116	128	114	129	118	86	118	148	146	61	77	90	84	81	113	94	87	98
H16	266	546	538	492	472	425	382	443	484	511	500	485	538	410	367	449	481	561	380	404	407	429	338	383	326	313	269
H15	136	373	432	552	508	481	422	422	466	476	398	308	290	311	318	298	304	297	284	340	301	312	312	273	217	178	179
H14	154	296	351	466	455	459	497	503	491	482	461	337	351	304	263	318	271	222	304	319	350	321	287	274	245	233	227
週	28w	29w	30w	31w	32w	33w	34w	35w	36w	37w	38w	39w	40w	41w	42w	43w	44w	45w	46w	47w	48w	49w	50w	51w	52w	53w	合計
県北	8	10	4	9	11	4	17	7	6	3	7	5	11	2	7	6	5	6	26	21	22	23	50	84	63	39	1,513
郡山市	20	17	14	16	8	11	23	19	19	14	9	16	16	23	14	35	28	29	48	43	39	46	93	146	238	81	2,549
県中	29	29	10	4	12	11	15	14	11	7	32	15	20	7	12	11	19	24	28	21	35	48	60	83	86	29	1,812
県南	20	20	19	10	12	6	4	9	4	5	9	9	9	10	7	18	15	32	19	30	29	44	58	66	81	46	1,586
会津	17	31	15	18	13	10	19	15	12	33	24	13	15	35	38	21	31	27	34	22	28	39	39	40	47	25	2,050
南会津	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	12	10	9	11	4	208
相双	50	122	52	20	63	32	32	54	61	51	45	49	52	33	30	33	35	35	43	44	53	62	76	73	134	56	4,001
いわき市	54	89	65	71	53	57	38	49	84	63	67	51	41	45	66	58	55	42	61	110	85	107	121	225	206	155	4,883
H16	198	318	179	148	172	131	148	167	200	176	193	158	164	155	174	182	188	195	259	291	292	381	507	726	866	435	18,602
H15	162	169	116	94	77	77	102	133	109	122	126	136	149	148	165	152	230	233	350	619	722	1009	1028	1262	778	-	17,456
H14	188	117	125	142	113	64	92	79	109	151	92	113	105	109	141	121	137	153	209	290	323	430	419	443	350	-	13,856

年齢構成

	～6ヶ月	～12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	～14歳	～19歳	20歳～	合計
H16	268	1167	2589	2054	1835	1690	1528	1145	861	808	693	1860	449	1655	18,602
H15	185	1123	2326	1853	1811	1732	1606	1215	960	739	592	1526	317	1471	17,456

(63)水痘



水痘 (48小児科定点)

定点からの年間報告数は4,616例あり、1月に中通りやいわき等で、5月に郡山・県南・相双で流行が見られた。また、12月には、いわきを中心に流行した。年齢構成では、1~5歳の報告が多く、7割以上(77.9%)を占めた。

少ない 多い

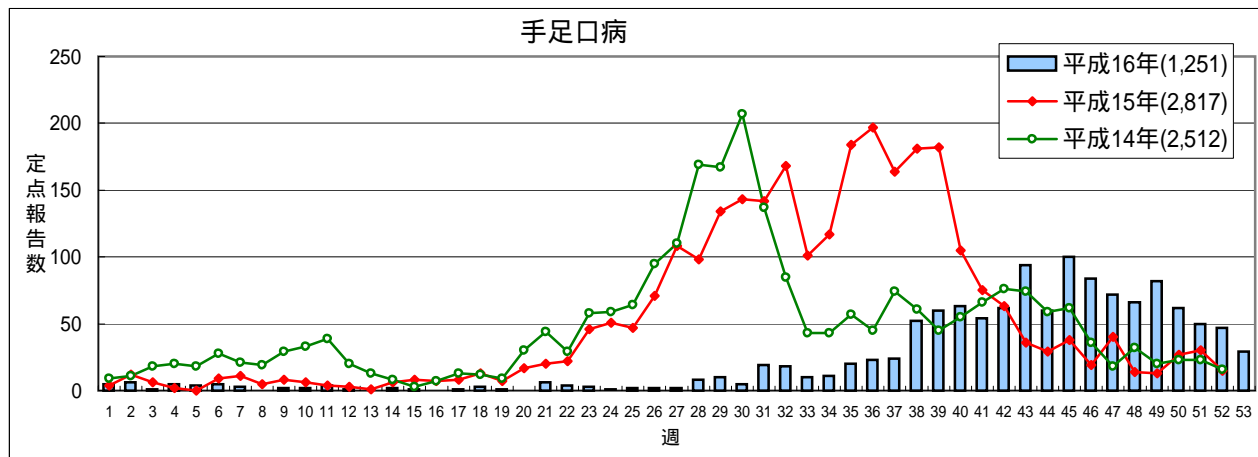
平成16年 報告数

週	1w	2w	3w	4w	5w	6w	7w	8w	9w	10w	11w	12w	13w	14w	15w	16w	17w	18w	19w	20w	21w	22w	23w	24w	25w	26w	27w
県北	28	36	11	25	18	18	16	17	13	21	10	11	12	13	13	7	4	5	12	18	9	13	9	24	9	17	8
郡山市	23	44	30	29	15	7	27	11	21	17	8	10	15	11	14	15	13	10	24	27	25	39	42	25	41	27	35
県中	32	30	20	17	7	18	13	12	10	5	7	6	5	8	6	16	6	13	7	5	12	11	12	8	15	2	7
県南	8	35	13	17	16	7	13	10	9	5	9	4	8	9	8	5	4	6	9	16	23	17	8	16	17	18	16
会津	14	28	18	14	4	10	4	8	3	1	5	7	5	6	2	1	2	1	1	4	3	7	13	7	8	14	2
南会津	2	2	4	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	1	1	2	1	1	0	0	2	3	1	2	0	3	0
相双	5	8	8	15	7	7	5	11	5	6	11	11	8	3	6	5	17	6	19	20	19	28	25	18	8	16	11
いわき市	30	33	23	35	23	20	17	46	26	36	18	18	11	14	13	20	18	25	20	28	25	29	22	24	21	36	29
H16	142	216	127	152	90	90	95	115	87	91	68	67	64	65	63	71	65	67	92	118	118	147	132	124	119	133	108
H15	80	115	65	68	39	45	59	38	60	57	46	43	49	57	64	65	60	45	72	66	78	65	79	93	68	97	51
H14	120	170	109	150	136	140	117	115	101	119	129	112	120	125	118	91	124	102	129	180	181	199	202	254	176	228	187
週	28w	29w	30w	31w	32w	33w	34w	35w	36w	37w	38w	39w	40w	41w	42w	43w	44w	45w	46w	47w	48w	49w	50w	51w	52w	53w	合計
県北	9	9	4	10	7	3	7	6	1	6	3	6	5	3	5	12	8	22	10	25	13	21	29	35	31	23	710
郡山市	30	17	18	18	9	12	4	7	3	1	4	2	5	4	3	8	7	7	7	14	7	13	11	21	23	17	877
県中	3	4	5	8	2	3	5	2	1	7	1	0	1	2	1	0	1	2	4	9	4	10	7	5	3	14	414
県南	10	6	8	8	3	7	0	2	2	0	0	3	0	4	3	1	2	7	4	3	6	3	4	17	11	19	459
会津	4	4	8	4	8	2	6	0	9	8	8	4	9	7	12	14	10	16	9	12	10	16	20	24	22	14	452
南会津	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2	1	1	2	0	1	0	2	1	3	1	46
相双	8	17	5	6	6	3	5	2	7	5	4	5	5	4	4	2	5	3	6	9	14	9	11	13	5	7	478
いわき市	14	26	13	13	8	7	11	4	3	7	2	13	8	12	11	10	22	11	21	26	30	39	33	46	50	80	1,180
H16	79	84	61	67	43	37	38	23	26	34	22	33	33	36	41	49	56	69	63	98	85	111	117	162	148	175	4,616
H15	69	54	59	52	62	47	24	22	34	25	39	24	30	34	72	54	135	92	125	121	174	160	174	172	195	-	3,773
H14	220	149	107	92	64	63	40	33	30	26	20	25	29	26	38	36	68	62	77	70	110	107	92	119	112	-	5,749

年齢構成

	~6ヶ月	~12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	~14歳	~19歳	20歳~	合計
H16	132	285	896	841	709	671	480	261	121	65	46	81	6	22	4,616
H15	101	243	680	634	606	590	427	207	94	64	35	55	9	28	3,773

(64)手足口病



手足口病 (48小児科定点)

定点からの年間報告数は1,251例で過去2年間と比較して半以下の報告となった。また、例年流行期となる7月、8月に流行が見られず、9月から10月にかけていわきを中心に流行が見られた。

年齢構成では、1歳、2歳の報告が多く、4割を占めた。

少ない 多い

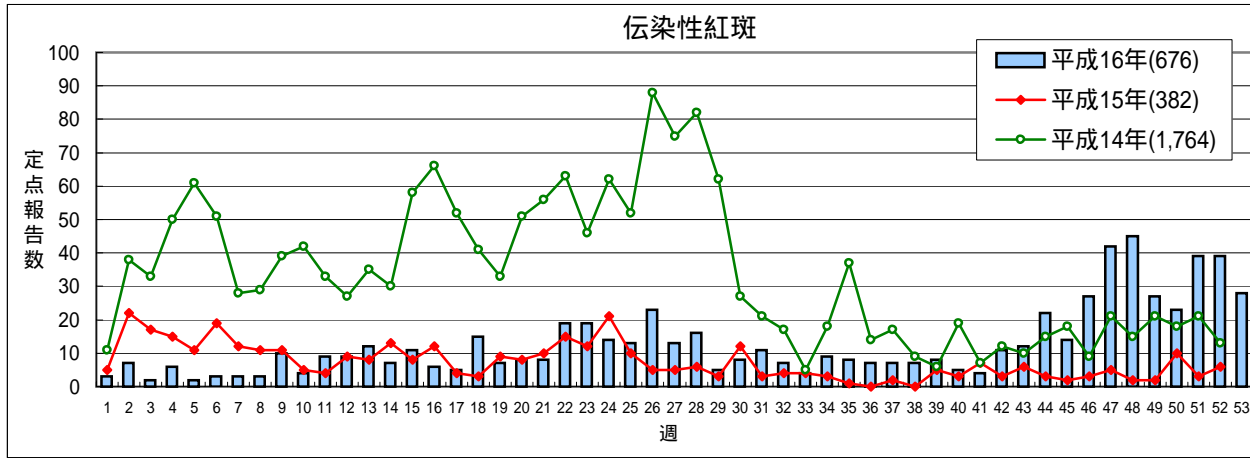
平成16年 報告数

週	1w	2w	3w	4w	5w	6w	7w	8w	9w	10w	11w	12w	13w	14w	15w	16w	17w	18w	19w	20w	21w	22w	23w	24w	25w	26w	27w
県北	3	4	0	2	2	2	3	0	2	0	4	0	0	2	0	0	0	0	0	0	3	1	1	0	0	0	0
郡山市	0	1	0	2	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	0	0	0	0
県中	0	1	0	1	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0
県南	1	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0
会津	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0
南会津	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
相双	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	2
いわき市	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	1	0	1	2	1	0	2	1	0	0	0	0	0
H16	5	6	1	5	4	5	3	0	2	2	4	1	0	2	1	0	1	3	1	0	6	4	3	1	2	2	2
H15	4	12	6	2	0	9	11	5	8	6	4	3	1	6	8	7	8	13	7	17	20	22	46	51	47	71	108
H14	9	11	18	20	18	28	21	19	29	33	39	20	13	8	3	7	13	12	9	30	44	29	58	59	64	95	110
週	28w	29w	30w	31w	32w	33w	34w	35w	36w	37w	38w	39w	40w	41w	42w	43w	44w	45w	46w	47w	48w	49w	50w	51w	52w	53w	合計
県北	2	2	2	2	4	0	1	1	0	0	3	0	3	6	1	3	3	2	1	1	0	6	4	5	1	1	83
郡山市	0	3	0	0	3	3	1	6	3	2	3	5	7	3	4	12	13	18	13	8	13	15	10	10	12	11	187
県中	0	1	0	0	0	0	1	0	1	1	3	4	9	0	6	9	3	10	9	7	8	2	5	4	8	4	101
県南	1	0	0	4	1	0	0	0	2	4	6	5	0	0	0	2	1	1	3	2	1	7	2	1	5	3	56
会津	0	1	0	5	0	0	1	4	1	2	0	2	5	4	13	6	3	2	8	2	2	4	0	4	1	2	74
南会津	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
相双	1	0	0	1	0	1	1	3	6	9	13	3	1	2	2	11	1	7	0	7	6	0	1	1	2	1	85
いわき市	3	3	3	7	10	6	6	5	10	6	24	41	38	39	36	51	36	60	50	45	36	48	40	25	18	7	663
H16	8	10	5	19	18	10	11	20	23	24	52	60	63	54	62	94	60	100	84	72	66	82	62	50	47	29	1,251
H15	98	134	143	142	168	101	117	184	197	164	181	182	105	75	63	36	29	38	19	40	14	13	27	30	15	-	2,817
H14	169	167	207	137	85	43	43	57	45	74	61	45	55	66	76	74	59	62	36	18	32	20	23	23	16	-	2,512

年齢構成

	~6ヶ月	~12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	~14歳	~19歳	20歳~	合計
H16	6	46	246	254	188	186	139	78	32	27	17	20	3	9	1,251
H15	15	139	632	559	404	387	308	151	68	66	19	39	5	25	2,817

(65) 伝染性紅斑



伝染性紅斑 (48小児科定点)

定点からの年間報告数は676例あり、年間を通してほとんど流行は見られなかったが、11月以降郡山を中心に小流行が見られた。

年齢構成では、5歳～8歳の報告が多く、半数以上(52.4%)を占めた。また、20歳以上の報告は約2%だった。

少ない 多い

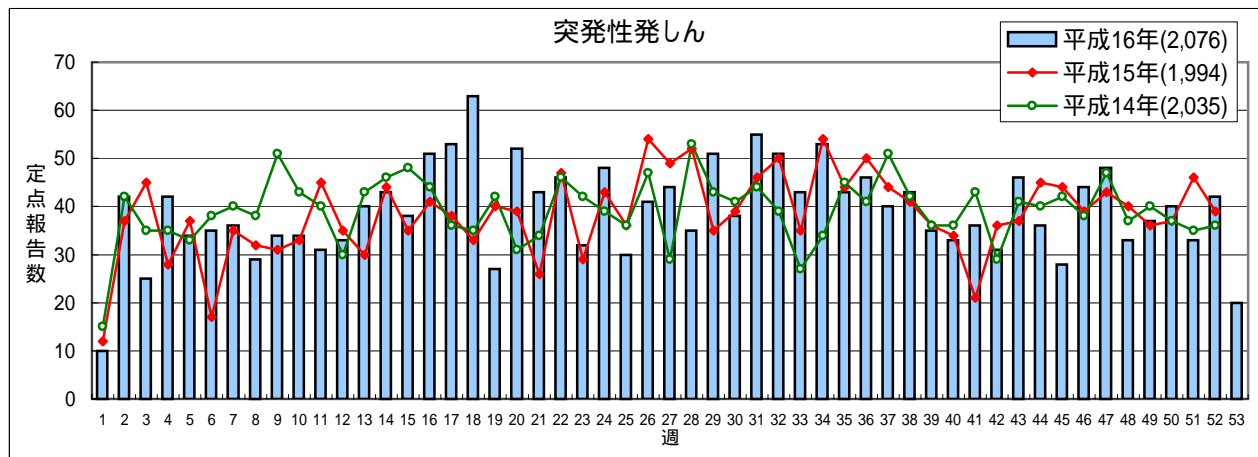
平成16年 報告数

週	1w	2w	3w	4w	5w	6w	7w	8w	9w	10w	11w	12w	13w	14w	15w	16w	17w	18w	19w	20w	21w	22w	23w	24w	25w	26w	27w
県北	0	3	0	1	1	3	1	0	2	0	6	4	2	2	4	1	2	7	2	2	4	7	9	9	1	7	7
郡山市	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	2	0	1	0	1	2	2	1	0	3	4	2	3	3	0
県中	0	0	0	1	0	0	0	1	1	0	2	4	5	2	2	4	0	3	0	0	1	3	2	1	0	2	0
県南	2	3	1	1	1	0	2	0	2	1	0	0	0	0	1	1	2	0	0	0	1	2	1	0	1	1	0
会津	0	0	0	3	0	0	0	0	2	1	0	1	2	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	1	0	0
南会津	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
相双	1	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	2	1	0	0	1	2	2	1	0	0	0	0	2	0
いわき市	0	0	1	0	0	0	0	2	2	1	1	0	1	1	2	0	0	1	0	3	1	4	3	2	7	8	6
H16	3	7	2	6	2	3	3	3	10	4	9	9	12	7	11	6	5	15	7	8	8	19	19	14	13	23	13
H15	5	22	17	15	11	19	12	11	11	5	4	9	8	13	8	12	4	3	9	8	10	15	12	21	10	5	5
H14	11	38	33	50	61	51	28	29	39	42	33	27	35	30	58	66	52	41	33	51	56	63	46	62	52	88	75
週	28w	29w	30w	31w	32w	33w	34w	35w	36w	37w	38w	39w	40w	41w	42w	43w	44w	45w	46w	47w	48w	49w	50w	51w	52w	53w	合計
県北	9	2	1	5	3	3	4	7	2	5	5	1	1	1	6	5	4	3	3	12	12	3	11	10	5	11	221
郡山市	1	1	2	0	1	1	2	1	2	0	1	3	2	2	1	4	13	7	17	20	23	17	9	20	26	7	208
県中	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	1	0	1	0	0	0	1	0	2	0	0	42
県南	1	0	3	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	2	33
会津	1	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	17
南会津	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	2
相双	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	7	1	0	1	1	0	0	28
いわき市	4	2	1	6	1	0	2	0	1	1	0	3	2	1	3	2	2	3	6	3	7	6	2	6	7	8	125
H16	16	5	8	11	7	4	9	8	7	7	7	8	5	4	11	12	22	14	27	42	45	27	23	39	39	28	676
H15	6	3	12	3	4	4	3	1	0	2	0	5	3	7	3	6	3	2	3	5	2	2	10	3	6	-	382
H14	82	62	27	21	17	5	18	37	14	17	9	6	19	7	12	10	15	18	9	21	15	21	18	21	13	-	1,764

年齢構成

	～6ヶ月	～12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	～14歳	～19歳	20歳～	合計
H16	5	18	35	38	57	68	109	81	81	83	46	39	3	13	676
H15	4	31	28	19	30	39	67	53	31	26	26	23	0	5	382

(66)突発性発しん



突発性発しん (48小児科定点)

定点からの年間報告数は2,076例あり、例年どおりの報告数となった。

年齢構成では、1歳までの報告がほとんど(97.7%)であった。

少ない 多い

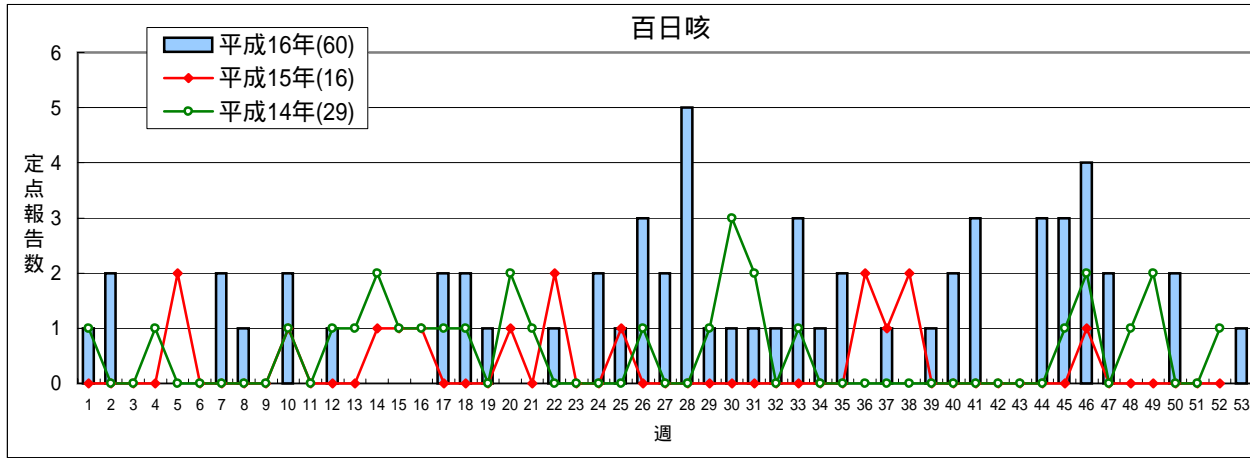
平成16年 報告数

週	1w	2w	3w	4w	5w	6w	7w	8w	9w	10w	11w	12w	13w	14w	15w	16w	17w	18w	19w	20w	21w	22w	23w	24w	25w	26w	27w
県北	1	9	4	14	7	12	8	7	5	7	10	9	10	11	8	11	14	15	6	14	10	9	9	13	7	9	13
郡山市	3	6	7	9	3	9	4	4	3	14	6	4	7	8	10	12	15	14	8	10	9	11	6	6	4	7	10
県中	1	2	2	0	0	0	1	1	0	5	2	4	3	4	3	3	0	2	2	4	4	4	1	4	5	2	5
県南	4	1	1	4	4	0	5	1	1	1	4	2	2	5	3	5	8	6	1	6	4	3	1	7	3	4	1
会津	1	4	1	3	2	4	7	3	1	1	1	0	6	7	3	8	2	6	3	3	2	4	3	1	2	2	3
南会津	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
相双	0	2	2	2	6	4	5	5	10	1	6	4	5	2	5	3	4	6	4	6	5	4	3	8	2	7	4
いわき市	0	18	8	10	12	6	6	8	12	5	2	10	7	6	6	9	10	14	3	9	9	11	8	9	7	10	7
H16	10	42	25	42	34	35	36	29	34	34	31	33	40	43	38	51	53	63	27	52	43	46	32	48	30	41	44
H15	12	37	45	28	37	17	35	32	31	33	45	35	30	44	35	41	38	33	40	39	26	47	29	43	36	54	49
H14	15	42	35	35	33	38	40	38	51	43	40	30	43	46	48	44	36	35	42	31	34	46	42	39	36	47	29
週	28w	29w	30w	31w	32w	33w	34w	35w	36w	37w	38w	39w	40w	41w	42w	43w	44w	45w	46w	47w	48w	49w	50w	51w	52w	53w	合計
県北	6	11	8	13	18	14	9	13	8	10	8	6	10	10	8	14	9	8	9	14	5	8	11	8	8	5	503
郡山市	10	13	11	16	9	9	13	5	7	5	8	5	6	3	8	8	9	4	7	9	13	9	8	5	8	4	421
県中	1	3	1	3	6	3	6	4	2	1	5	2	2	3	1	5	0	3	4	1	3	2	1	4	3	2	135
県南	3	5	4	4	3	2	1	6	3	5	3	6	4	0	1	5	5	2	8	7	2	3	4	2	2	4	181
会津	5	2	5	3	2	2	5	3	7	3	8	5	4	4	1	5	4	5	4	2	3	3	5	3	7	1	184
南会津	0	1	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	8
相双	8	9	4	8	7	6	9	7	9	4	5	5	4	4	6	6	6	5	5	5	3	6	4	3	6	3	262
いわき市	2	7	5	8	6	7	8	5	10	12	6	6	3	12	6	3	3	0	7	10	4	6	7	8	8	1	382
H16	35	51	38	55	51	43	53	43	46	40	43	35	33	36	31	46	36	28	44	48	33	37	40	33	42	20	2,076
H15	52	35	39	46	50	35	54	44	50	44	41	36	34	21	36	37	45	44	39	43	40	36	37	46	39	-	1,994
H14	53	43	41	44	39	27	34	45	41	51	42	36	36	43	29	41	40	42	38	47	37	40	37	35	36	-	2,035

年齢構成

	~6ヶ月	~12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	~14歳	~19歳	20歳~	合計
H16	132	1286	611	39	3	1	3	1	0	0	0	0	0	0	2,076
H15	134	1266	553	34	2	1	1	0	2	1	0	0	0	0	1,994

(67)百日咳



百日咳 (48小児科定点)

定点からの年間報告数は60例あり、過去2年と比較すると多かった。特に、郡山(17例)と相双(24例)からの報告が多かった。

年齢構成では、3歳までの報告がほとんど(53例)であった。

少ない 多い

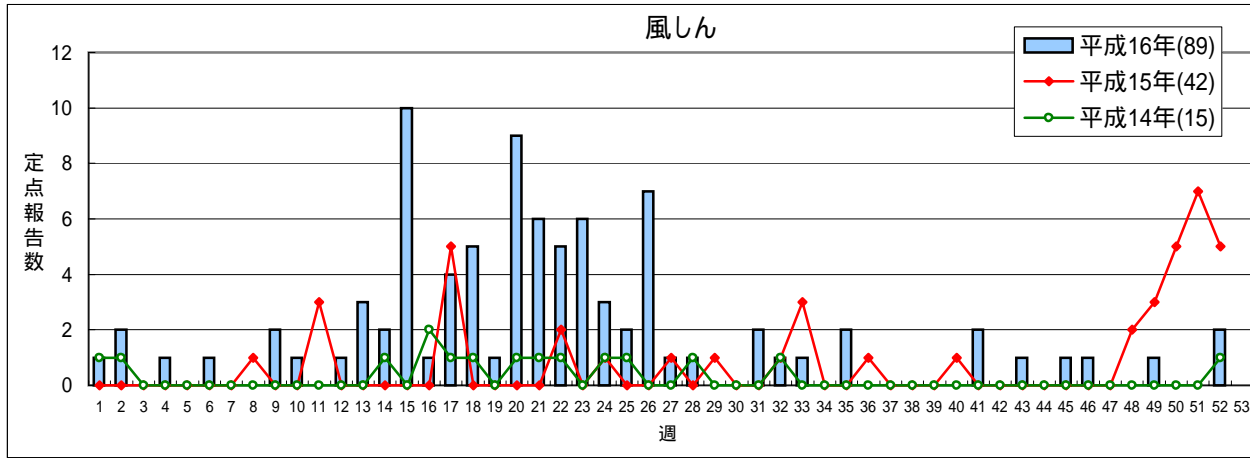
平成16年 報告数

週	1w	2w	3w	4w	5w	6w	7w	8w	9w	10w	11w	12w	13w	14w	15w	16w	17w	18w	19w	20w	21w	22w	23w	24w	25w	26w	27w
県北	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
郡山市	0	0	0	0	0	0	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	1	0	0	0	0	1
県中	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
県南	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
会津	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0
南会津	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
相双	1	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0
いわき市	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2	0
H16	1	2	0	0	0	0	2	1	0	2	0	1	0	0	0	0	2	2	1	0	0	1	0	2	1	3	2
H15	0	0	0	0	2	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	1	0	0	0	1	0	2	0	0	1	0	0
H14	1	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	1	1	2	1	1	1	1	0	2	1	0	0	0	0	1	0
週	28w	29w	30w	31w	32w	33w	34w	35w	36w	37w	38w	39w	40w	41w	42w	43w	44w	45w	46w	47w	48w	49w	50w	51w	52w	53w	合計
県北	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
郡山市	3	1	0	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	17
県中	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
県南	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4
会津	0	0	1	0	0	1	0	0	0	1	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6
南会津	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
相双	2	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	1	0	0	3	3	3	2	0	0	2	0	0	0	24
いわき市	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6
H16	5	1	1	1	1	3	1	2	0	1	0	1	2	3	0	0	3	3	4	2	0	0	2	0	0	1	60
H15	0	0	0	0	0	0	0	0	2	1	2	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	-	16
H14	0	1	3	2	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2	0	1	2	0	0	1	-	29

年齢構成

	~6ヶ月	~12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	~14歳	~19歳	20歳~	合計
H16	18	12	8	10	5	0	2	1	1	1	1	1	0	0	60
H15	1	5	3	2	2	0	0	1	1	0	0	1	0	0	16

(68)風しん



風しん (48小児科定点)

定点からの年間報告数は89例あり、過去2年と比較すると多かった。特に郡山(33例)、県中(21例)、県南(22例)からの報告が多かった。

年齢構成では、10~14歳が約1/4(22.5%)を占めた。

少ない 多い

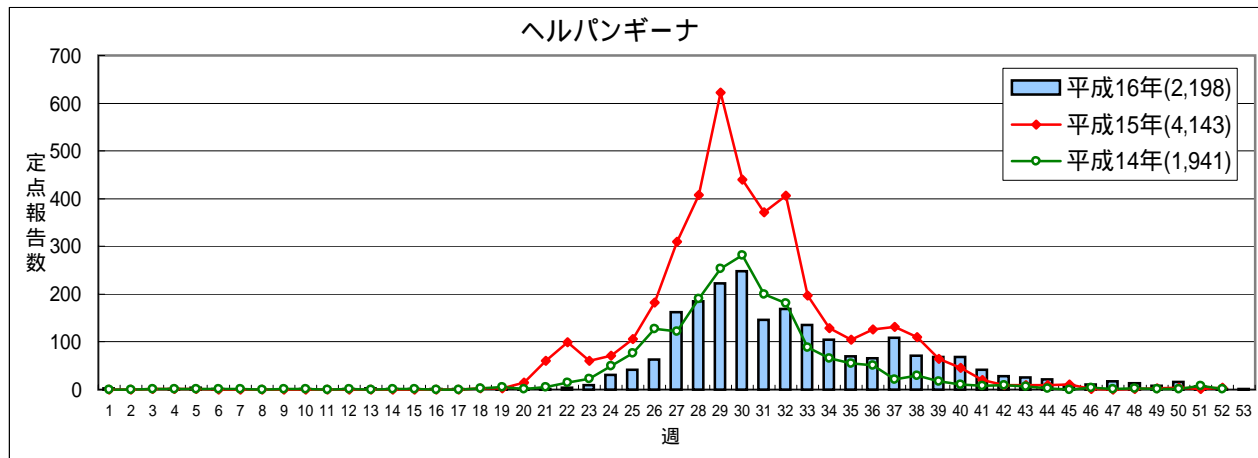
平成16年 報告数

週	1w	2w	3w	4w	5w	6w	7w	8w	9w	10w	11w	12w	13w	14w	15w	16w	17w	18w	19w	20w	21w	22w	23w	24w	25w	26w	27w
県北	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0
郡山市	1	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	3	1	6	1	3	4	0	4	4	0	2	0	0	2	0
県中	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	4	0	1	1	0	4	2	2	3	0	1	0	0
県南	0	2	0	1	0	1	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	1	0	3	0	3	1	5	1
会津	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
南会津	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
相双	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
いわき市	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
H16	1	2	0	1	0	1	0	0	2	1	0	1	3	2	10	1	4	5	1	9	6	5	6	3	2	7	1
H15	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	3	0	0	0	0	0	5	0	0	0	0	2	0	1	0	0	1
H14	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	2	1	1	0	1	1	1	0	1	1	0	0
週	28w	29w	30w	31w	32w	33w	34w	35w	36w	37w	38w	39w	40w	41w	42w	43w	44w	45w	46w	47w	48w	49w	50w	51w	52w	53w	合計
県北	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
郡山市	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	33
県中	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	21
県南	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	22
会津	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
南会津	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
相双	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
いわき市	0	0	0	2	0	1	0	2	0	0	0	0	0	2	0	0	0	1	1	0	0	1	0	0	1	0	11
H16	1	0	0	2	1	1	0	2	0	0	0	0	0	2	0	1	0	1	1	0	0	1	0	0	2	0	89
H15	0	1	0	0	1	3	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	2	3	5	7	5	-	42
H14	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	-	15

年齢構成

	~6ヶ月	~12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	~14歳	~19歳	20歳~	合計
H16	1	3	6	7	6	9	10	8	3	3	9	20	2	2	89
H15	0	1	2	2	1	4	1	3	1	2	3	11	6	5	42

(69)ヘルパンギーナ



ヘルパンギーナ（48小児科定点）

定点からの年間報告数は2,198例あり、6月ころから浜通りと会津を中心に流行が始まり、その後県南等の中通りに拡大し、10月上旬まで続いた。しかし、年間報告数は昨年の約半数であり、小規模流行となった。
年齢構成では、1歳の報告が最も多く、1/4以上(26.8%)を占めた。

少ない 多い

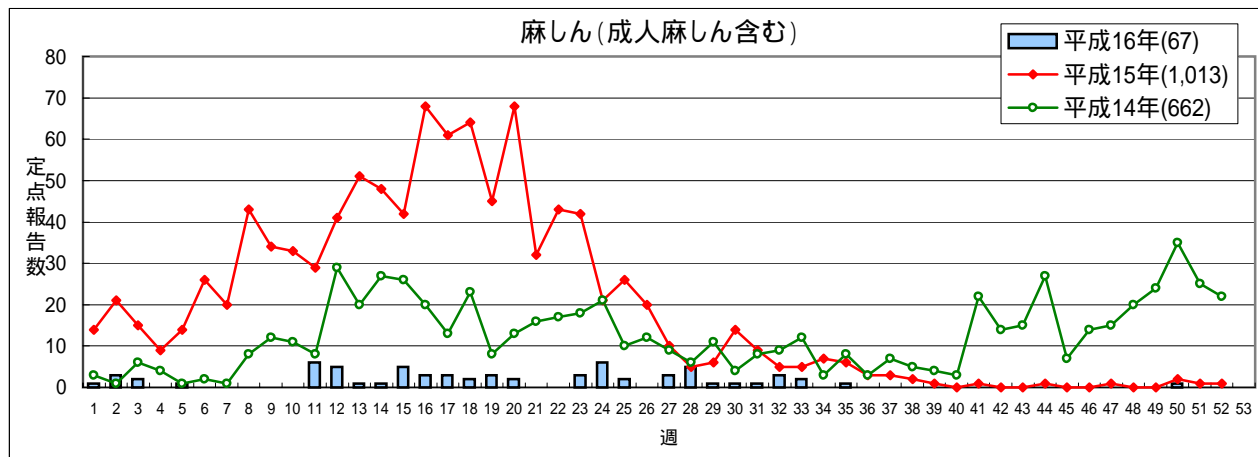
平成16年 報告数

週	1w	2w	3w	4w	5w	6w	7w	8w	9w	10w	11w	12w	13w	14w	15w	16w	17w	18w	19w	20w	21w	22w	23w	24w	25w	26w	27w
県北	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	7	1	3
郡山市	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	5	5	4	12
県中	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
県南	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	2	8
会津	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	5	11	32	90
南会津	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
相双	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	2	13	9	15	31
いわき市	2	0	0	1	4	1	0	0	0	1	0	0	2	2	2	1	0	0	0	1	0	4	2	7	9	9	18
H16	3	0	0	1	4	1	0	0	0	1	0	1	3	2	2	1	1	0	1	1	1	4	9	31	42	63	162
H15	0	0	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	3	15	60	99	60	71	106	182	310
H14	0	0	2	1	1	2	1	0	2	1	0	1	0	2	1	0	0	3	5	2	6	15	23	49	76	127	122
週	28w	29w	30w	31w	32w	33w	34w	35w	36w	37w	38w	39w	40w	41w	42w	43w	44w	45w	46w	47w	48w	49w	50w	51w	52w	53w	合計
県北	10	6	14	20	23	29	11	7	9	23	7	5	11	11	3	0	1	0	2	4	1	0	0	0	0	1	210
郡山市	4	11	19	17	15	14	25	18	12	21	16	25	17	9	11	4	5	1	3	4	3	1	2	0	1	0	286
県中	0	1	13	10	6	9	8	5	2	9	5	17	10	3	2	3	4	2	0	0	0	0	0	0	0	0	110
県南	4	9	27	10	34	30	18	11	15	21	23	13	12	6	2	4	1	0	1	0	0	1	2	1	0	0	258
会津	85	83	76	24	20	7	8	2	4	4	0	0	2	1	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	460
南会津	1	2	9	4	20	9	6	3	1	8	1	1	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	67
相双	32	40	24	11	18	13	6	4	5	5	9	2	4	0	1	0	2	3	2	4	3	3	3	0	0	0	266
いわき市	49	70	66	50	33	24	22	20	18	17	10	6	11	12	8	15	8	4	3	5	7	2	8	6	1	0	541
H16	185	222	248	146	169	135	104	70	66	108	71	69	68	42	28	26	21	10	11	17	14	8	16	7	2	1	2,198
H15	407	622	440	372	406	197	129	105	126	131	110	64	46	20	10	9	9	11	2	0	2	3	4	2	4	-	4,143
H14	190	254	282	200	181	89	66	55	51	21	30	18	11	8	10	7	3	0	4	2	3	2	2	8	2	-	1,941

年齢構成

	~6ヶ月	~12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	~14歳	~19歳	20歳~	合計
H16	17	185	590	500	340	229	184	74	26	15	18	17	2	1	2,198
H15	52	344	1030	860	603	495	364	173	82	56	38	40	1	5	4,143

(70)麻しん(成人麻しん含む)



麻しん(成人麻しん含む) (48小児科定点)

定点からの年間報告数は67例にとどまり、昨年の1/15以下で、年間を通して流行は見られず、散発事例のみであった。

年齢構成では、約1/4(25.4%・17例)が1歳までの報告であった。

少ない 多い

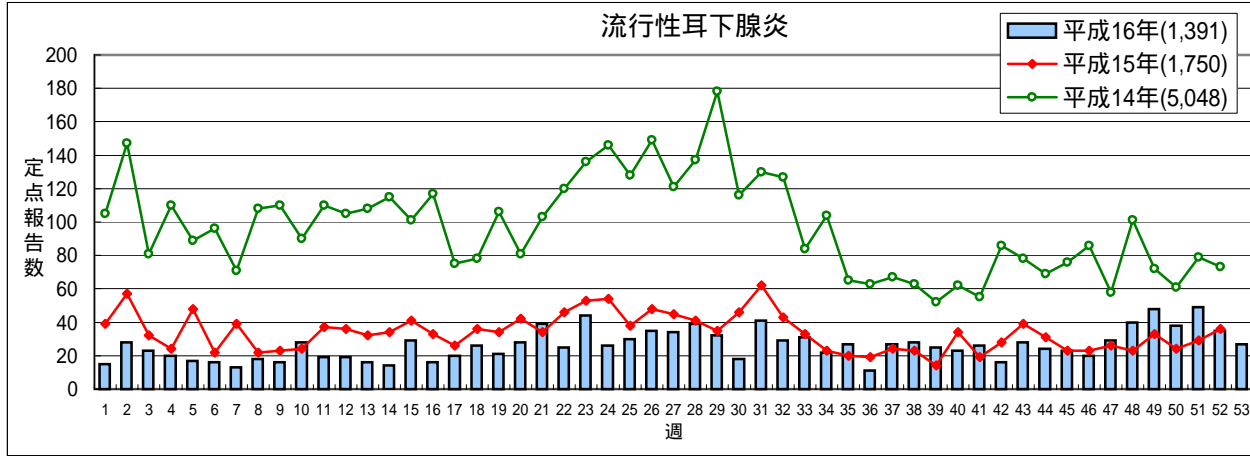
平成16年 報告数

週	1w	2w	3w	4w	5w	6w	7w	8w	9w	10w	11w	12w	13w	14w	15w	16w	17w	18w	19w	20w	21w	22w	23w	24w	25w	26w	27w
県北	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	6	5	0	1	4	3	3	1	0	0	0	0	0	2	0	0	0
郡山市	0	3	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1
県中	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
県南	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
会津	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
南会津	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
相双	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	1	0	0	2	2	1	0	1
いわき市	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	1	1	0	0	1	2	1	0	1
H16	1	3	2	0	1	0	0	0	0	0	6	5	1	1	5	3	3	2	3	2	0	0	3	6	2	0	3
H15	14	21	15	9	14	26	20	43	34	33	29	41	51	48	42	68	61	64	45	68	32	43	42	21	26	20	10
H14	3	1	6	4	1	2	1	8	12	11	8	29	20	27	26	20	13	23	8	13	16	17	18	21	10	12	9
週	28w	29w	30w	31w	32w	33w	34w	35w	36w	37w	38w	39w	40w	41w	42w	43w	44w	45w	46w	47w	48w	49w	50w	51w	52w	53w	合計
県北	1	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	32
郡山市	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6
県中	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
県南	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
会津	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
南会津	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
相双	3	0	0	0	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	16
いわき市	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	11
H16	5	1	1	1	3	2	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	67
H15	5	6	14	9	5	5	7	6	3	3	2	1	0	1	0	0	1	0	0	1	0	0	2	1	1	-	1,013
H14	6	11	4	8	9	12	3	8	3	7	5	4	3	22	14	15	27	7	14	15	20	24	35	25	22	-	662

年齢構成

	~6ヶ月	~12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	~14歳	~19歳	20歳~	合計
H16	2	7	8	7	4	2	3	0	3	2	2	8	5	14	67
H15	23	170	187	73	66	56	53	44	42	46	33	109	60	51	1,013

(71)流行性耳下腺炎



流行性耳下腺炎（48小児科定点）

定点からの年間報告数は1,391例あり、年間を通していわきで流行が見られた。
年齢構成では、5歳をピークに2～7歳の報告が多く、7割(75.9%)を占めた。

少ない 多い

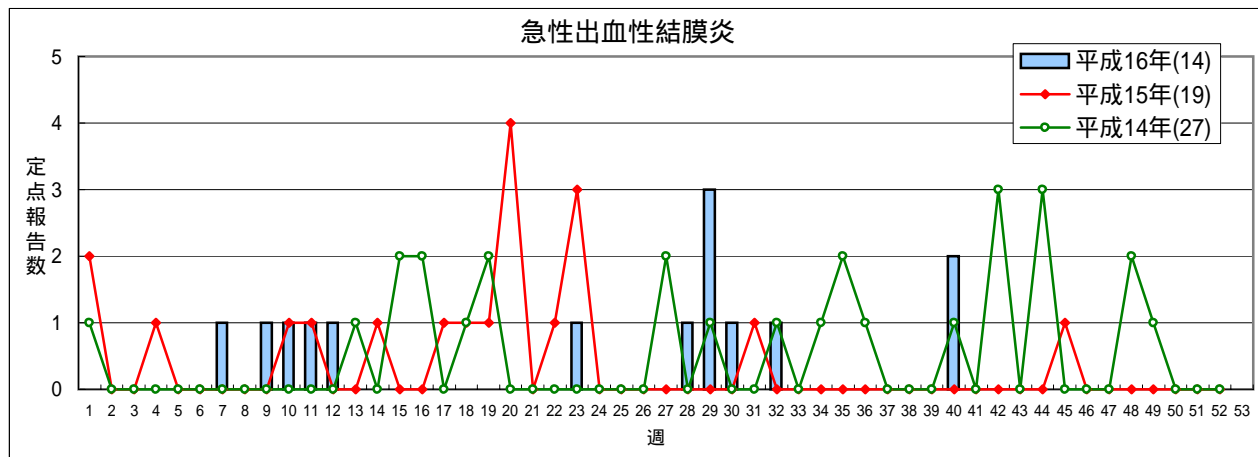
平成16年 報告数

週	1w	2w	3w	4w	5w	6w	7w	8w	9w	10w	11w	12w	13w	14w	15w	16w	17w	18w	19w	20w	21w	22w	23w	24w	25w	26w	27w
県北	1	5	2	2	1	0	2	2	3	5	2	1	1	2	4	0	5	1	0	2	3	1	3	1	4	1	
郡山市	3	3	0	0	1	0	2	3	3	0	2	0	0	1	0	2	0	1	1	0	2	2	2	2	3	2	4
県中	0	3	1	4	1	0	0	0	1	0	0	0	0	1	2	2	4	0	0	1	0	2	2	1	0	1	0
県南	1	1	4	1	1	3	1	1	0	4	0	3	5	0	4	1	3	9	5	16	9	4	10	2	6	9	3
会津	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	2	0	0	1	0	0	0	2	1	1	0	1	1	0	1	1	2
南会津	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
相双	3	1	0	0	2	0	1	1	0	1	1	1	0	0	0	0	1	0	1	0	1	2	1	2	1	0	0
いわき市	6	15	16	13	11	13	7	10	8	18	12	14	10	9	19	11	7	13	13	10	25	11	27	16	18	18	24
H16	15	28	23	20	17	16	13	18	16	28	19	19	16	14	29	16	20	26	21	28	39	25	44	26	30	35	34
H15	39	57	32	24	48	22	39	22	23	24	37	36	32	34	41	33	26	36	34	42	34	46	53	54	38	48	45
H14	105	147	81	110	89	96	71	108	110	90	110	105	108	115	101	117	75	78	106	81	103	120	136	146	128	149	121
週	28w	29w	30w	31w	32w	33w	34w	35w	36w	37w	38w	39w	40w	41w	42w	43w	44w	45w	46w	47w	48w	49w	50w	51w	52w	53w	合計
県北	11	2	1	1	3	4	1	9	5	4	6	7	4	5	0	4	0	1	0	3	6	2	5	8	4	5	155
郡山市	4	4	1	3	0	5	1	3	0	4	3	0	4	2	0	5	5	6	2	1	2	0	2	6	1	2	105
県中	1	0	0	0	1	1	0	1	0	2	0	1	0	0	5	1	1	2	1	2	1	3	3	2	0	1	55
県南	3	0	0	1	2	2	3	1	0	2	3	5	1	8	3	3	3	2	5	3	3	12	11	7	13	1	203
会津	0	0	1	0	0	0	2	0	0	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	2	0	1	26
南会津	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
相双	0	0	1	1	2	1	0	0	1	4	3	0	3	6	3	9	4	3	3	11	16	14	9	10	15	4	143
いわき市	20	26	14	35	21	18	15	13	5	10	11	11	11	5	5	6	11	9	9	9	12	15	8	14	2	13	702
H16	39	32	18	41	29	31	22	27	11	27	28	25	23	26	16	28	24	23	20	29	40	48	38	49	35	27	1,391
H15	41	35	46	62	43	33	23	20	19	24	23	14	34	19	28	39	31	23	23	26	23	33	24	29	36	-	1,750
H14	137	178	116	130	127	84	104	65	63	67	63	52	62	55	86	78	69	76	86	58	101	72	61	79	73	-	5,048

年齢構成

	～6ヶ月	～12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	～14歳	～19歳	20歳～	合計
H16	0	11	62	123	142	213	271	187	120	80	68	95	9	10	1,391
H15	3	6	66	147	225	305	353	202	142	101	62	101	11	26	1,750

(73)急性出血性結膜炎



急性出血性結膜炎（12眼科定点）

定点からの年間報告数は14例あり、年間をとおして散発事例のみであった。

少ない 多い

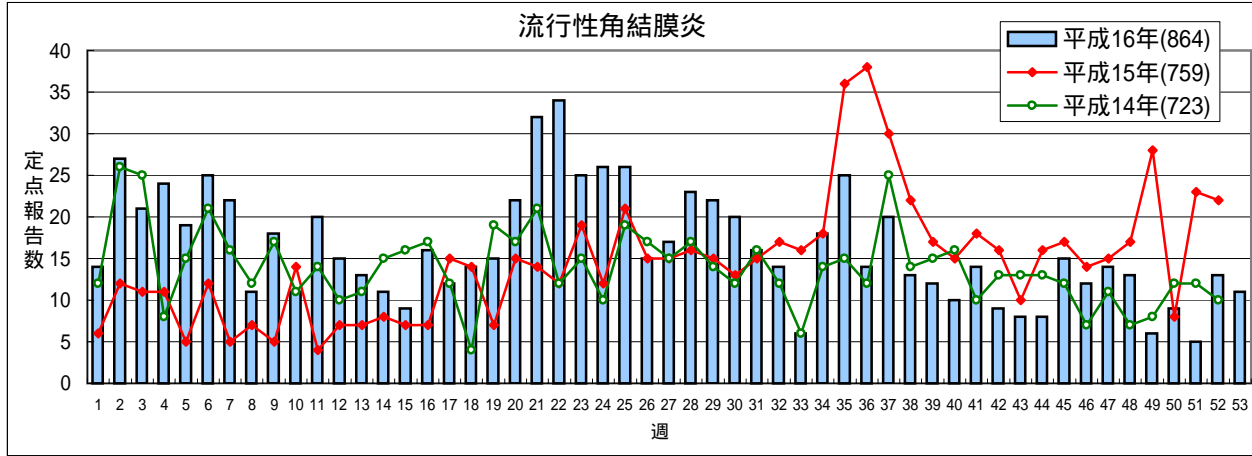
平成16年 報告数

週	1w	2w	3w	4w	5w	6w	7w	8w	9w	10w	11w	12w	13w	14w	15w	16w	17w	18w	19w	20w	21w	22w	23w	24w	25w	26w	27w
県北	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
郡山市	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
県中	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0
県南	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
会津	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
南会津	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
相双	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
いわき市	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
H16	0	0	0	0	0	0	1	0	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0
H15	2	0	0	1	0	0	0	0	0	1	1	0	0	1	0	0	1	1	1	1	4	0	1	3	0	0	0
H14	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	2	2	0	1	2	0	0	0	0	0	0	0	2
週	28w	29w	30w	31w	32w	33w	34w	35w	36w	37w	38w	39w	40w	41w	42w	43w	44w	45w	46w	47w	48w	49w	50w	51w	52w	53w	合計
県北	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3
郡山市	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4
県中	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
県南	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
会津	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
南会津	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
相双	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
いわき市	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4
H16	1	3	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	14
H15	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	-	19
H14	0	1	0	0	1	0	1	2	1	0	0	0	1	0	3	0	3	0	0	0	0	2	1	0	0	0	27

年齢構成

	～6ヶ月	～12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	～14歳	～19歳	～29歳	～39歳	～49歳	～59歳	～69歳	70歳～	合計
H16	0	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	7	1	2	0	0	1	14
H15	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	5	5	2	3	1	1	19

(74)流行性角結膜炎



流行性角結膜炎 (12眼科定点)

定点からの年間報告数は864例あり、年間を通して流行は見られなかった。

年齢構成では、20歳以上が約7割(73.8%)を占め、特に20歳代・30歳代の報告が多かった。

少ない 多い

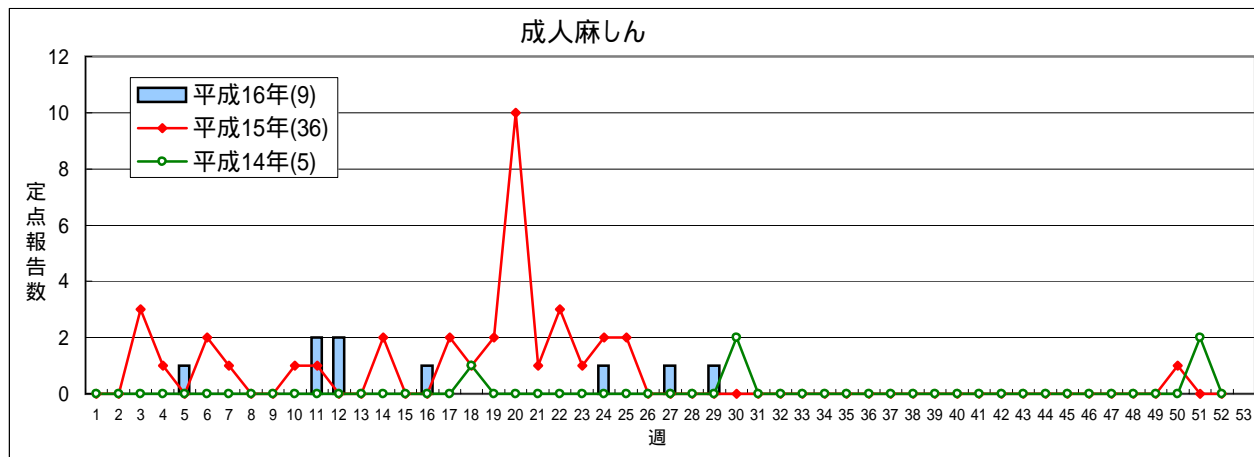
平成16年 報告数

週	1w	2w	3w	4w	5w	6w	7w	8w	9w	10w	11w	12w	13w	14w	15w	16w	17w	18w	19w	20w	21w	22w	23w	24w	25w	26w	27w
県北	2	1	4	6	5	5	1	2	4	1	3	5	1	1	1	2	5	6	0	2	3	16	9	6	12	3	6
郡山市	2	5	10	6	3	5	4	2	5	5	4	2	3	2	2	3	1	0	3	0	6	0	2	1	1	1	3
県中	0	3	1	2	0	4	1	2	2	1	5	0	1	1	0	1	1	2	1	8	5	2	1	4	5	2	2
県南	4	5	2	4	2	6	9	2	2	0	1	3	1	1	1	4	0	1	0	4	0	0	0	1	1	1	1
会津	3	11	1	2	3	2	0	2	1	1	1	1	0	4	1	0	2	1	0	0	1	2	1	3	0	1	1
南会津	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
相双	0	1	1	2	2	1	4	1	2	0	2	3	4	0	3	2	1	1	4	3	8	5	7	2	0	1	1
いわき市	3	1	2	2	4	2	3	0	2	3	4	1	3	2	1	4	2	3	7	5	9	9	5	9	7	6	3
H16	14	27	21	24	19	25	22	11	18	11	20	15	13	11	9	16	12	14	15	22	32	34	25	26	26	15	17
H15	6	12	11	11	5	12	5	7	5	14	4	7	7	8	7	7	15	14	7	15	14	12	19	12	21	15	15
H14	12	26	25	8	15	21	16	12	17	11	14	10	11	15	16	17	12	4	19	17	21	12	15	10	19	17	15
週	28w	29w	30w	31w	32w	33w	34w	35w	36w	37w	38w	39w	40w	41w	42w	43w	44w	45w	46w	47w	48w	49w	50w	51w	52w	53w	合計
県北	5	6	3	3	3	0	9	5	2	2	0	1	2	1	0	0	0	0	0	1	3	0	0	0	2	0	160
郡山市	4	0	1	4	1	0	3	2	1	2	0	1	0	3	3	5	3	5	1	3	2	3	4	1	7	4	144
県中	0	3	2	1	0	0	0	3	0	1	2	1	0	2	0	0	1	2	2	1	1	0	1	2	0	1	83
県南	2	8	7	5	3	2	1	4	4	5	5	0	1	1	2	0	2	4	3	4	3	2	1	1	1	4	131
会津	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	2	0	1	2	1	2	0	1	1	0	0	0	57
南会津	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
相双	2	0	0	0	2	1	2	2	2	2	2	0	1	1	1	0	0	1	2	1	1	0	0	0	1	0	85
いわき市	10	4	7	3	5	3	3	8	5	8	4	9	6	6	1	3	1	1	3	2	3	0	2	1	2	2	204
H16	23	22	20	16	14	6	18	25	14	20	13	12	10	14	9	8	8	15	12	14	13	6	9	5	13	11	864
H15	16	15	13	15	17	16	18	36	38	30	22	17	15	18	16	10	16	17	14	15	17	28	8	23	22	-	759
H14	17	14	12	16	12	6	14	15	12	25	14	15	16	10	13	13	13	12	7	11	7	8	12	12	10	-	723

年齢構成

	~6ヶ月	~12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	~14歳	~19歳	~29歳	~39歳	~49歳	~59歳	~69歳	70歳~	合計
H16	4	8	17	13	21	16	26	22	11	12	10	29	37	154	178	94	93	75	44	864
H15	5	4	18	19	16	23	13	12	8	2	10	25	39	143	172	66	70	50	64	759

(83)成人麻しん



成人麻しん (7基幹定点)

定点からの年間報告数は9例(県北7例、郡山・県南各1例)あった。

年齢構成では、20歳代が6名、30歳代が2名、60歳代が1名であった。

少ない 多い

平成16年 報告数

週	1w	2w	3w	4w	5w	6w	7w	8w	9w	10w	11w	12w	13w	14w	15w	16w	17w	18w	19w	20w	21w	22w	23w	24w	25w	26w	27w
県北	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0
郡山市	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
県中	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
県南	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
会津	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
南会津	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
相双	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
いわき市	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
H16	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	2	2	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
H15	0	0	3	1	0	2	1	0	0	1	1	0	0	2	0	0	2	1	2	10	1	3	1	2	2	0	0
H14	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
週	28w	29w	30w	31w	32w	33w	34w	35w	36w	37w	38w	39w	40w	41w	42w	43w	44w	45w	46w	47w	48w	49w	50w	51w	52w	53w	合計
県北	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	7
郡山市	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
県中	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
県南	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
会津	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
南会津	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
相双	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
いわき市	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
H16	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	9
H15	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	36
H14	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	5

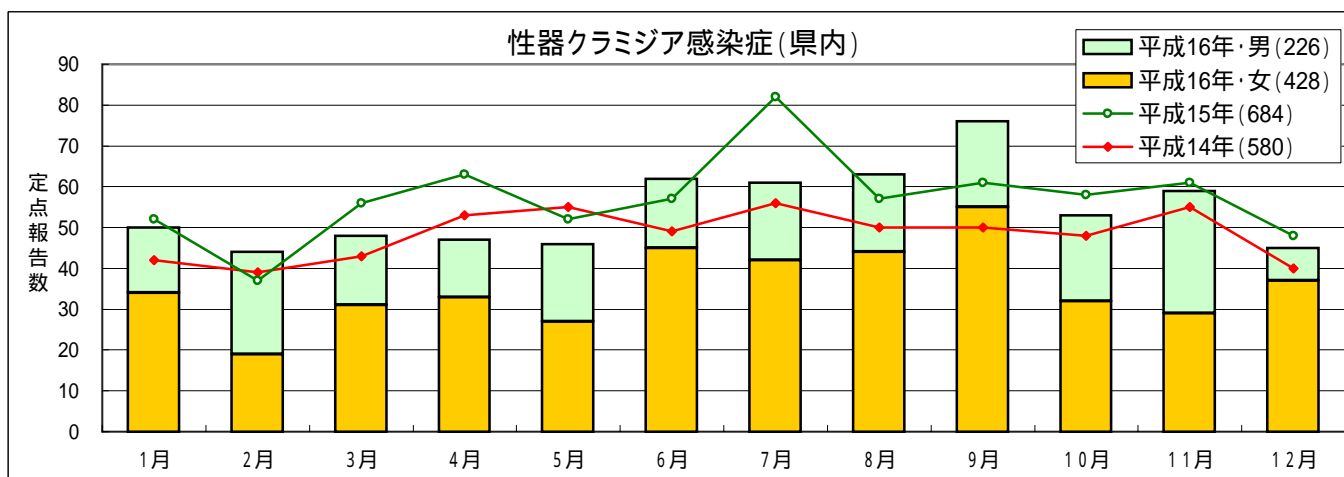
年齢構成

	~0歳	~4歳	~9歳	~14歳	~19歳	~24歳	~29歳	~34歳	~39歳	~44歳	~49歳	~54歳	~59歳	~64歳	~69歳	70歳~	合計
H16	0	0	0	0	0	3	3	2	0	0	0	0	0	1	0	0	9
H15	0	0	0	0	9	11	12	3	0	1	0	0	0	0	0	0	36

(75) 性器クラミジア感染症

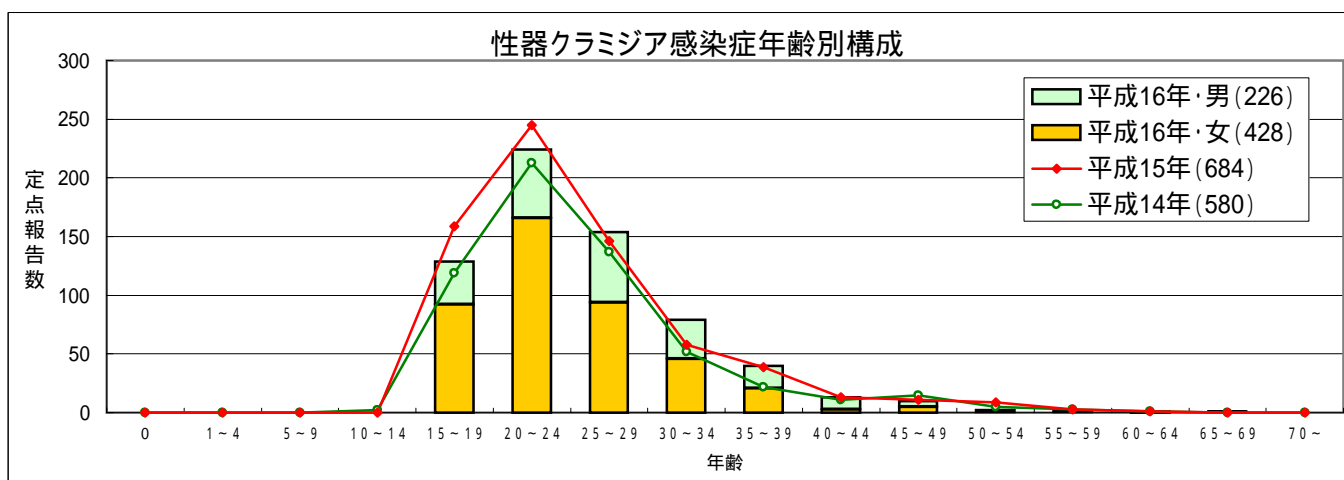
(16STD定点)

定点からの年間報告数は654例(男226例、女428例)あり、15～29歳の報告が多かった。
また、年齢構成の全国との比較では、15～24歳の感染者の占める割合が高かった。

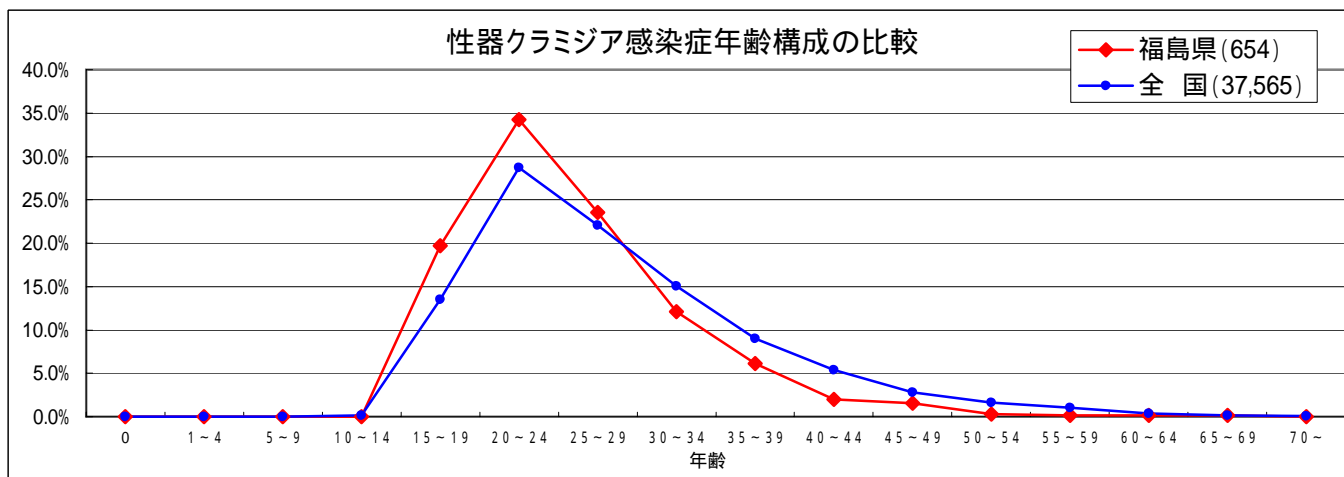


	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	累計
平成16年・男(226)	16	25	17	14	19	17	19	19	21	21	30	8	226
平成16年・女(428)	34	19	31	33	27	45	42	44	55	32	29	37	428
平成16年(654)	50	44	48	47	46	62	61	63	76	53	59	45	654
平成15年(684)	52	37	56	63	52	57	82	57	61	58	61	48	684
平成14年(580)	42	39	43	53	55	49	56	50	50	48	55	40	580

平成14～16年 県内の年齢別構成

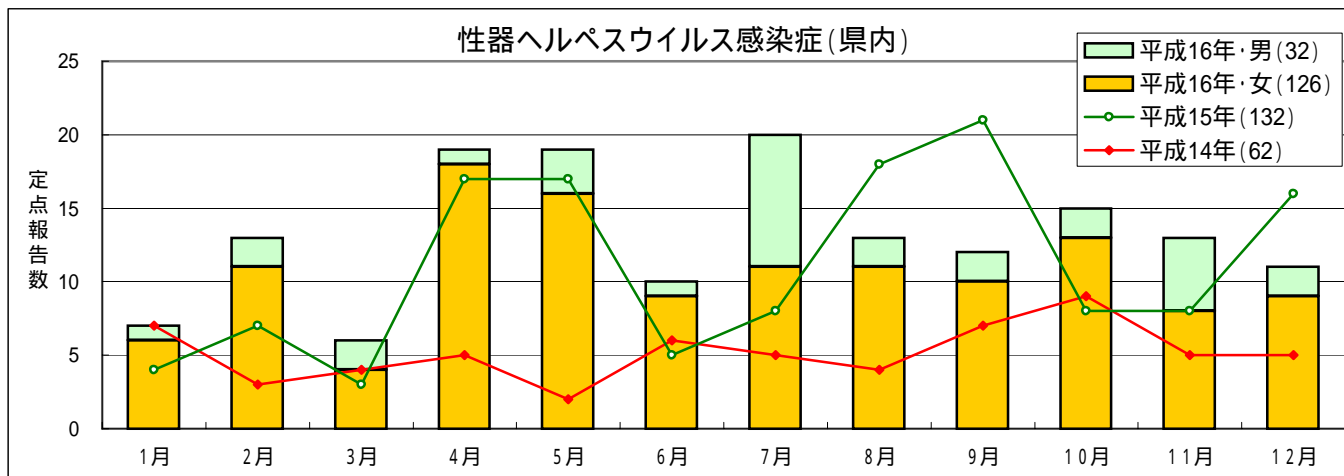


平成16年 年齢構成の比較



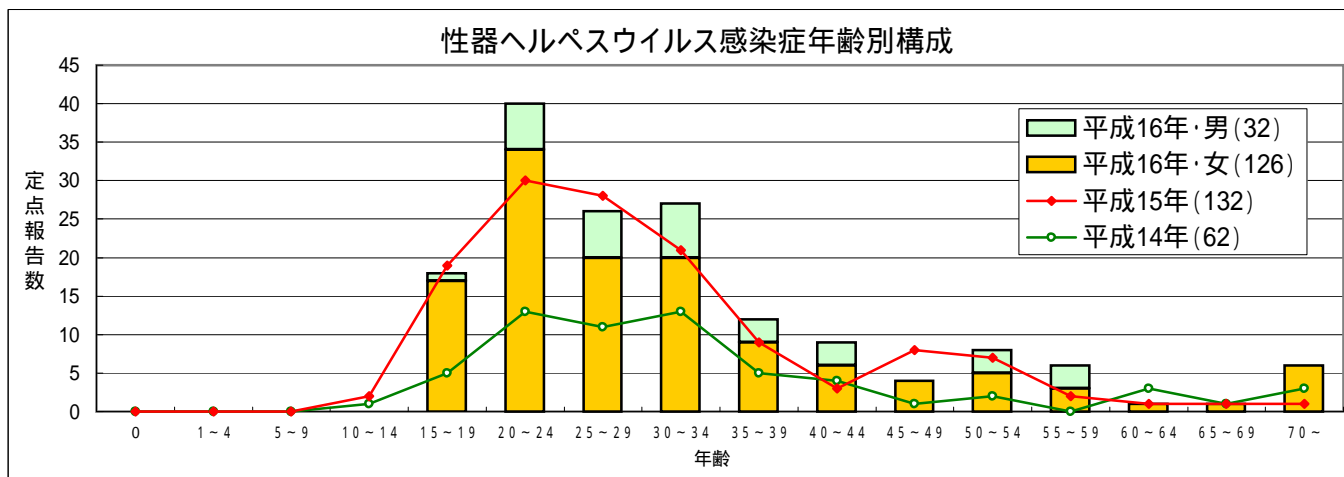
(76) 性器ヘルペスウイルス感染症 (16STD定点)

定点からの年間報告数は158例(男32例、女126例)あり、20～34歳の報告が多かった。
 また、年齢構成の全国との比較では、15～24歳、30～34歳の感染者の占める割合が高かった。

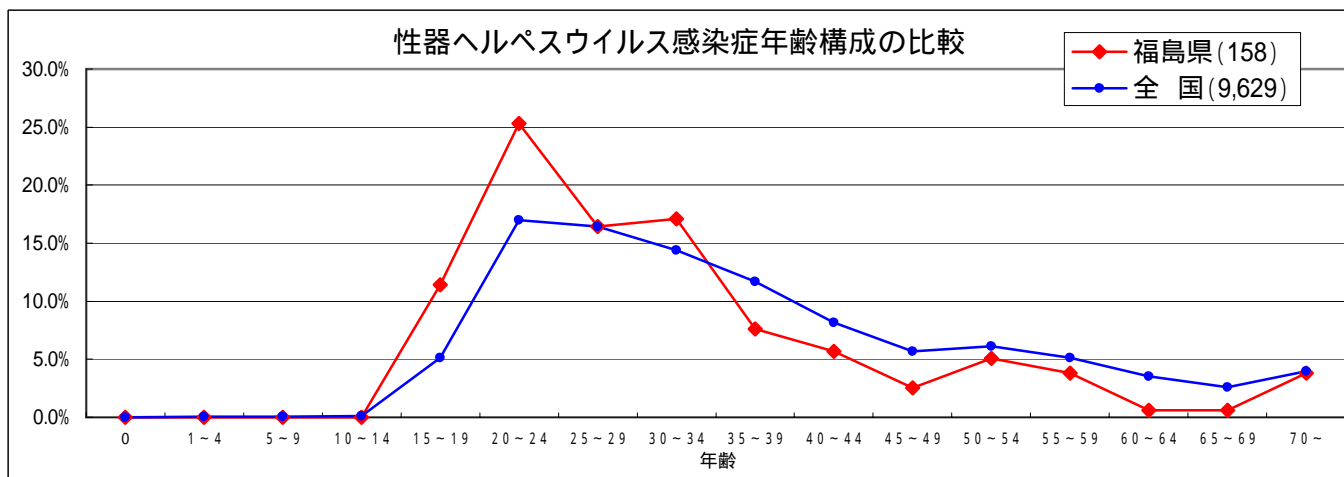


	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	累計
平成16年・男(32)	1	2	2	1	3	1	9	2	2	2	5	2	32
平成16年・女(126)	6	11	4	18	16	9	11	11	10	13	8	9	126
平成16年(158)	7	13	6	19	19	10	20	13	12	15	13	11	158
平成15年(132)	4	7	3	17	17	5	8	18	21	8	8	16	132
平成14年(62)	7	3	4	5	2	6	5	4	7	9	5	5	62

平成14～16年 県内の年齢別構成



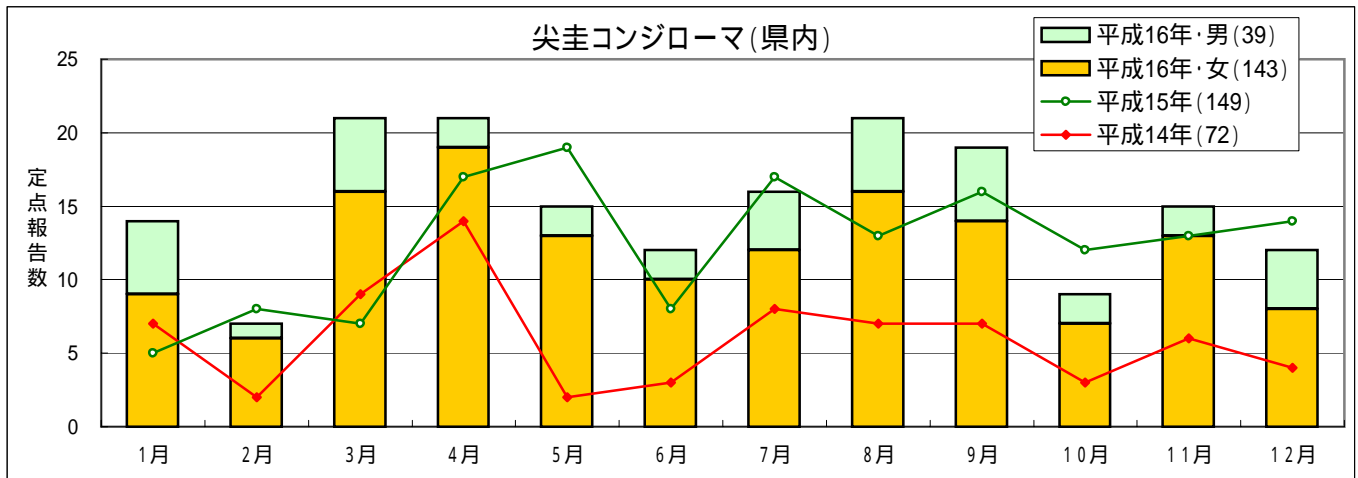
平成16年 年齢構成の比較



(77)尖圭コンジローマ

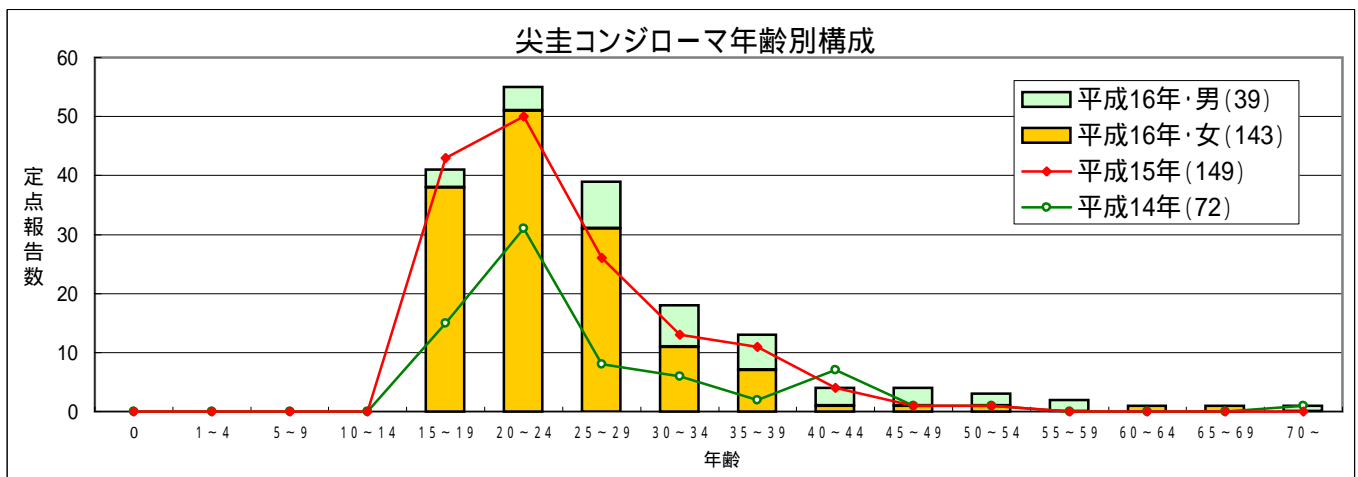
(16STD定点)

定点からの年間報告数は182例(男39例、女143例)あり、15～29歳の報告が多かった。
また、年齢構成の全国との比較では、15～24歳の感染者の占める割合が高かった。

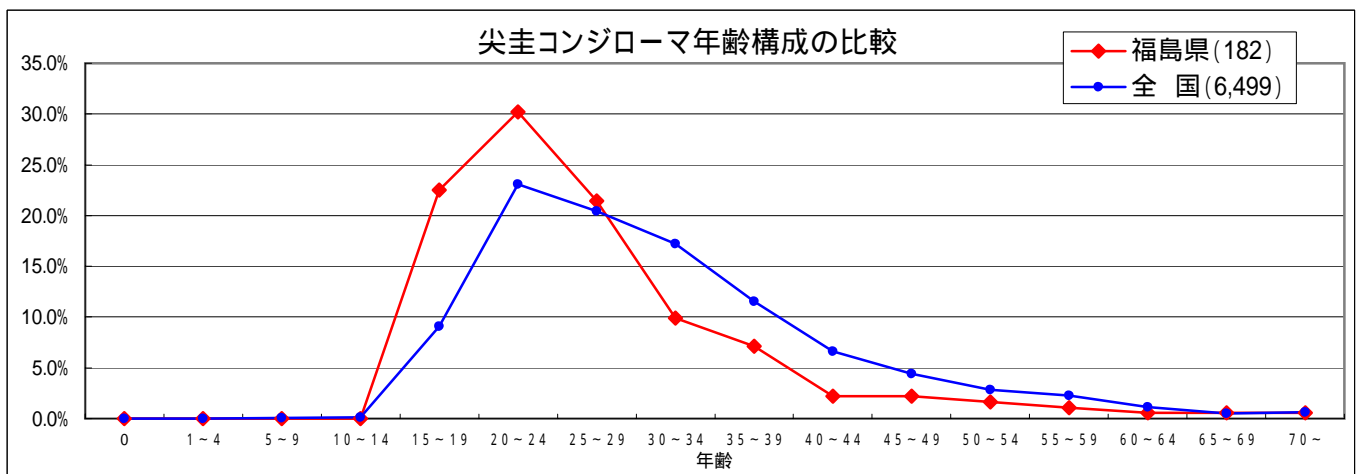


	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	累計
平成16年・男(39)	5	1	5	2	2	2	4	5	5	2	2	4	39
平成16年・女(143)	9	6	16	19	13	10	12	16	14	7	13	8	143
平成16年(182)	14	7	21	21	15	12	16	21	19	9	15	12	182
平成15年(149)	5	8	7	17	19	8	17	13	16	12	13	14	149
平成14年(72)	7	2	9	14	2	3	8	7	7	3	6	4	72

平成14～16年 県内の年齢別構成



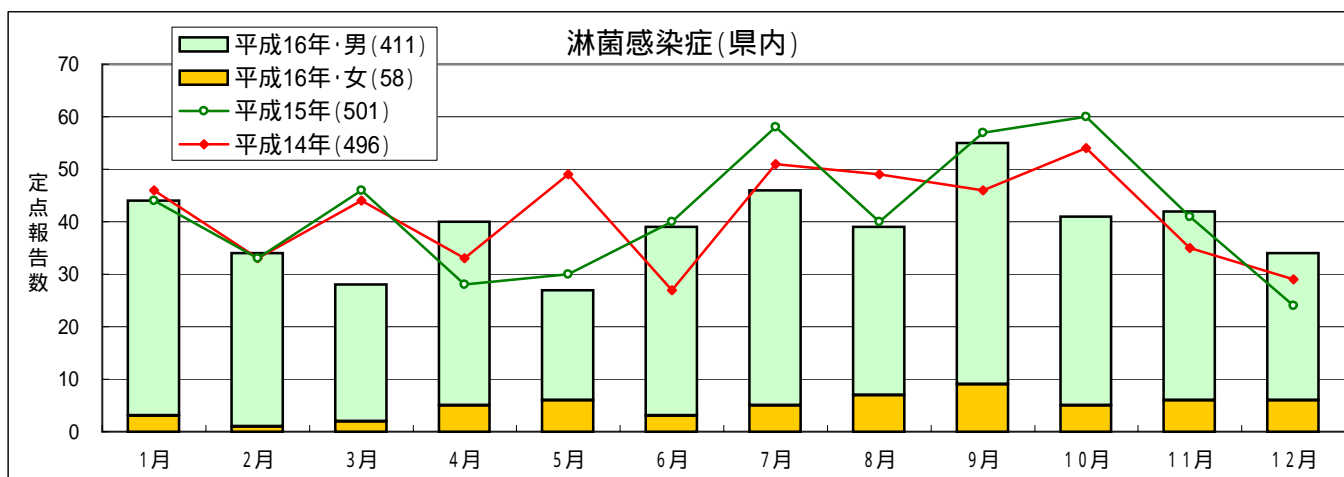
平成16年 年齢構成の比較



(78) 淋菌感染症

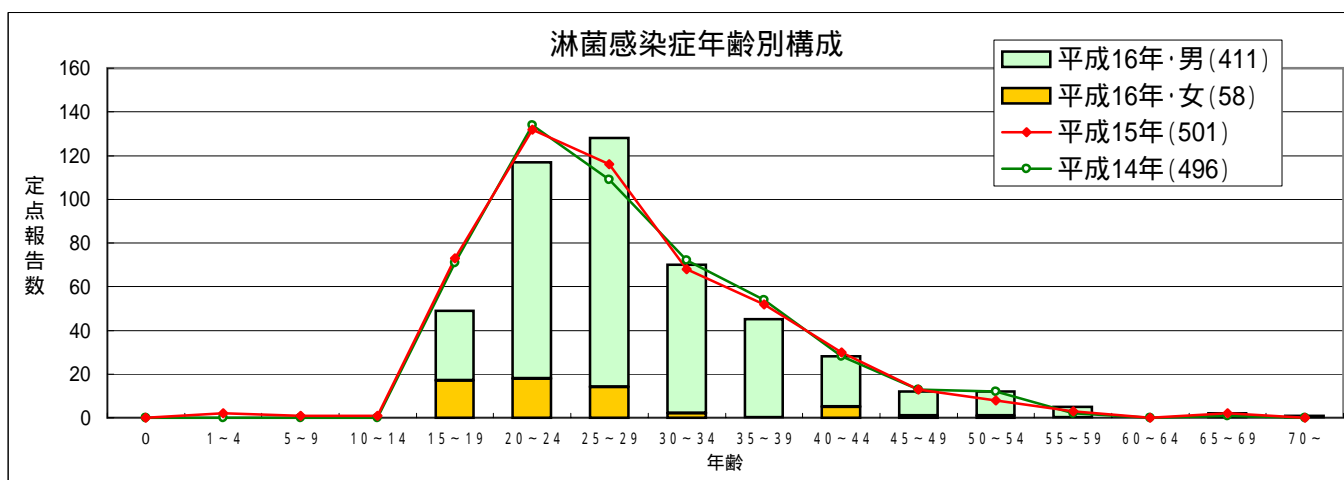
(16STD定点)

定点からの年間報告数は469例(男411例、女58例)あり、20～34歳の報告が多かった。
また、年齢構成の全国との比較では、25～29歳の感染者の占める割合が高かった。

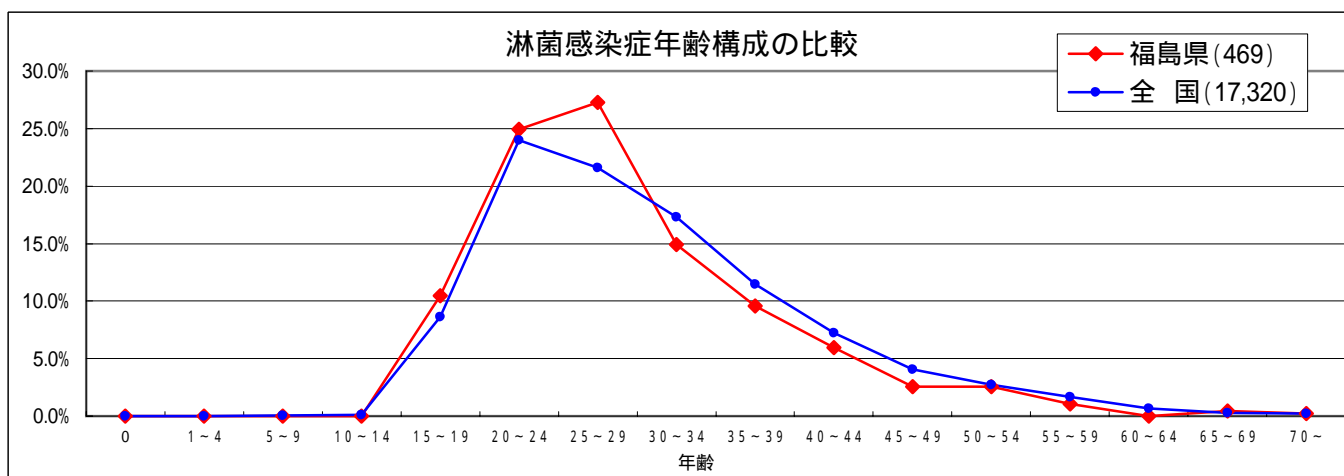


	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	累計
平成16年・男(411)	41	33	26	35	21	36	41	32	46	36	36	28	411
平成16年・女(58)	3	1	2	5	6	3	5	7	9	5	6	6	58
平成16年(469)	44	34	28	40	27	39	46	39	55	41	42	34	469
平成15年(501)	44	33	46	28	30	40	58	40	57	60	41	24	501
平成14年(496)	46	33	44	33	49	27	51	49	46	54	35	29	496

平成14～16年 県内の年齢別構成



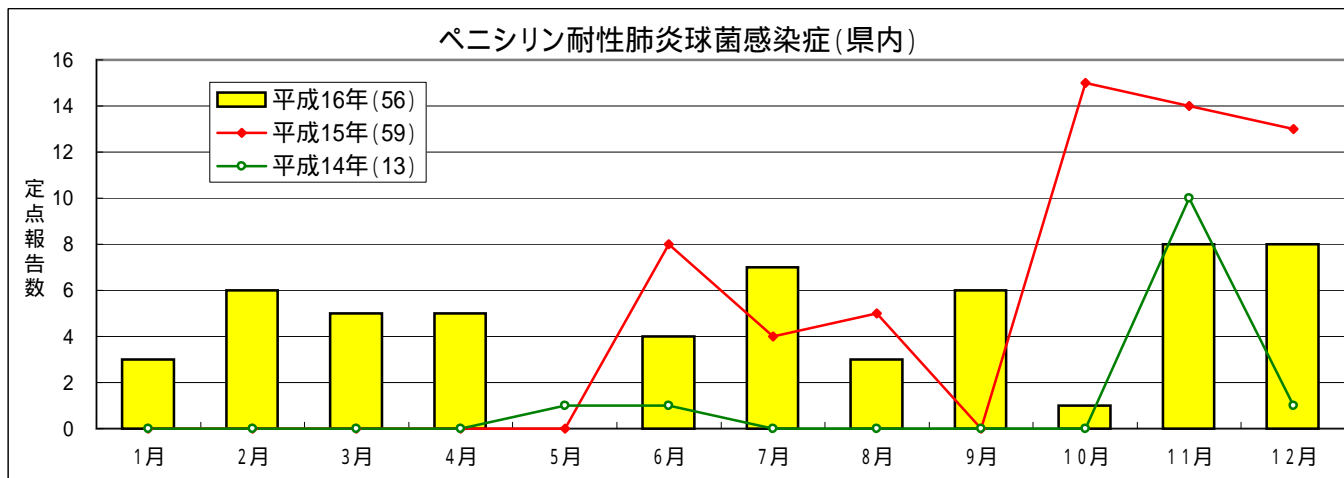
平成16年 年齢構成の比較



(81) ペニシリン耐性肺炎球菌感染症

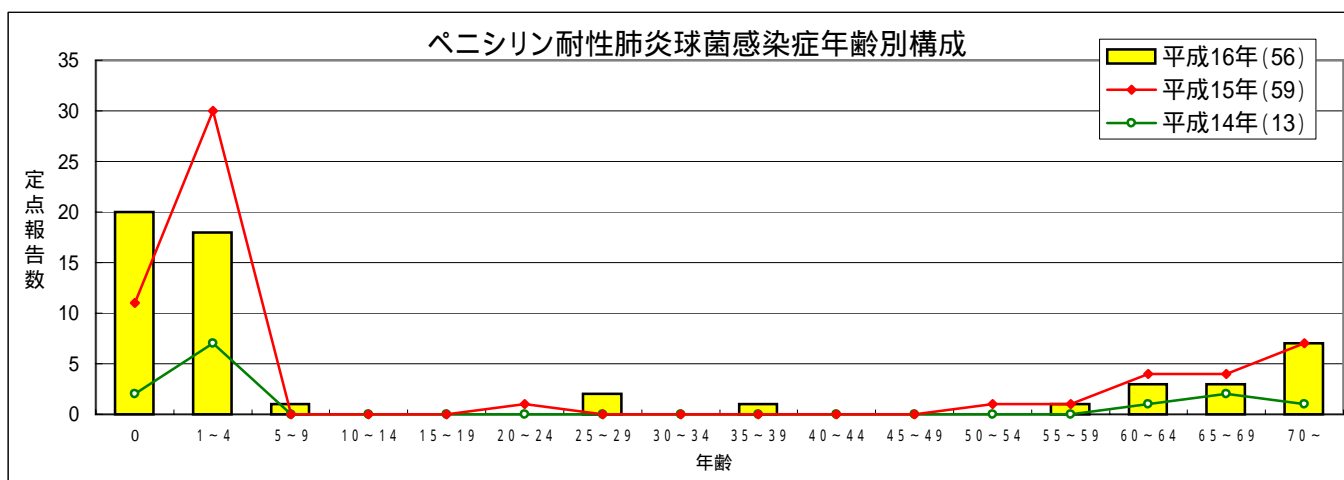
(7基幹定点)

定点からの年間報告数は56例あり、0～4歳、70歳以上の報告が多かった。
また、年齢構成の全国との比較では、0歳の感染者の占める割合が高かった。

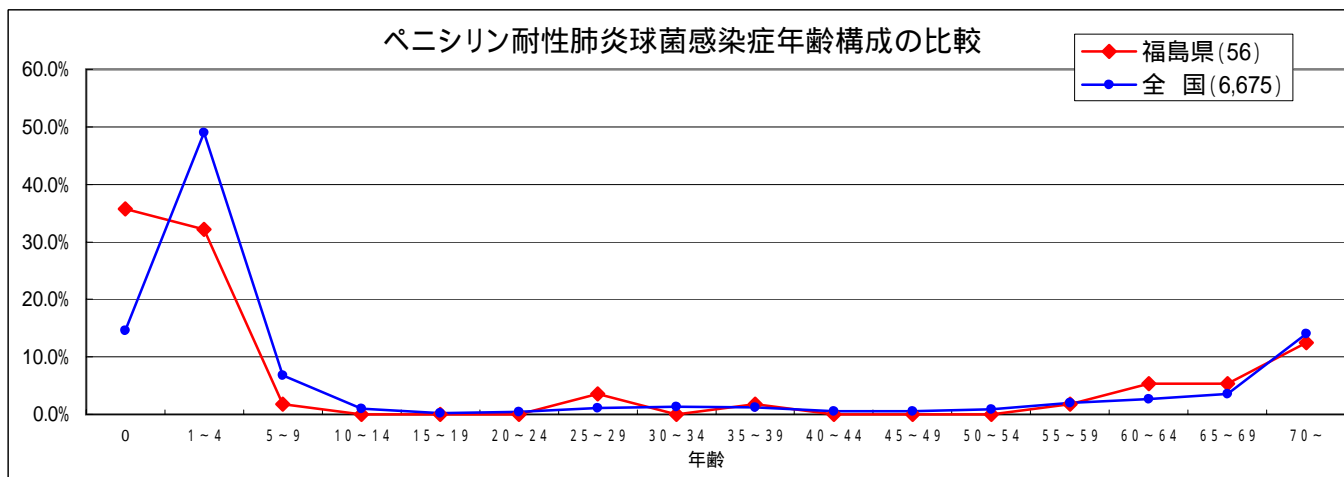


	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	累計
平成16年(56)	3	6	5	5	0	4	7	3	6	1	8	8	56
平成15年(59)	0	0	0	0	0	8	4	5	0	15	14	13	59
平成14年(13)	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	10	1	13

平成14～16年 県内の年齢別構成

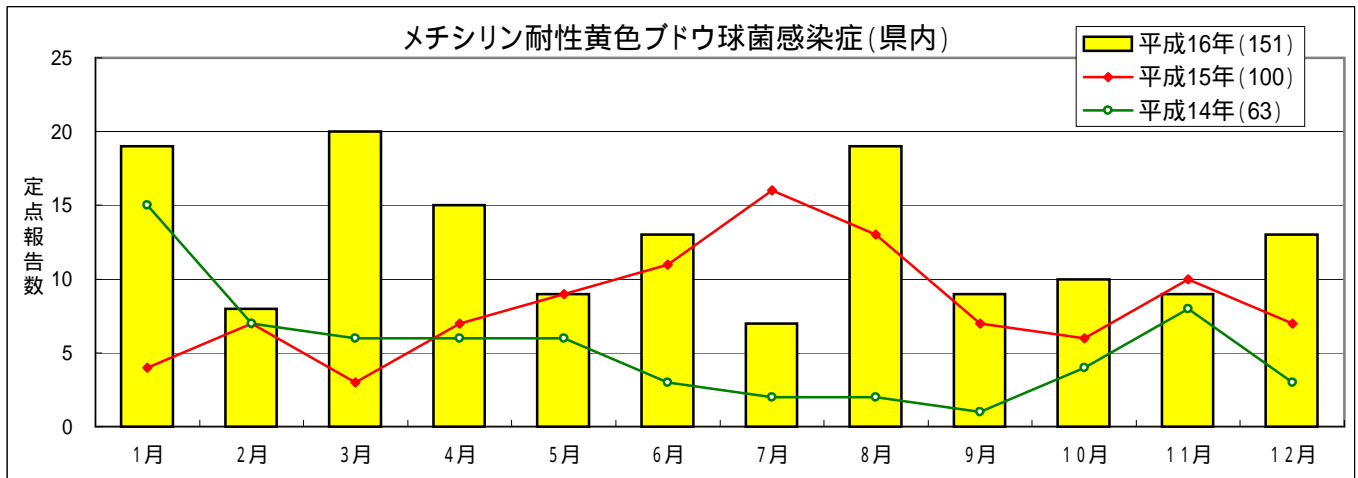


平成16年 年齢構成の比較



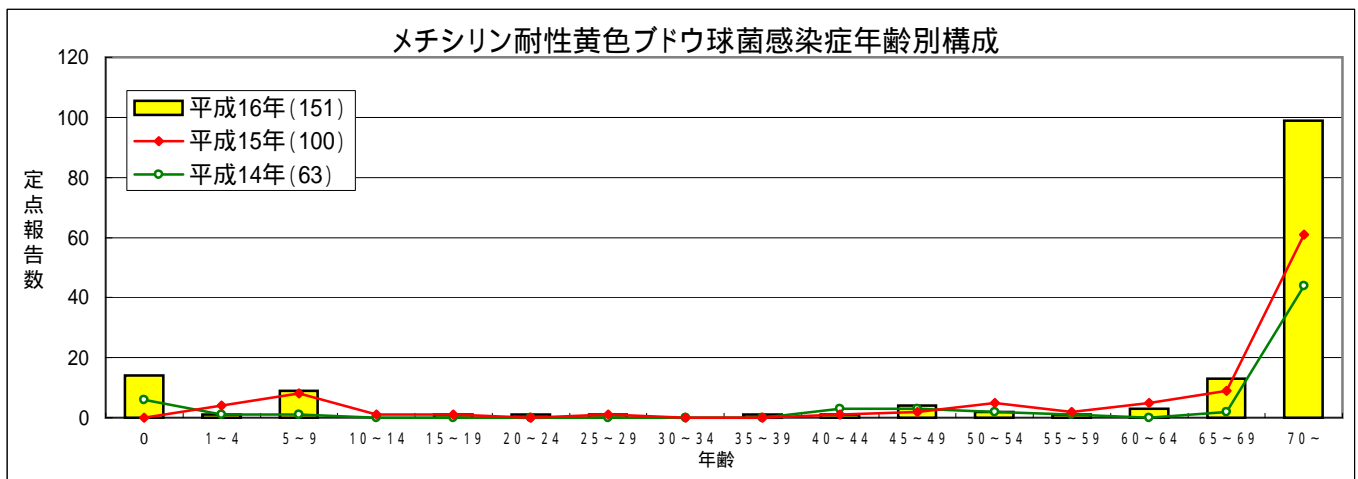
(85)メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症 (7基幹定点)

定点からの年間報告数は151例あり、70歳以上の報告が多かった。
また、年齢構成の全国との比較では、全国と同様の年齢構成だった。

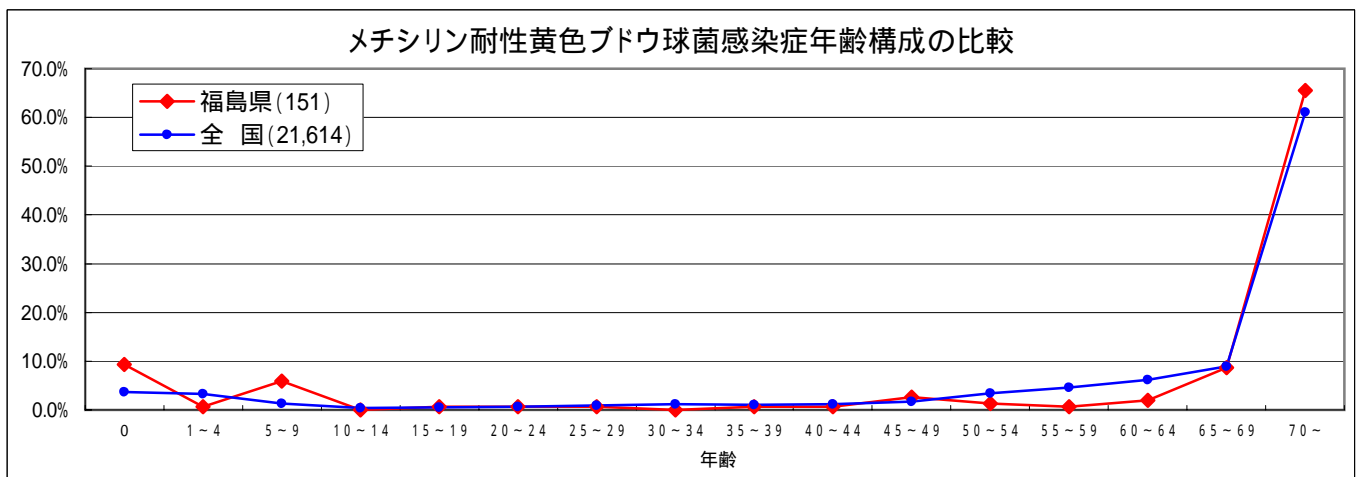


	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	累計
平成16年(151)	19	8	20	15	9	13	7	19	9	10	9	13	151
平成15年(100)	4	7	3	7	9	11	16	13	7	6	10	7	100
平成14年(63)	15	7	6	6	6	3	2	2	1	4	8	3	63

平成14～16年 県内の年齢別構成



平成16年 年齢構成の比較



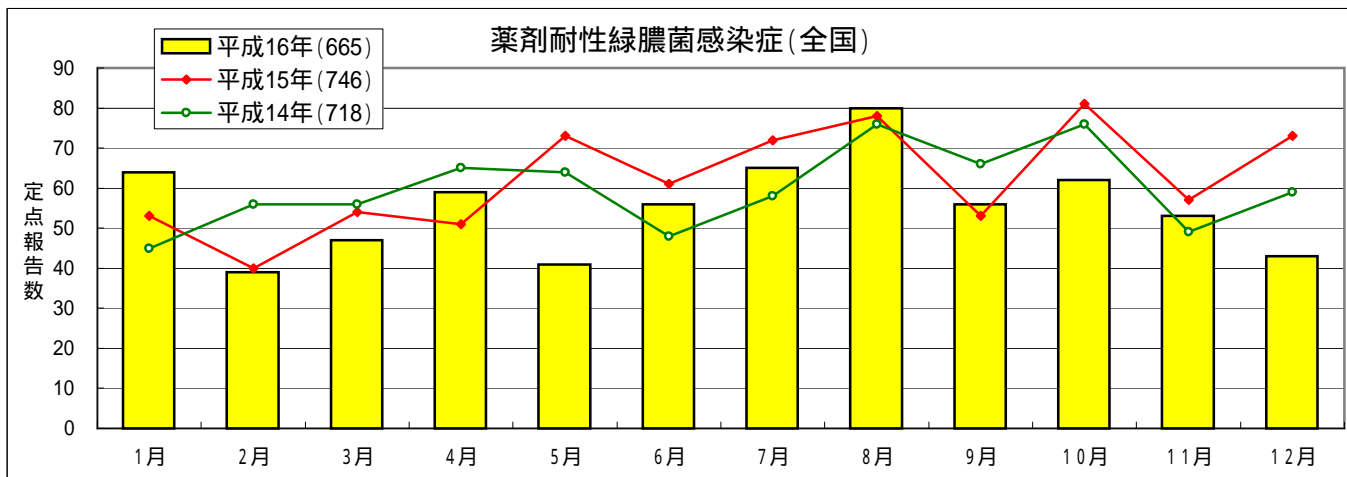
(86) 薬剤耐性緑膿菌感染症

(7基幹定点)

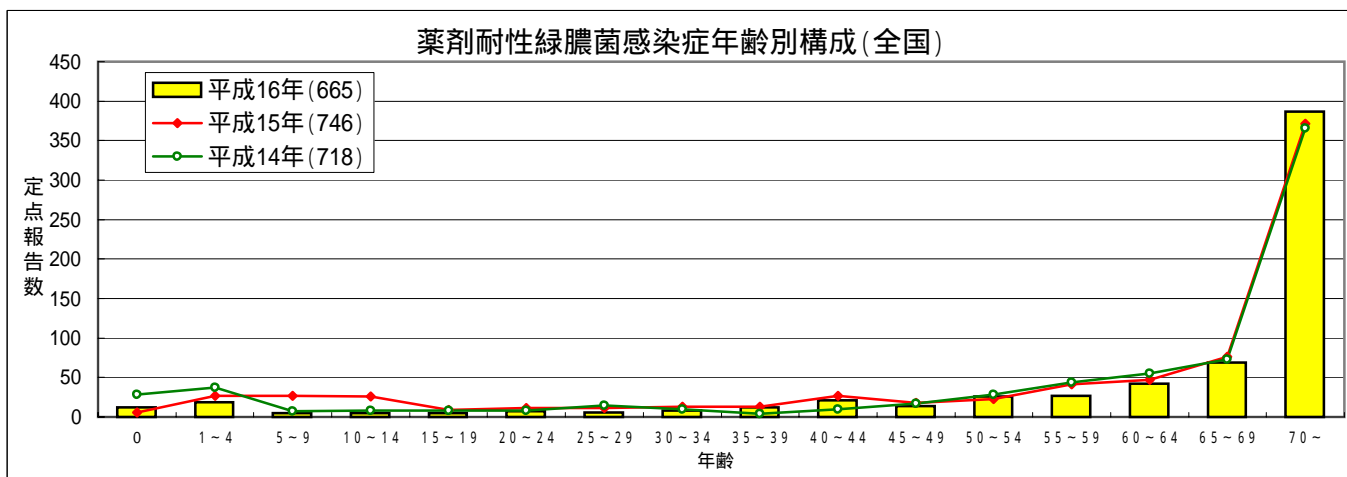
定点からの年間報告数は3例であった。

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	累計
平成16年(3)	1	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	3
平成15年(1)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
平成14年(0)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

全国の薬剤耐性緑膿菌感染症



平成16年 全国の年齢別構成



検 査 情 報

- (1) 平成 1 6 年感染症発生動向調査事業報告 (ウイルス)
- (2) 平成 1 6 年感染症発生動向調査事業報告 (細菌)
- (3) 2 0 0 3 / 2 0 0 4 年シーズンの県内におけるインフルエンザの流行状況

平成16年感染症発生動向調査事業報告(ウイルス)

福島県衛生研究所 微生物グループ ウイルス

はじめに

感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律に基づき、県内の感染症発生の治療、予防に役立つ情報の提供を目的として、毎年対象病原体について感染症発生動向調査を行っている。本報では平成16年の感染症発生動向調査によるウイルス検索結果について報告する。

方法

RD-18S, HEp-2, Vero, LLCMK2, MDCK, B95a の6種類の細胞を用いてウイルス分離を実施した。検体が便の場合には、ラテックス凝集反応によるアデノ・ロタウイルスの検出も併せて行った。分離ウイルスの同定には、中和試験、赤血球凝集抑制試験、赤血球吸着試験、蛍光抗体法、電子顕微鏡法、RT-PCR法及びダイレクトシーケンス法を用いた。

材料

平成16年1月から12月までの間に、県内の基幹定点7機関、インフルエンザ定点8機関、小児科定点5機関(他に事業協力機関3機関)、眼科定点1機関より採取された1,393症例由来の咽頭拭い液、便、髄液、眼瞼拭い液等、計1,793件を検体とした。

結果および考察

1. 保健所毎受付検体数

各保健所の月毎の受付検体数を表1に示した。年間を通して、相双保健所からの検体が最も多く、次いで郡山市、いわき市、県北の順であった。県南保健所からは、夏期に髄膜炎患児の検体が比較的多く搬入された。会津方面からの検体は全体に少なく、また、県中保健所から今年は1件も搬入がなかった。

2. 検体の種類別分離状況

検体1,793件の内、403症例から427件の

ウイルスが分離(証明)された。その内訳は、咽頭拭い液323件(75.6%)、便47件(11.0%)、髄液55件(12.9%)、眼瞼拭い液1件(0.2%)、その他1件(0.2%)であった。検査材料別分離率は、咽頭拭い液27.9%、糞便10.1%、髄液40.7%と髄液で高い割合であった(表2)。

1つの症例で複数の検体からウイルスが分離されたのは20例あった。1症例を除いて、同一ウイルスが分離された。臨床診断名が髄膜炎の1症例では、咽頭拭い液、便、髄液の3種類の検体から、3症例では、咽頭拭い液と髄液から分離同定された。また、インフルエンザ脳炎1症例で、咽頭拭い液と気管吸引液から分離同定された。残り14例は、咽頭拭い液と便からの検出であった。診断名が咽頭結膜熱の1症例では、咽頭拭い液からアデノウイルス2型が、便からはアデノウイルス3型が分離同定された。

3. 月別分離状況

月別ウイルス分離状況を表3に示した。搬入検体は、1月の250症例302件を最高に1ヶ月平均116症例149件の検体が受け付けられた。ウイルス分離は、インフルエンザウイルスが多く分離される1月が最も多く、250症例(49.2%)、302株(41.1%)であった。また、今年は夏季にエコーウイルス30型が多く分離され、7月の分離率が症例数で39.3%、検体数で32.4%と高い割合となった(図1)。

4. ウイルス別分離状況

インフルエンザウイルスは、2003/2004シーズンには、A(H3)型が12月1日採取の県北地区の8歳女児の咽頭拭い液から分離されたのを皮切りに、12月に20件、1月の113症例114株をピークとして4月まで220症例221株分離された。B型は、3~5月に合計で5症例5株のみの分離で、A(H1)型は、分離が無かった。また、C型が、5月に郡山市の上気道炎症状を呈した1歳男児から分離さ

れた。分離数は、インフルエンザウイルス全体で昨シーズンより約3割少なく、中規模の流行であった。また、昨シーズンがA(H3)型とB型の混合流行であった¹⁾のに対し、A(H3)型主流の流行であった。これは、全国状況と同様²⁾であった。

アデノウイルスは、全体で、76症例80株確認された。内訳を図2に示した。今年最も分離が多かったのはアデノ2型で、年間を通して分離があり、28症例30株確認された。診断名は、上気道炎がほとんどで、下気道炎、胃腸炎などもあった(表4)。アデノ3型は、年間で28症例28株、5~7月に相双地区の気道感染症児を中心に多く分離された。また、ラテックス凝集反応で陽性になったものが3、7、10月各1件の合計3件あった。これらは、細胞分離培養は全て陰性であったので40、41型に属する腸管アデノウイルスであると思われる。

エンテロウイルスは、全体で、122症例141株分離された。今年、エコーウイルス30型が、64症例73株と最も多く分離された。他には目立って多く分離されたものが無かったこともあり、エンテロウイルスの52.5%を占めた(図3)。昨年多く分離されたエコーウイルス6型、エンテロウイルス71型、コクサッキーウイルスA10型³⁾は全く分離されなかった。

エコーウイルス30型は、昨年の9月以降郡山市の髄膜炎患児3名及びいわき市の急性胃腸炎患児2名から分離があり、今年の動向が注目されていた。3月に県南地区及び郡山市の髄膜炎患児各2名ずつからの分離に始まり、7月をピークとして9月まで分離された。特に夏期に県南地区で髄膜炎の流行があり⁴⁾、合計43症例から分離確認され、その大半を占めた(図4)。このウイルスは、県内では、5~6年毎に流行を繰り返してきた⁵⁾が、平成9年以来7年ぶりの流行となった。しかし、前回は、郡山市及び県中地区を中心とした県内全域の199症例から分離された大流行であった⁵⁾のに対し、今年、県南地区を中心とした小流行に留まった。診断名は、髄膜炎が64症例中55例で85.9%を占めた(表4)。ま

た、それ以外に、胃腸炎、上気道炎、発疹症と診断された症例9例中6例でも、発熱と頭痛や嘔気嘔吐などの髄膜炎様症状があり、このウイルスの髄膜炎症状との強い相関が確認された。男女別年齢別に見ると、男が44症例で68.8%を占め、年齢は0~15歳まで分離があったが6歳児が最も多く、4~7歳児が43症例と67.2%を占めた(図5)。これらの傾向は、前回と同様⁵⁾であった。

その他のエコーウイルスは、3型が5症例5株、9型が4症例5株6~10月に分離があった。9型は、全ていわき市周辺の胃腸炎児からの分離であった。また、パレコウイルス1型が、2月、10月、12月に分離があった。これはいずれも、いわき市と相双地区の胃腸炎及び上気道炎症状を呈した2、3歳男児の咽頭及び便からの分離であった。

コクサッキーA群ウイルスは、2型が4例、4型が2例、9~11月に1~4歳の患児から分離された。また、16型が10月以降郡山市の1~6歳の手足口病患児より8例の分離があり、来年の動向が注目される。コクサッキーB群ウイルスは、1型、4型、5型の3種類の分離があった。その中で1型が最も多く、16症例19株確認された。2、3月は相双地区の上気道炎患、8、9月にはいわき市周辺の胃腸炎患児からの分離が多かった。また、8月には、郡山市の髄膜炎患児と、いわき市のヘルパンギーナ患児からの分離もあった。

ポリオウイルスは、春と秋の定期集団予防接種後の時期、1歳児を中心に7症例10株が分離された。1症例を除き、ワクチン接種後6~32日以内の分離であった。1症例は、接種後4ヶ月であったが、検体採取時期が当該地区でのワクチン接種時期であり、1型と2型の分離であったことから、ワクチン由来株であると思われる。

その他のウイルスについて、麻疹ウイルスは、患者報告が昨年までの1/10程度⁶⁾だったため麻疹患者の検体も3件と少なく、相双地区の4歳麻疹患児からの分離1株のみであった。単純ヘルペスウイルスは1型が、1、7、11月に合計4症例4株分離され、パラインフルエンザウイルスは3型が、7月に郡山市の

上気道炎を伴う発疹症の1歳男児1名から分離された。ロタウイルスは、8月を除いて搬入のあった生便検体合計59件について検査を行ったが、1月と3月に郡山市周辺の胃腸炎症状の0~3歳児合計3症例からのみの検出で、過去10年間で最も少なかった。

5. 診断名別分離状況

診断名別、受付検体症例数及びウイルス分離症例数を、表5に示した。

受付検体症例数が最も多かった、扁桃炎や咽頭炎等の上気道炎の検体では、317症例中67症例からウイルスが分離された。内訳は、アデノウイルス、コクサッキーA群及びB群ウイルス、エコーウイルス、インフルエンザウイルスと多岐に渡った(表4)。その中で最も多かったのは、アデノウイルス2型の15症例(22.4%)で、次いでアデノウイルス3型が14症例(20.9%)、インフルエンザウイルスA(H3)型1が11症例(16.4%)、コクサッキーウイルスB1型7症例(10.4%)の順であった。

次に受付検体症例数が多かった胃腸炎の検体からは、297症例中34症例でウイルスが分離された。内訳は、アデノウイルス、コクサッキーA群及びB群ウイルス、エコーウイルス、ポリオウイルス、ロタウイルスと様々であった。その中で、エコーウイルス30型5症例(14.7%)、アデノウイルス2型、3型、エコーウイルス9型4症例(11.8%)が比較的多かった。

インフルエンザの検体は、217症例と昨年の半分程度の受付検体数³⁾であったが、分離は173症例あり、79.7%と高率に分離された。アデノウイルス1,2,5型とエコーウイルス3型が1株ずつ分離された以外は全て、インフルエンザウイルスであった。年齢分布は、A(H3)型で0~16歳までであったが、2歳をピークとして5歳以下の乳幼児が約6割を占め、B型は、5症例全て2~5歳児であった(図6)。

気管支炎や肺炎等の下気道炎の検体からは、160症例中28症例からウイルスが分離された。内訳は、インフルエンザウイルスA(H3)型11症例(39.3%)、アデノウイルス1型5

症例(17.9%)、アデノウイルス3型4症例(14.3%)等であった。

髄膜炎については、109症例中60症例と半数を超える症例からウイルスが分離された。分離ウイルスは、昨年、主流であったエコーウイルス6型は分離がなく、替わってエコーウイルス30型が55症例と91.7%を占めた。他には、エコーウイルス3型が2症例、コクサッキーウイルスB1, B5型とアデノウイルス3型が各1症例の分離があった。なお、全国的には、昨年はエコーウイルス30型と6型が主流で、今年は、エコーウイルス6型と30型と18型及びコクサッキーウイルスB5型とB1型が混在し、昨年の半分程度の分離報告数になっている⁷⁾。

手足口病は、患者報告が昨年、一昨年の半分以下⁸⁾で通常の流行時期である夏期までにはほとんど報告が無く9月以降に相双地区、いわき市から報告が出始め、10月以降郡山市及び県中地区、いわき市で流行が見られた⁵⁾。検体は、5~12月まで18症例が県内各地から搬入されたが、分離は8件で、全て10月下旬~11月にかけて郡山市の1~6歳の幼児から採取されたものであった。分離ウイルスは、全てコクサッキーウイルスA16型で、昨年主流であったエンテロウイルス71型は分離されなかった。昨年、一昨年の流行が大きく、今年は、コクサッキーウイルスA16型中心の小流行に留まったのは、全国的にも同じ傾向であった¹⁰⁾。

ヘルパンギーナについても、患者報告が昨年の半分以下で、搬入検体も39症例と昨年の半分以下であった。その内5症例からウイルスが分離されたが、昨年多く分離されたコクサッキーウイルスA10型は無く、アデノウイルス3型、コクサッキーウイルスA2型、B1型、B5型、単純ヘルペス1型が各1例であった。

まとめ

1. エコーウイルス30型が、64症例72株分離され、夏に県南地区の髄膜炎患児から高率に分離された。
2. インフルエンザは、A(H3)型を主とした

中規模な流行であった。

3. 手足口病は、秋口のコクサッキー16型の小流行に留まった。

謝 辞

検体採取等本事業にご協力いただいた病原体定点の医療機関の諸先生方に深謝いたします。

引用文献

1. 亘理智子, 水澤丈子, 他: 2003/2004シーズンの県内におけるインフルエンザの流行状況: 福島県衛生研究所年報, 21, 71~77, 2004.
2. 国立感染症研究所: <特集> インフルエンザ 2003/2004 シーズン: 病原微生物情報月報, 25, 11, 278~285, 2004.
3. 金成篤子, 慶野昌明, 他: 平成 15 年感染症発生動向調査病原体検査結果報告(ウイルス): 福島県衛生研究所年報, 21, 55~62, 2004.
4. 福島県衛生研究所: 福島県感染症週報 2004 年第 29 週, 1, 3, 11, 14, 2004.
5. 猪狩浩周, 土屋ミサ子, 他: 1997 年福島県における ECHO 30 型の流行について. 福島県衛生公害研究所年報: 15, 71~75, 1997.
6. 福島県衛生研究所: 福島県感染症週報 2004 年第 53 週, 9, 2004.
7. 国立感染症研究所: 無菌性髄膜炎由来ウイルス 1997~2004 年: 病原微生物情報検出情報, 2004.
8. 福島県衛生研究所: 福島県感染症週報 2004 年第 53 週, 6, 2004.
9. 福島県衛生研究所: 福島県感染症週報 2004 年第 46 週, 1, 6, 14, 2004.
10. 国立感染症研究所: 手足口病由来ウイルス 1997~2004 年: 病原微生物情報検出情報, 2004.

表1 採取月別地区別受付検体症例数

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
県北	52	25	30	6	16	17	16	11	11	6	7	19	216
県中	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
県南	8	1	6	1	12	25	23	5	5	3	6	0	95
会津	0	0	0	1	0	3	1	0	0	2	0	0	7
南会津	11	7	13	1	3	4	8	1	0	1	2	1	52
相双	93	59	52	28	28	46	26	17	37	11	23	27	447
郡山市	44	27	24	19	22	22	24	26	34	33	35	23	333
いわき市	42	11	7	17	7	17	14	23	19	13	33	40	243
計	250	130	132	73	88	134	112	83	106	69	106	110	1393

表2 検査材料別 受付検体数・分離件数

	咽頭	糞便	髄液	眼瞼	その他	計
受付件数	1159	466	135	16	17	1793
分離件数	323	47	55	1	1	427
分離率(%)	27.9	10.1	40.7	6.3	5.9	23.8

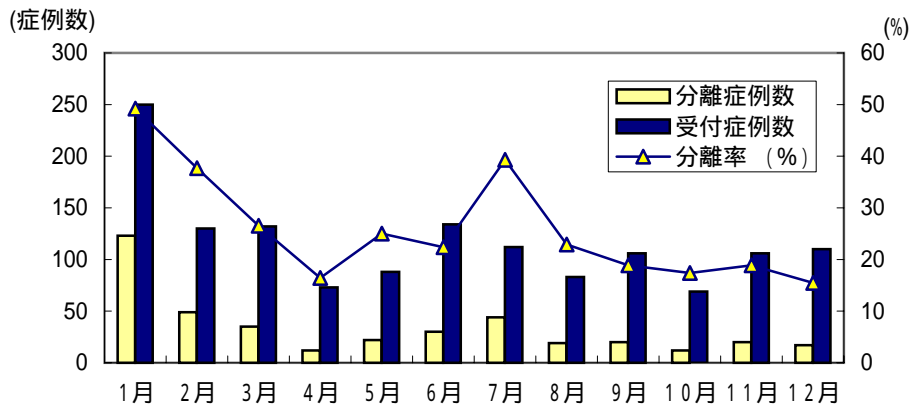


図1 月別受付検体症例数・ウイルス分離症例数

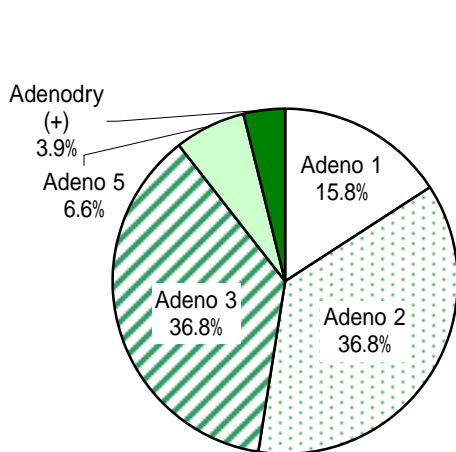


図2 アデノウイルス内訳(76症例)

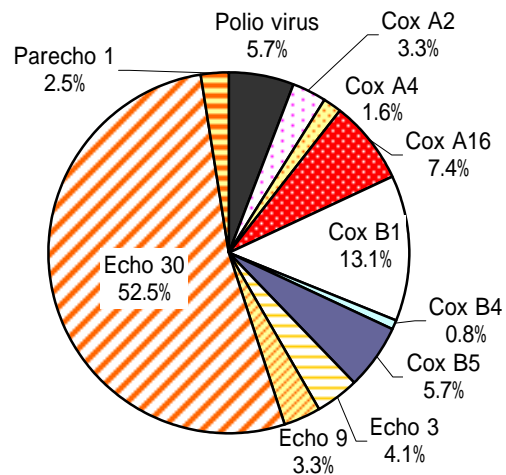


図3 エンテロウイルス内訳(122症例)

表3 月別ウイルス分離状況（平成16年1月～12月）

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
	症例数 (株数)	症例数 (株数)	症例数 (株数)	症例数 (株数)	症例数 (株数)	症例数 (株数)	症例数 (株数)	症例数 (株数)	症例数 (株数)	症例数 (株数)	症例数 (株数)	症例数 (株数)	症例数 (株数)
Adeno virus 1	2 (2)	1 (1)		2 (3)	4 (4)				2 (3)			1 (1)	12 (14)
Adeno virus 2	4 (4)	2 (2)	1 (1)	2 (2)	3 (3)	3 (4)	1 (1)	2 (2)	1 (1)	2 (2)	2 (2)	5 (6)	28 (30)
Adeno virus 3				1 (1)	3 (3)	5 (5)	8 (8)	1 (1)	1 (1)	3 (3)	1 (1)	5 (5)	28 (28)
Adeno virus 5	2 (2)	1 (1)					1 (1)		1 (1)				5 (5)
Polio virus					2 (2)	2 (3)			2 (4)		1 (1)		7 (10)
Cox virus A2									2 (2)	2 (2)			4 (4)
Cox virus A4										1 (1)	1 (1)		2 (2)
Cox virus A16										1 (1)	8 (8)		9 (9)
Cox virus B1		2 (2)	5 (5)					4 (5)	5 (7)				16 (19)
Cox virus B4									1 (1)				1 (1)
Cox virus B5						1 (1)	5 (5)		1 (2)				7 (8)
Echo virus 3							2 (2)	2 (2)	1 (1)				5 (5)
Echo virus 9						1 (1)			2 (3)	1 (1)			4 (5)
Echo virus 30			4 (6)		8 (9)	18 (18)	24 (25)	9 (14)	1 (1)				64 (73)
Parecho virus (E22)		1 (2)								1 (2)		1 (1)	3 (5)
Influenza virus A (H1)											5 (5)	3 (3)	8 (8)
Influenza virus A (H3)	113 (114)	42 (42)	20 (20)	5 (5)									180 (181)
Influenza virus B			2 (2)	2 (2)	1 (1)								5 (5)
Influenza virus C					1 (1)								1 (1)
Parainfluenza							1 (1)						1 (1)
Measles virus								1 (1)					1 (1)
HSV 1	1 (1)						1 (1)				2 (2)		4 (4)
Rota dry (+)	1 (1)		2 (2)										3 (3)
Adeno dry (+)			1 (1)				1 (1)			1 (1)			3 (3)
未同定												2 (2)	2 (2)
分離症例数 (株数)	123 (124)	49 (50)	35 (37)	12 (13)	22 (23)	30 (32)	44 (45)	19 (25)	20 (27)	12 (13)	20 (20)	17 (18)	403 (427)
症例数 (検体数)	250 (302)	130 (147)	132 (160)	73 (100)	88 (115)	134 (175)	112 (139)	83 (118)	106 (138)	69 (88)	106 (154)	110 (159)	1393 (1793)
分離率 (%)	49.2 (41.1)	37.7 (34.0)	26.5 (23.1)	16.4 (13.0)	25.0 (20.0)	22.4 (18.3)	39.3 (32.4)	22.9 (21.2)	18.9 (19.6)	17.4 (14.8)	18.9 (13.0)	15.5 (11.3)	28.9 (23.8)

表4 分離ウイルス別 診断名

	上気道炎	下気道炎	インフルエンザ	胃腸炎	髄膜炎	手足口病	口内炎	発疹症	麻疹	ヘルパンギーナ	熱性痙攣	結膜炎等	その他	計
Adeno 1	4	5	1	2										12
Adeno 2	15	2	1	4			1				2	1	2	28
Adeno 3	14	4		4	1		1			1	1	2		28
Adeno 5	1	1	1								1		1	5
Adenodry(+)				3										3
Polio	2	1		2							2			7
CoxA 2	1			1			1			1				4
CoxA 4	1										1			2
CoxA 16				1		8								9
CoxB 1	7	3		2	1					1	1		1	16
CoxB 4	1													1
CoxB 5	3	1			1					1	1			7
Echo 3	1		1	1	2									5
Echo 9				4										4
Echo 30	2			5	55			2						64
Parecho 1	1			2										3
Influenza A(H1)			8											8
Influenza A(H3)	11	11	156								1		1	180
Influenza B			5											5
Influenza C	1													1
Parainfluenza 3								1						1
measles virus									1					1
HSV 1	2									1			1	4
Rotadry(+)				3										3
未同定												1	1	2
計	67	28	173	34	60	8	3	3	1	5	10	4	7	403

表5 診断名別 受付検体症例数とウイルス分離症例数

診断名	受付検体症例数	%	分離症例数	%	分離率(%)
上気道炎	317	22.8	67	16.6	21.1
胃腸炎	297	21.3	34	8.4	11.4
インフルエンザ	217	15.6	173	42.9	79.7
下気道炎	160	11.5	28	6.9	17.5
髄膜炎	109	7.8	60	14.9	55.0
熱性痙攣	64	4.6	10	2.5	15.6
ヘルパンギーナ	39	2.8	5	1.2	12.8
発疹症	36	2.6	3	0.7	8.3
結膜熱・結膜炎	34	2.4	4	1.0	11.8
ヘルペス・口内炎	20	1.4	3	0.7	15.0
手足口病	18	1.3	8	2.0	44.4
麻疹	3	0.2	1	0.2	33.3
その他	79	5.7	7	1.7	8.9
計	1393	100	403	100	28.9

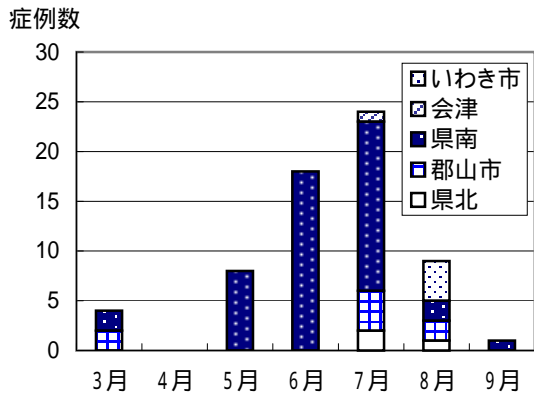


図4 月別地区別分離状況(11-30)

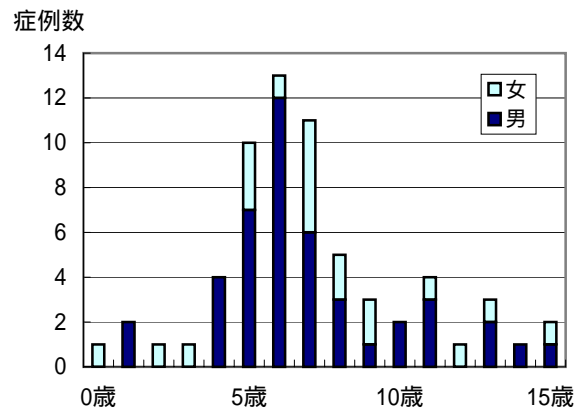


図5 年齢分布(11-30)

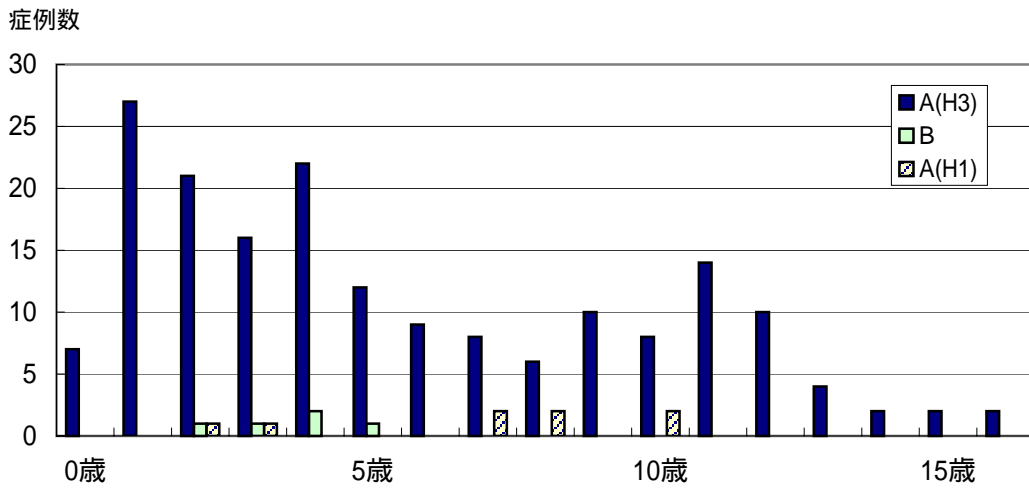


図6 インフルエンザ分離症例の年齢分布

平成16年感染症発生動向調査事業報告（細菌）

福島県衛生研究所 微生物グループ 細菌

はじめに

感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律に基づき、県内の感染症発生の治療、予防に役立つ情報の提供を目的として、毎年対象病原体について感染症発生動向調査を行っている。本報では平成16年の感染症発生動向調査による細菌検索結果について報告する。

方法

1. A群溶血性レンサ球菌（以下、A群溶レン菌）、細菌性髄膜炎起因菌、百日咳菌、感染性胃腸炎起因菌等を対象とし、厚生省監修「微生物検査必携・第3版」に従い検索した。
2. 肺炎球菌、インフルエンザ菌の薬剤感受性は、湧永製薬製遺伝子検出試薬を用い薬剤耐性遺伝子を検出した。米国臨床検査標準委員会（以下、NCCLS）の判定基準による薬剤感受性試験はMicroScan WalkAwayを使用した微量

液体希釈法により公立相馬総合病院検査課において実施した。

材料

平成16年1月から12月まで県内の12定点のうち、協力の得られた3定点医療機関において採取された662件を用いた。検体の内訳を表1に示した。輸送培地での搬入は201件、菌株での搬入は461件である。

結果

1. 患者居住地域別症例数

表2に示したとおり総検体662件の内、郡山市と相馬市で556件(84.0%)を占め、地域に偏りが認められた。

2. 検査材料別分離率

菌株を除いた各検体の細菌分離率を表3に示した。咽頭ぬぐい液は81.0%、糞便・直腸ぬぐい液は27.0%であった。

表1 月別・検査材料別検体数

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
咽頭拭い液	15	14	25	29	29	24	7	6	5	6	24	19	203
スワブ(再掲)	13	14	23	22	21	19	5	1	2	2	19	19	158
菌株(再掲)	2		2	7	8	5	2	5	5	4	5		45
後鼻腔拭い液	60	41	50	34	31	23	18	29	26	44	19	15	390
スワブ(再掲)					1					1	1		3
菌株(再掲)	60	41	50	34	30	23	18	29	26	43	18	15	387
糞便・直腸拭い液	4		2	2	4	2	3	7	5	2	9	9	49
キャリプレ(再掲)	4			2	2	1	3	7	4	2	4	8	37
菌株(再掲)			2		2	1			1		5	1	12
髄液	1	1						1	1				5
その他	1	2				3		8	1				15
スワブ(再掲)						1		1	1				3
菌株(再掲)	1	2				2		7					12
合計	81	58	77	65	64	52	28	51	38	52	52	44	662

(その他:血液、陰部擦過物、拇指開放性膿、痂皮、臍皮膚、結膜拭い液、足創部各1件、水泡内容3件、鼻汁5件)

表2 居住地域別症例数

地域名	症例数
福島市	1
安達郡	9
郡山市	172
田村郡	16
須賀川市	3
石川郡	3
白河市	1
相馬市	384
相馬郡	44
原町市	1
県外	28
合計	662

表3 月別・検査材料別分離率

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	分離率
咽頭拭い液(スワブ)	13	14	23	22	21	19	5	1		2	19	19	158	81.0
分離数	11	12	22	22	17	13	3			2	10	16	128	
分離率(%)	85	86	96	100	81	68	60	0		100	53	84		
糞便・直腸拭い液(キャリプレ)	4		2	2	1	3	7	4	2	4	8	37	37	27.0
分離数	1		1	1	1	1	1	1	2	3	10	10		
分離率(%)	0		50	50	0	33	14	25	0	50	38			
鼻汁・後鼻腔拭い液(スワブ)					1	1		1	1	1	1		6	50.0
分離数								1	1	1		3		
分離率(%)					0	0		0	100	100	100			

表4 月別細菌分離状況(平成16年1月～12月)

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
A群溶レン菌 T-1			7	8	11	13	4	8	12	5	7	5	80
A群溶レン菌 T-2		1											1
A群溶レン菌 T-3			1					1					2
A群溶レン菌 T-4	10	6	6	8	2		1	2	1		5	1	42
A群溶レン菌 T-6	1	2	3	4	3	3						2	18
A群溶レン菌 T-11			1	1	1			1					4
A群溶レン菌 T-12	10	7	10	9	10	7	2		1	2	4	11	73
A群溶レン菌 T-13			1										1
A群溶レン菌 T-25	1		1	2		1	1			1		1	8
A群溶レン菌 T-28	1	1	1		1								4
A群溶レン菌 T-B3264		2	1	1	2	1		1			1	2	11
A群溶レン菌 T型不明	1			1		1				1			4
A群 S.equisimilis						1							1
B群溶レン菌 a型		1											1
B群溶レン菌 b型							1		1		1		3
B群溶レン菌 型	1												1
B群溶レン菌 JM9型	1						1				1		3
B群溶レン菌 NT6型			1	1									2
B群溶レン菌 型不明	1												1
C群溶レン菌	2	1											3
G群溶レン菌	1		1	3	2			2	1	1	2	3	16
E.coli O1					1	1					2		4
E.coli O18					2						1		3
E.coli O25				1					1			1	3
E.coli O26												1	1
E.coli O111			2						1				3
E.coli O126												1	1
E.coli O128											1		1
E.coli O146												1	1
E.coli O166											1		1
S.Enteritidis							1				1		2
Y.enterocolitica O3群											1		1
K.pneumoniae								1					1
Bordetella pertussis						1							1
C.tetani		1											1
Cryptococcus neoformans								1					1
Serratia marcescens											1		1
S.pneumoniae PSSP	2	3	7	4	4	2		1	2	2	1		28
PISP	8	14	12	6	7	4	5	5	1	8			70
PRSP	19	15	20	14	11	8	5	8	4	9	4	4	121
H.influenzae BLNAS	5					2	4	6	7	8	3		35
軽度 BLNAR	1												1
BLNAR	7				1	1		6	1	12	3	3	34
BLPACR											1		1
H.parainfluenzae						2							2
総計	72	54	75	63	58	48	25	43	33	49	41	36	597

3. 細菌分離状況

表4に月別分離状況を示した。

1) 溶レン菌

A群溶レン菌は248株分離され、240株は気道炎症を有する上気道拭い液(咽頭・扁桃・鼻腔154株、後鼻腔86株)由来である。他は伝染性膿痂疹等の水泡内容4株、劇症型溶血性レンサ球菌感染症(以下、劇症溶レン菌感染症)の血液、外陰炎の陰部擦過物、臍炎症の皮膚病巣、右拇指膿瘍の開放性膿各1株であった。分離された患者の年齢は劇症溶レン菌感染症患者78歳を除くと0～12歳で、4～6

歳が多く、43.4%を占めた。また、月別では1～6月と11～12月に205株(82.7%)が検出された。

A群溶レン菌の血清型は11種類に型別された(表4)。最も多く分離されたのはT-1型80株(32.3%)、次いでT-12型73株(29.4%)、T-4型42株(16.9%)、T-6型18株(7.3%)、T-B3264型11株(4.4%)、T-25型8株(3.2%)の順であった。なお、劇症溶レン菌感染症患者分離株はT-1型であった。また、A群抗原を持つ *Streptococcus dysgalactiae* subsp. *equisimilis* が1株分離された。

他の溶レン菌は30株分離された。内訳はB群溶レン菌11株、C群溶レン菌3株、G群溶レン菌16株で、この内28株は上気道感染症の咽頭・後鼻腔拭い液由来であった。他の2株は細菌性髄膜炎患者(0ヶ月, 61歳)の髄液由来B群溶レン菌であった。

B群溶レン菌検出患者の年齢は、細菌性髄膜炎患者61歳を除くと0~8歳で、0歳が6株(54.5%)と多かった。B群溶レン菌の血清型は5種類に型別され(表4)、b型3株、JM9型3株、NT6型2株、a型、型不明各1株であった。細菌性髄膜炎患者の髄液からは、a型、JM9型が分離された。また、G群溶レン菌検出患者の4例(25.0%)は発疹又は多形成浸出性紅斑を伴っていた。

2) 糞便・直腸ぬぐい液からの腸管系病原菌
腸管系病原菌は22株分離され(表4)、内訳は下痢原性大腸菌18株、サルモネラ・エンテリティディス2株、エルシニア・エンテロコリチカ03群等である。また、大腸菌の血清型は9種類で毒素産生性は認められなかった。

3) 肺炎球菌、インフルエンザ菌
肺炎球菌は219株分離された。由来は細菌性髄膜炎患者(1歳)の髄液から1株、他は気道感染症の上気道(後鼻腔216株、咽頭、鼻腔各1株)で、137名から分離された。130株は48名の重複検出株で、その検出間隔は12日~8ヶ月である。

インフルエンザ菌は71株分離された。由来は細菌性髄膜炎患者(1歳)の髄液から1株、他は気道感染症の上気道(後鼻腔62株、咽頭7株、鼻腔1株)で、66名から分離された。10株は5名の2回検出株で、その検出間隔は7日~5ヶ月である。インフルエンザ菌の血清型は、型不明が最も多く39株(54.9%)、次いでd型23株(32.4%)、b型6株(8.5%)、c型、e型、f型各1株であった。なお、細菌性髄膜炎患者髄液からはb型が分離された。

表5 肺炎球菌の薬剤耐性遺伝子検出結果

NCCLSによる 薬剤感受性	pbp変異					計
	変異なし	pbp2x	pbp1a+2x	pbp2x+2b	pbp1a+2x+2b	
PSSP	26	21	7	2		56
PISP	2	13	7	17	53	92
PRSP		1	1	1	67	70
未実施					1	1
計	28	35	15	20	121	219

4) その他の検出菌

真菌性髄膜炎患者(65歳)の髄液からクリプトコッカス・ネオフォルマンズ1株、百日咳患者(4ヶ月)の鼻汁から百日咳菌1株、破傷風患者(70歳)の左足趾創部から破傷風菌1株が分離された。

4. 肺炎球菌、インフルエンザ菌の薬剤耐性遺伝子検出結果

1) 肺炎球菌の薬剤耐性遺伝子検出結果

肺炎球菌の薬剤耐性遺伝子の検出結果とNCCLSによる薬剤感受性判定を表5に示した。

遺伝子検査の結果、ペニシリン結合蛋白PBP₃をコードする3種類の遺伝子pbpの何れかに変異が認められた株は219株中191株(87.2%)であった。これらの内訳はpbp2x変異35株、pbp1a+2x変異15株、pbp2x+2b変異20株、pbp1a+2x+2b変異121株である。これらを遺伝子変異の有無によって分類すると、ペニシリン感受性肺炎球菌(以下PSSP)28株(12.8%)、ペニシリン中等度耐性肺炎球菌(以下PISP)70株(32.0%)、ペニシリン耐性肺炎球菌(以下PRSP)121株(55.2%)である。なお、細菌性髄膜炎患者の髄液由来株はpbp1a+2x+2b遺伝子に変異が認められ、PRSPであった。

また、NCCLSによる薬剤感受性試験判定基準ではPSSP56株(25.6%)、PISP92株(42.0%)、PRSP70株(32.0%)に分類された。このPSSPの53.6%に1~2遺伝子変異が検出され、PISPの57.6%に3遺伝子変異が検出された。

マクロライド耐性遺伝子は200株(91.3%)に認められた。その内訳は耐性遺伝子mefA検出が89株、ermB検出が143株であり、このうち32株は2遺伝子共に検出した。

肺炎球菌を重複検出(2~5回)した48名は初回検出時PSSP8名、PISP10名、PRSP30名であった20名(54株)はpbp変異に変化は認められなかった。初回検出時PSSP、PISPで

耐性側に化したのは7名(38.9%)。PISP、PRSPから感受性側に化したのは15名(37.5%)であった。

表6 インフルエンザ菌の薬剤耐性遺伝子検出結果

NCCLSによる 薬剤感受性	TEM	pbp変異				計
		変異なし	pbp3-1	pbp3-2	pbp3-1+3-2	
BLNAS		31		4	2	37
軽度 BLNAR		1		5	11	17
BLNAR			1		9	10
BLPAR	1				1	1
未実施		3			3	6
計	1	35	1	9	26	71

2) インフルエンザ菌の薬剤耐性遺伝子検出結果

インフルエンザ菌の薬剤耐性遺伝子の検出結果と NCCLS による薬剤感受性判定を表 6 に示した。

遺伝子検査の結果、ペニシリン結合蛋白 PBP3 をコードする遺伝子 *fts* の変異部位 *pbp3-1*, *pbp3-2* の何れかに変異が認められた株は 71 株中 36 株 (50.7%) であった。これらの内訳は -ラクタマーゼ陰性株 70 株では、*pbp3-1* 変異 1 株、*pbp3-2* 変異 9 株、*pbp3-1+3-2* 変異 25 株であり、-ラクタマーゼ陽性株 1 株は、*pbp3-1+3-2* 変異であった。これらを遺伝子変異によって分類すると、-ラクタマーゼ陰性アンピシリン感受性インフルエンザ菌 (以下 BLNAS) 35 株 (49.3%)、-ラクタマーゼ陰性アンピシリン軽度耐性インフルエンザ菌 (以下軽度 BLNAR) 1 株 (1.4%)、-ラクタマーゼ陰性アンピシリン耐性インフルエンザ菌 (以下 BLNAR) 34 株 (47.9%)、-ラクタマーゼ陽性アモキシリン/クラバン酸耐性-インフルエンザ菌 (以下 BLPAR) 1 株 (1.4%) である。なお、細菌性髄膜炎患者の髄液由来株は *pbp3-1+3-2* 変異が検出され、BLNAR であった。

また、NCCLS による薬剤感受性試験判定基準では、BLNAS 37 株 (52.1%)、軽度 BLNAR 17 株 (23.9%)、BLNAR 10 株 (14.1%)、BLPAR 1 株 (1.4%) に分類された。この BLNAS の 16.2%、軽度 BLNAR の 94.1% に *pbp 3-2* 遺伝子変異が検出された。また、BLPAR は *pbp3-1+3-2* 遺伝子変異が認められた。

インフルエンザ菌を 2 回検出した 5 名の耐性遺伝子の変化をみると、変異が減少したのは 4 名 (初回 *pbp3-1+3-2* 変異 2 名、*pbp3-2* 変異 2 名)、変異が増加したのは 1 名 (初回変異なし) であった。

考 察

A 群溶レン菌は小児の咽頭炎の主要な病原菌で、発症後急性糸球体腎炎、リウマチ熱などの二次疾患を起こすことがある。また、致

死率の高い劇症溶レン菌感染症の原因菌としても知られている。本県の A 群溶レン菌 T 型別の年次推移を表 7 に示した。全国の報告では毎年 T-12 型、1 型、4 型が主要型であり、この 3 つの型で分離数の 50% 以上を占めている¹⁾。福島県も同様な傾向を示しており、平成 16 年は 3 つの型で分離数の 78.6% を占めた。この割合は平成 15 年 (74.9%) と同程度であるが、今年 T-1 型の分離が増加した (平成 15 年 7.8%、平成 16 年 32.3%)。T-1 型は平成 15 年は前半期に分離が集中し、郡山地区で主に分離されたが (91.7%)、平成 16 年は相双地区が多く (76.3%)、通常分離が少なくなる夏季も分離されている。この型は、劇症溶レン菌感染症では最も多い血清型である。平成 16 年は本県では劇症溶レン菌感染症が 4 例報告され、感染症動向調査として搬入された 1 株を含め、各保健所、病院の御協力で全ての株が収集されている。この 4 例の内 2 例が今年分離が増加した T-1 型であった。

本県では初めて分離された A 群抗原を持つ *Streptococcus dysgalactiae* subsp. *equisimilis* は、日本では 2000 年に検出報告があり、その後分離例が相次いでいる¹⁾。本来、この菌種は C 群または G 群溶レン菌に含まれるが、A 群に型別されるため、A 群溶レン菌つまり *Streptococcus pyogenes* T 型別不能と、誤同定してしまう危険性がある。しかし、溶血の程度が A 群溶レン菌と異なり、C 群 G 群の溶血と同様であることから、容易に間違いに気づくことができる。この菌株は、今年劇症溶レン菌として衛生微生物協議会溶血レンサ球菌レファレンス北海道・東北・新潟支部センターに搬入された株の中にも 1 株含まれており、誤同定や表記上の混乱を起こさないよう注意が必要である。

表7 A群溶レン菌T型別の年次推移(平成元年～16年)

	1	2	3	4	6	8	9	11	12	13	14/49	18	22	23	25	28	B3264 型不明	合計	
H.1	60		1	95	37			2	102	1		3	3			7	5	15	331
%	18.1		0.3	28.7	11.2			0.6	30.8	0.3		0.9	0.9			2.1	1.5	4.5	100
H.2	39		5	101	55		1	14	75	3		2	10			29	8	22	364
%	10.7		1.4	27.7	15.1		0.3	3.8	20.6	0.8		0.5	2.7			8.0	2.2	6.0	100
H.3	69	3	2	157	16		2	2	24	212		3	2	27		19	21	25	584
%	11.8	0.5	0.3	26.9	2.7		0.3	0.3	4.1	36.3		0.3	4.6			3.3	3.6	4.3	100
H.4	175		31	129			1	1	18	89		2	1	12		5	65	143	672
%	26.0		4.6	19.2			0.1	0.1	2.7	13.2		0.3	0.1	1.8		0.7	9.7	21.3	100
H.5	85		35	190	1			34	123	4		24	17			31	61	81	686
%	12.4		5.1	27.7	0.1			5.0	17.9	0.6		3.5	2.5			4.5	8.9	11.8	100
H.6	110		15	172	2			21	265			95	9		1	40	18	36	784
%	14.0		1.9	21.9	0.3			2.7	33.8			12.1	1.1		0.1	5.1	2.3	4.6	100
H.7	48	1	2	116	2			9	122			9	4			36	17	14	380
%	12.6	0.3	0.5	30.5	0.5			2.4	32.1			2.4	1.1			9.5	4.5	3.7	100
H.8	125			103	111			7	41			4				18	7	54	470
%	26.6			21.9	23.6			1.5	8.7			0.9				3.8	1.5	11.5	100
H.9	82	4		66	39			7	61				4			25	11	17	316
%	25.9	1.3		20.9	12.3			2.2	19.3				1.3			7.9	3.5	5.4	100
H.10	58	17		57	37			6	100		1		1		42	43	10	18	390
%	14.9	4.4		14.6	9.5			1.5	25.6		0.3		0.3		10.8	11.0	2.6	4.6	100
H.11	55	5		68	3		1	3	59	4			1		66	42	6	44	357
%	15.4	1.4		19.0	0.8		0.3	0.8	16.5	1.1			0.3		18.5	11.8	1.7	12.3	100
H.12	51	4		22	34			1	74		1		6		16	8	14	10	241
%	21.2	1.7		9.1	14.1			0.4	30.7		0.4		2.5		6.6	3.3	5.8	4.1	100
H.13	84	5	9	46	7			1	97	1					6	10	8	5	279
%	30.1	1.8	3.2	16.5	2.5			0.4	34.8	0.4					2.2	3.6	2.9	1.8	100
H.14	23	17	40	97	3			4	58						11	18	5	3	279
%	8.2	6.1	14.3	34.8	1.1			1.4	20.8						3.9	6.5	1.8	1.1	100
H.15	24	1	17	107				1	99	1				1	11	12	27	6	307
%	7.8	0.3	5.5	34.9				0.3	32.2	0.3				0.3	3.6	3.9	8.8	2.0	100
H.16	80	1	2	42	18			4	73	1					8	4	11	4	248
%	32.3	0.4	0.8	16.9	7.3			1.6	29.4	0.4					3.2	1.6	4.4	1.6	100
合計	1168	58	159	1568	365	3	5	156	1650	20	2	140	94	1	161	347	294	497	6688
%	17.5	0.9	2.4	23.4	5.5	0.04	0.1	2.3	24.7	0.3	0.03	2.1	1.4	0.0	2.4	5.2	4.4	7.4	100

細菌性髄膜炎は1999年4月～2001年12月までに国立感染症情報センターに報告された中では、インフルエンザ菌によるものが最も多く、次いで肺炎球菌、B群溶レン菌、大腸菌等が原因菌であった²⁾。

B群溶レン菌は膣等に常在し、出産時新生児感染を起こし髄膜炎を発症することが知られている。このため妊娠後期にB群溶レン菌をスクリーニングし、必要に応じ分娩時抗菌薬を予防投与することで新生児B群溶レン菌感染は減少可能である。今年のB群溶レン菌が分離された髄膜炎患者は0ヶ月児で母親からもB群の保有が報告されている。母親分離株は搬入されず、児からの血清型a型と同型が確認できないが、出産時垂直感染の可能性が推察される。また、他のB群溶レン菌分離患者も0歳の割合が高く(54.5%)、母親のB群溶レン菌保有との関連が伺われる。

肺炎、細菌性髄膜炎の主要な病原菌である肺炎球菌とインフルエンザ菌は共に薬剤耐性化が進み問題とされている²⁾。生方は2000年11月～2001年10月に解析した肺炎球菌性髄膜炎起因菌200株で74.5%、インフルエンザ

菌性髄膜炎起因菌203株で44.3%に耐性遺伝子を検出している²⁾。また、阿部らは2001年11月から2002年3月に小児呼吸器感染症患者から分離された69株では、ペニシリン耐性遺伝子は87.0%、マクロライド耐性遺伝子は89.9%に認められたと報告している³⁾。当所では平成14年から薬剤耐性遺伝子を検索しており⁴⁾⁵⁾、今年、肺炎球菌は87.2%にペニシリン耐性遺伝子が認められ、平成14年84.7%、平成15年80.5%と同程度であった。また、NCCLSの判定基準でPSSPに分類された株の53.6%に変異を認め、平成14年45.7%、平成15年60.5%であり、やや減少傾向を示していた。一方肺炎球菌のマクロライド耐性に関しては、91.3%が耐性遺伝子を保有し、平成14年79.5%、平成15年77.9%より増加していた。また、インフルエンザ菌は50.7%にペニシリン耐性遺伝子が認められ、平成14年83.3%、平成15年71.8%であった。この減少傾向は搬入菌株の偏りも影響していると思われる。また、NCCLSの判定基準でBLNASに分類された株では16.2%に変異を認め、平成15年16.1%と同程度であった。

PBP の変異によるペニシリン系薬剤に対する耐性は、肺炎球菌、インフルエンザ菌共に昨年より更に耐性化が進むと思われていたが、維持または減少の傾向が伺える。また、重複検出された菌株の耐性遺伝子変異では、増加、減少傾向は認められない。PBP の変異にはセフェム系薬剤の使用が関係するとされ、薬剤耐性対策として、最近では軽い風邪の治療には抗菌薬の使用を控える傾向がみられている。耐性肺炎球菌の分離率は国や地域で異なる事が知られており、例えば 1999～2000 年にかけて世界的に行われた肺炎球菌の感受性調査では、フランスで 46%、ドイツで 8.4%である。背景には抗菌薬の投与方法に大きな違いが認められ、フランスでは抗菌薬の不適切な使用と耐性についてキャンペーンをしている⁶⁾。この調査時日本は 64%であった。今年本県では肺炎球菌は NCCLS の判定基準で 74.0%、遺伝子上は 87.2%が耐性である。患者側はむやみに抗菌薬投与を要求することなく、医療側は迅速に病原体診断を行い、抗菌薬の適切な使用を守ることが大切である。今後も薬剤耐性菌の動向に注意する必要がある。

まとめ

1. 平成 16 年 1 月から 12 月まで採取された検体 662 件から 597 株の細菌を分離した。
2. A 群溶レン菌 248 株は T-1, 4, 12 型が 7 割を占めた。T-1 型の増加傾向が認められた。
3. A 群溶レン菌は 1～6 月、11～12 月に 8 割が検出され、患者の年齢は 4～6 歳が 4 割を占めた。
4. 他の溶レン菌は B 群 11 株、C 群 3 株、G 群 16 株が分離された。
5. 腸管系病原菌はサルモネラ・エンテリティディス等 22 株が分離された。他の分離菌は、クリプトコッカス・ネオフォルマンズ、百日咳菌、破傷風菌各 1 株であった。
6. 肺炎球菌 219 株の薬剤耐性遺伝子検査により 87.2%に変異が認められ、ペニシリン感受性肺炎球菌 12.8%、ペニシリン中等度耐性肺炎球菌 32.0%、ペニシリン耐性肺炎球菌 55.2%であった。マクロライド耐性遺伝子は 91.3%に認められた。
7. インフルエンザ菌 71 株の薬剤耐性遺伝子

検査により、50.7%に変異が認められ、
-ラクタマーゼ陰性アンピシリン感受性インフルエンザ菌 49.3%、
-ラクタマーゼ陰性アンピシリン軽度耐性インフルエンザ菌 1.4%、
-ラクタマーゼ陰性アンピシリン耐性インフルエンザ菌 47.9%、
-ラクタマーゼ陽性アモキシリン/クラバン酸耐性- インフルエンザ菌 1.4%となった。

8. 検出菌株は感染症発生時の疫学調査、ワクチンのデータベース等に利用される。県内偏りのない定点医療機関の協力を得る事で、さらに効果的な感染症対策に貢献できるものと思われる。

謝 辞

検体採取等本事業にご協力いただいた病原体定点の医療機関の諸先生方に深謝いたします。

引用文献

1. 国立感染症研究所：〈特集〉溶血レンサ球菌感染症 2000～2004：病原微生物検出情報，25，252～258，2004。
2. 国立感染症研究所：〈特集〉細菌性髄膜炎 2001 現在：病原微生物検出情報，23，31～37，2002。
3. 阿部祥英，三浦克志，他：小児呼吸器感染症患者から分離された肺炎球菌の変異遺伝子に関する検討，小児感染免疫，16，173～178，2004。
4. 平沢恭子，須釜久美子，他：平成 14 年感染症発生動向調査事業報告（細菌），福島県衛生研究所年報，20，46～54，2002。
5. 平沢恭子，須釜久美子，他：平成 15 年感染症発生動向調査事業報告（細菌），福島県衛生研究所年報，21，63～70，2003。
6. 国立感染症研究所：〈薬剤耐性菌情報〉フランスとドイツで耐性肺炎球菌の分離率が異なる背景，病原微生物検出情報，24，17，2003。

2003/2004 シーズンの県内におけるインフルエンザの流行状況

福島県衛生研究所 微生物グループ ウイルス

要 旨

今シーズン（2003/2004）の県内のインフルエンザ患者は、46 週から報告され、5 週をピークとし、その後減少し 22 週まで報告が続いた。ピーク時における定点あたりの報告数は 31.8 人と、昨シーズン（2002/2003）と比較し、規模の小さな流行であった。

分離ウイルス型別では、A 香港型 224 株（97.8%）、B 型 5 株（2.2%）と A 香港型が大部分を占めた。B 型分離株は昨年と異なり山形系統株であった。

H I 抗体価の保有状況に関しては、A 型では学童層で比較的保有が見られるが、20 歳以上では低い保有状況にある。また、B 型では、全年齢層において低い保有状況にある。

キーワード：インフルエンザ A 香港型

はじめに

当所では感染症発生動向調査に基づき県内の医療機関より搬入された検体について、ウイルス検索を行っているが、その結果、県内における今シーズン（2003/2004）のインフルエンザは A 香港型（H3）による流行であり、昨シーズン（2002/2003）に比較して規模の小さなものであった。

そこで、今シーズンの県内におけるインフルエンザ流行状況をより明らかにするため、分離状況および患者情報に加え、抗体保有状況の概要を報告する。

材 料

1. ウイルス検索

平成 15 年 10 月から平成 16 年 6 月まで、感染症発生動向調査およびインフルエンザ防疫対策により県内 8 保健所管内の 10 医療機関から搬入された、1,060 件（1,032 症例）を用いた。検体内訳は、咽頭ぬぐい液 992 件、髄液 64 件、気管吸引液 1 件、喀痰 2 件、唾液 1 件であった。

2. 血清学的検査

感染症流行予測調査事業のインフルエンザ感受性調査として、流行開始前の 15 年 7 月 31 日から 10 月 31 日までに、県北地区の健康成人、県中地区、いわき地区の医療機関受診者の承諾を得、採取した

合計 188 件（0～78 歳）の血清を検査に供した。年齢別の検体数を表 1 に示す。

年齢階層	検体数
0～4	17
5～9	12
10～14	16
15～19	18
20～29	25
30～39	25
40～49	25
50～59	25
60以上	25
合計	188

方 法

1. 流行状況の把握

福島県感染症週報による患者発生状況及び、福島県教育庁教育指導領域まとめによる公立校におけるインフルエンザ発生状況により、患者発生状況の集計を行った。

2. ウイルス検索及び同定

感染症発生動向調査により搬入された検体の内、呼吸器系検体及び髄液検体について、RD-18s 細胞、HEp-2 細胞、Vero 細胞及び HMV 細胞に加え、MDCK 細胞に、インフルエンザ防疫対策検体に関しては MDCK 細胞に接種し、2 代継代培養を行っ

た．MDCK 細胞により細胞変性効果（CPE）が現れたものは、国立感染症研究所（以下感染研）より分与されたフェレット抗血清を使用し 0.5%モルモット血球による赤血球凝集抑制試験（以下 HI 試験）により同定を行った．

抗血清使用株を以下に示す．

A/New Caledonia/20/99（A ソ連型）（ワクチン株）

A/Moscow/13/98（A ソ連型）

A/Panama/2007/99（A 香港型）（ワクチン株）

A/Kumamoto/102/2002（A 香港型）

B/Shandong/7/97（ビクトリア系）（ワクチン株）

B/Johannesburg/5/99（山形系）

3．血清学的検査

血清を RDE（ デンカ生研製）で処理した後、平成 15 年度感染症流行予測調査実施要領により HI 試験を行った．抗原は、感染研より分与された B/Shanghai/44/2003（山形系）及び、デンカ生研製の A/New Caledonia/20/99（A ソ連型）、A/Panama/2007/99（A 香港型）B/Shandong/7/97（ビクトリア系）の 4 株を使用した．

結 果

1．流行状況

1) 県内における患者発生状況

今シーズンのインフルエンザ患者報告数を図 1 に示した¹⁾ 県内では 46 週（郡山市）の報告で始まり、50 週に流行開始の指標と考えられる定点あたりの報告数 1.0 人を超え、1 週に減少が見られたが以降増加し 5 週でピークとなった．その後減少し、14 週には定点あたりの報告数が 0.9 人となり終息した．また、患者報告のあった 46～22 週の平均報告数は 6.6 人であった．この間の患者累計は 15,349 人、ピーク時の定点あたりの報告数は 31.8 人となり 昨シーズンに比較し流行の規模は小さく、ピーク時期は 1 週早いものとなった（表 2）．

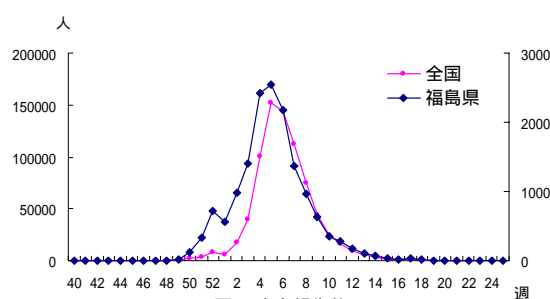


図1 患者報告数

表2 県内のインフルエンザ患者報告数

シーズン	患者数 (35～34週)	ピーク時定点 あたり報告数
1996/1997	13,170	25.5(51週)
1997/1998	13,022	50.1(5週)
1998/1999	8,194	31.1(4週)
1999/2000	12,468	38.0(5週)
2000/2001	5,973	17.5(11週)
2001/2002	11,876	29.8(8週)
2002/2003	19,144	37.6(6週)
2003/2004	*15,349	31.8(5週)

*35～25週（感染症発生動向調査による）

地域別の患者報告状況を見ると（図 2），県北，会津，南会津が 50 週，県南，郡山市が 51 週，県中，相双が 52 週，いわき市が 1 週に定点あたりの報告数が 1.0 人を超え，流行期に入り，ピークは 4～6 週であった．また，県北以外の地区では，定点あたりの報告数が 1.0 を超えた後 4～6 週でピークに達したのに対し，県北では 8 週後であった．その後の流行の終息にはバラツキが見られ，県中では 11 週に定点あたりの報告数が 1.0 人を下回ったのに対し，県南，会津では 17 週まで 1.0 人前後の流行が続いた．ピーク時の定点あたりの報告数は，県南が 55 人と最も多く，次いでいわき市（49 人），郡山市（46 人），相双（40 人），会津（28 人），県中（24 人），県北（19 人），南会津（14 人）の順となった．46～22 週の平均報告数は，県南が最も多く 9.6 人，次いで郡山市（8.1 人），会津（7.9 人），いわき市（7.0 人），相双（6.2 人），県北（5.6 人），南会津（4.8 人），県中（3.6 人）の順であった．

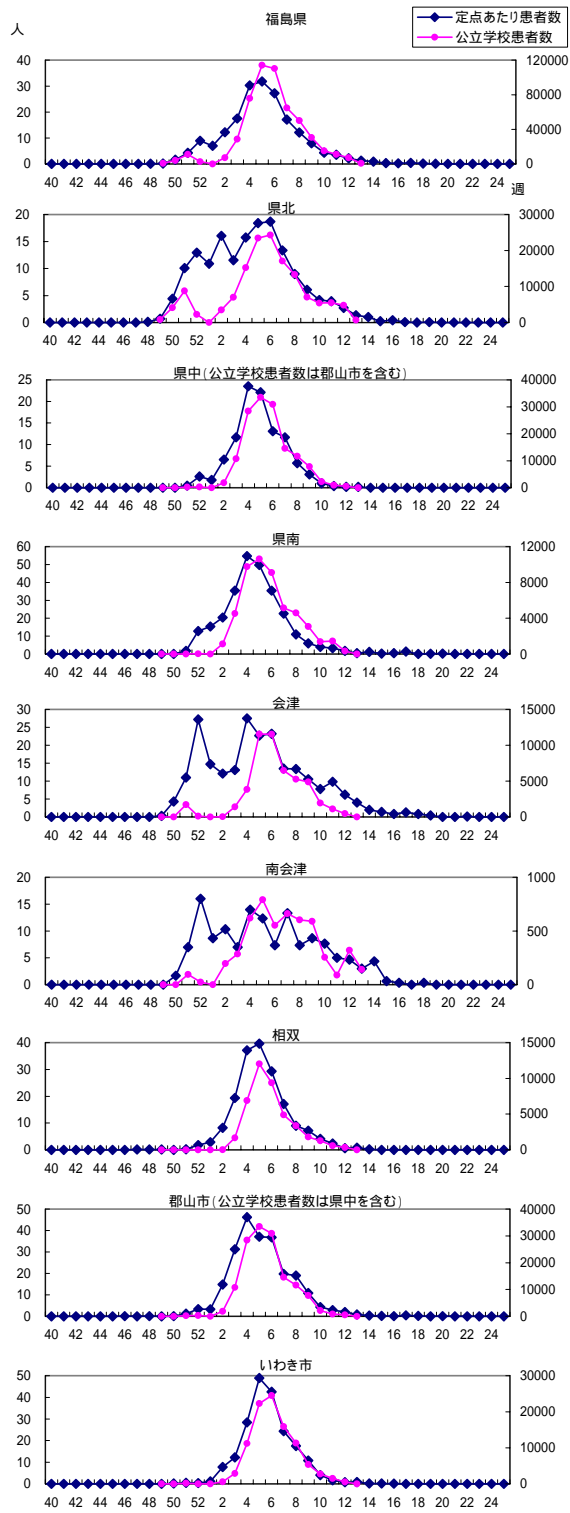


図2 地域別患者報告状況及び公立校患者欠席者数

2) 公立校におけるインフルエンザ発生状況

公立小中学校の患者欠席者状況を図2に示す。三

学期の開始(2週)と同時に患者欠席者が増加し、5週でピークを迎えた。

地域別による報告状況を見ると、県北、会津、南会津では冬休み直前の51週から報告数の増加が見られており、公立学校患者欠席者数は感染症発生動向調査と同様であった。

49週から13週までの患者欠席者数は53万5,050人となり、昨シーズンの67万人と比較して学童間でも小さな流行であった。

2. ウイルス分離状況

1) 週別ウイルス分離状況

県内の週別ウイルス分離状況を図3表3に示す。今シーズンは、49週に県北保健所管内の検体から分離されたA香港型で始まり、その後、3週(分離のピーク時)までに103株が分離されたが、すべてA香港型であった。A香港型は3週をピークに、49週から18週までに224株が分離された。一方、B型は10週からようやく分離され始め、20週までに5株が分離されたのみであった。昨シーズンはA香港型とB型が約3対2の割合で分離されていたのに対し、今シーズンはほとんどがA香港型であった。

保健所管内別に分離状況の推移を見ると(図4)、県北では49週という早い時期から分離されたが、相双郡山市では他の地域に比較し遅い傾向にあり、このことは、前述した患者報告状況と一致するものとなった。

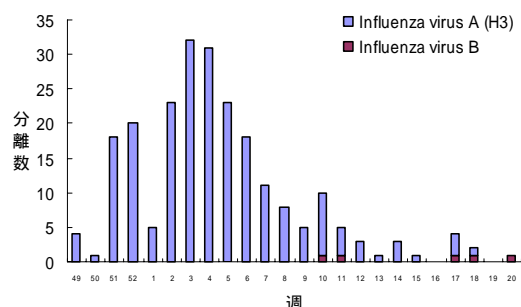


図3 福島県週別インフルエンザウイルス分離状況

表3 週別ウイルス分離状況

分離ウイルス	月 週	12				1				2				3				4				5				計
		49	50	51	52	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	
Influenza virus A (H3)		4	1	18	20	5	23	32	31	23	18	11	8	5	9	4	3	1	3	1	0	3	1	0	0	224
Influenza virus B		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	1	1	0	5
総計		4	1	18	20	5	23	32	31	23	18	11	8	5	10	5	3	1	3	1	0	4	2	0	1	229

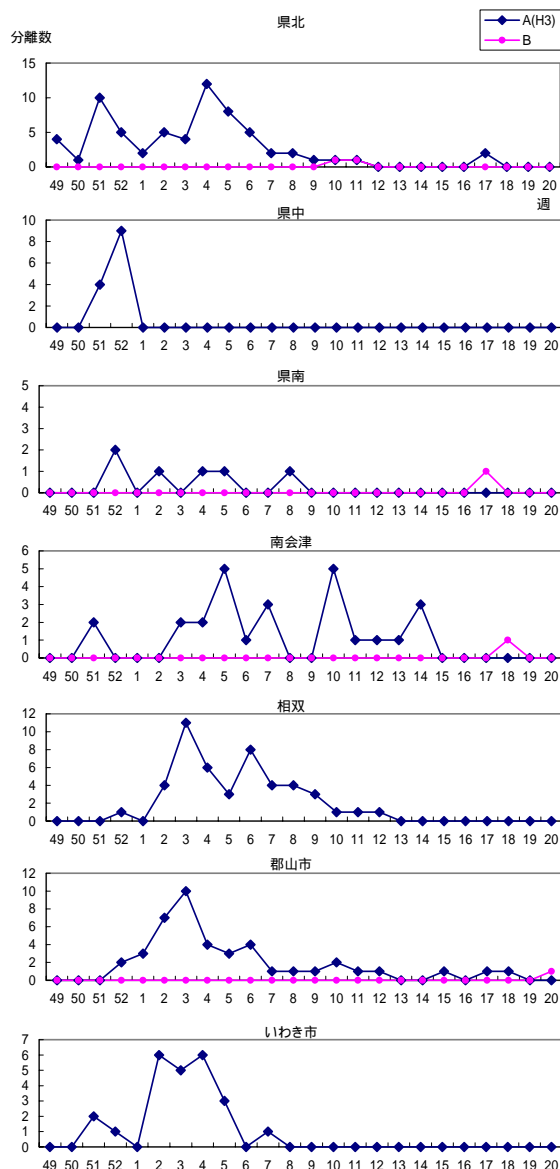


図4 保健所別ウイルス分離状況

2) 年齢区分別によるウイルス分離状況

年齢区分別のウイルス分離状況を図5に示した。分離例数は0～4歳が113例(49.3%)と約半数を占め、次いで10～14歳が56例(24.5%)、5～9歳が55例(24.0%)、15歳以上はわずか5例(2.2%)

に過ぎなかった。

また、分離型別では、今シーズン分離されたB型5株のうち、4株が0～4歳、1株が5歳であり、5歳以下の学童期前の年齢層からの分離であった。

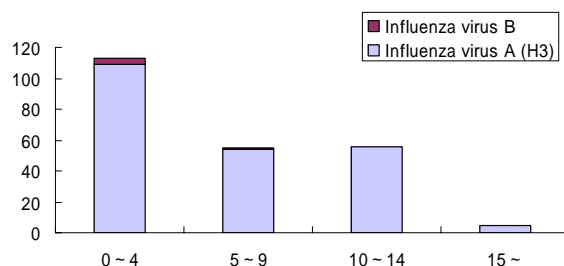


図5 年齢区分別ウイルス分離状況

3) 分離陽性者の診断名および臨床症状

ウイルス分離陽性者の初診時における診断名を表4に示す。インフルエンザが201例(87.8%)と最も多く、次いで上気道炎14例(6.1%)であった。

次に、臨床症状を表5に示す。発現率は発熱(98.7%)、上気道炎(50.2%)で高く、次いで下気道炎(29.7%)であった。また、体温の状況を見ると、38.1～40を呈した患者が91.6%と大多数を占めていた。分離型別では、症例数は少ないが、B型の痙攣が40%と高率であった。

表4 ウイルス分離陽性者の診断名(初診時)

診断名	症例数
インフルエンザ	178
インフルエンザ・クルーズ症候群	1
インフルエンザ・けいれん	1
インフルエンザ・けいれん重積発作	1
インフルエンザ・気管支炎	6
インフルエンザ・急性咽頭炎	1
インフルエンザ・急性気管支炎	3
インフルエンザ・急性喉頭炎	1
インフルエンザ・急性肺炎	1
インフルエンザ・熱性けいれん	4
インフルエンザ・肺炎	1
インフルエンザ・溶連菌混合感染	1
インフルエンザ脳症	2
咽頭炎	5
咽頭炎・熱性けいれん	1
急性扁桃炎・溶連菌感染症疑	1
扁桃炎	4
扁桃炎～気管支炎	2
扁桃炎・胃腸炎	1
気管支炎	6
肺炎	4
クルーズ症候群	1
熱性けいれん	1
川崎病	1
記載なし	1
合計	229

免疫の指標と見なされる抗体価 40 倍以上においては、0～19 歳で 40%以上の保有が見られるが、20 歳以上では低い保有状況である。

2) A/Panama/2007/99 (A 香港型)

この株は今シーズンのワクチン株であるが、昨シーズンに国内で分離された A 香港型の 58%はこのワクチン株の変異株であった²⁾。

抗体価 10 倍以上の保有状況は 5～19 歳で 90%前後と高く 50 歳以上においても 70%以上の高い保有状況であるが、0～4 歳では 23%と低い保有状況である。40 倍以上では 5～19 歳、60 歳以上で 30%以上保有している一方、0～4 歳で 12%、20～49 歳では 10%以下の低い保有状況である。

3) B/Shandong/7/97 (ビクトリア系)

この株は今シーズンのワクチン株で、昨シーズンに国内で分離された B 型株の 97%がビクトリア系統株であり²⁾ B型の流行は全体の約 30%であった。

抗体価 10 倍以上で見ると、15～39 歳で 50%前後保有しているが、0～9 歳、50 歳代では 10%未満の低い保有状況である。40 倍以上では 15～39 歳で 20%程度の保有が見られるが、他の年齢層では低く、特に 0～14 歳、60 歳以上では全く保有していない状況である。

4) B/Shanghai/44/2003 (山形系)

この株は、今シーズンのワクチン株とは異なる山形系統株である。

抗体価 10 倍以上の保有状況は、10～14 歳で最も高く 80%が保有しており、年齢の上昇と共に低下し、50 歳以上ではほとんど保有していない状況である。40 倍以上では 10 歳代で 30%以上の保有が見られるが、他の年齢層は低く、特に 0～4 歳、50 歳以上ではほとんど保有していない状況である。

表5 分離陽性者の臨床症状発現率(%)

	上気道炎	下気道炎	腹痛	悪心嘔吐	筋痛	関節痛	頭痛	意識障害	結核	咳	発熱	発疹	下血
InfA+B	224/249	600/239	13/09	09/18	22/18	04/04	58/04	09/18	09/987	14/54	434/479	18/18	
InfB	5/200	200/200					400/400		100/100		600/400		
計	229/249	602/239	13/09	09/18	22/18	04/04	66/04	09/18	09/987	13/53	438/478	18/18	

3. 血清学的検査(感受性調査)

インフルエンザウイルス感受性調査による HI 抗体価保有状況を図 6、表 6 に示す。調査に用いた 4 株のうち、A/New Caledonia/20/99 (A ソ連型)、A/Panama/2007/99 (A 香港型)、B/Shandong/7/97 (ビクトリア系)は今シーズンのワクチン株である。

1) A/New Caledonia/20/99 (A ソ連型)

この株は今シーズンのワクチン株であり、昨シーズンに国内で分離された A ソ連型は 1 株のみであった²⁾。

抗体価 10 倍以上で見ると、0～19 歳で 50%以上の保有状況にあり、特に 5～9 歳、15～19 歳では 90%程度と高い保有状況である。一方、20～50 歳代では 20%程度の低い保有状況である。有効防御

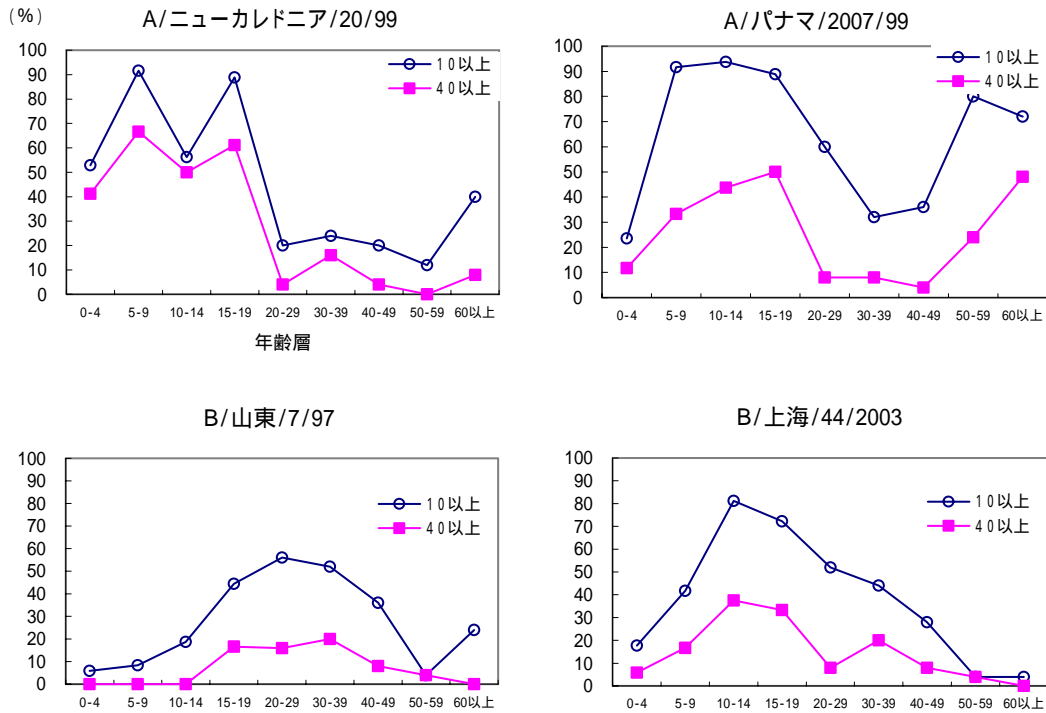


図6 年齢階層別H1抗体保有状況

表6 年齢階層別のインフルエンザ抗体保有状況

A/ニューカレドニア/20/99(Aソ連型) (今季ワクチン株)											
年齢階層	<10	10	20	40	80	160	320	640	1280	2560	計
0~4	8	1	1	4				1	2		17
5~9	1		3	4	3			1			12
10~14	7	1		3	1	4					16
15~19	2	2	3	3	3	3	2				18
20~29	20	3	1	1							25
30~39	19	2		1	2	1					25
40~49	20	2	2	1							25
50~59	22	3									25
60~	15	7	1	1		1					25
計	114	21	11	18	9	9	4	2			188

A/パナマ/2007/99(A香港型) (今季ワクチン株)											
年齢階層	<10	10	20	40	80	160	320	640	1280	2560	計
0~4	13		2	1	1						17
5~9	1	5	2	3	1						12
10~14	1	3	5	2	4	1					16
15~19	2	5	2	4	3	1	1				18
20~29	10	8	5	2							25
30~39	17	6			1		1				25
40~49	16	7	1				1				25
50~59	5	10	4	2	2	2	2				25
60~	7	3	3	7	2	3					25
計	72	47	24	21	14	8	2				188

B/山東/7/97 ビクトリア系 (今季ワクチン株)											
年齢階層	<10	10	20	40	80	160	320	640	1280	2560	計
0~4	16		1								17
5~9	11	1									12
10~14	13	3									16
15~19	10	3	2	2	1						18
20~29	11	7	3	4							25
30~39	12	7	1	4	1						25
40~49	16	6	1	2							25
50~59	24				1						25
60~	19	5	1								25
計	132	32	9	12	3						188

B/上海/44/2003 山形系											
年齢階層	<10	10	20	40	80	160	320	640	1280	2560	計
0~4	14	1	1		1						17
5~9	7	1	2	1	1						12
10~14	3	4	3	2	4						16
15~19	5	3	4	3	2		1				18
20~29	12	6	5	1	1						25
30~39	14	4	2	3	2						25
40~49	18	3	2	1	1						25
50~59	24				1						25
60~	24	1									25
計	121	23	19	11	13		1				188

考 察

1. 県内における患者発生状況

県内におけるインフルエンザ患者発生状況は、昨シーズンと比較し規模の小さいものとなった。地域別に見ると、特に県南、郡山市において、定点あたりの報告数がピーク時および、A6~22週の平均共に、県内を大きく上回っており、これらの地域では他の地域に比較し大きな流行であったと思われる。

2. ウイルス分離状況

今シーズンにおけるウイルス分離は、そのほとんどがA香港型で、B型は僅かに分離された程度であり、A香港型による流行であったと考えられる。

3. HI抗体保有状況

A香港型であるA/Panama/2007/99では、学童層(5~14歳)において高い保有状況にあるが、0~4歳ではそれらに比較し低い保有状況にある。このことが、全体に対する0~4歳の分離の占める割合が49.3%と約半数を占めたことの一要因と考えられる。

謝 辞

本調査を行うにあたり、検体採取にご協力頂いた各医療機関の諸先生方および県民の皆様、国立感染症研究所、県教育庁教育指導領域、保健所職員の方々に深く感謝致します。

- 1) 福島県感染症週報 2003.43 週～2004.25 週
- 2) 国立感染症研究所感染症情報センター 病原微生物検出情報 2003.11

平成 1 6 年
福島県感染症発生動向調査事業報告書
平成 1 7 年 2 月 発行

発 行：福島県衛生研究所

福島県感染症情報センター

〒960 - 8560

福島県福島市方木田字水戸内16番6号

T E L 024 - 546 - 7104 (代)

F A X 024 - 546 - 8364

E -mai fukushimaeiken@mbp.sphere.ne.jp

U R L <http://www.pref.fukushima.jp/eiseikenkyuu/>